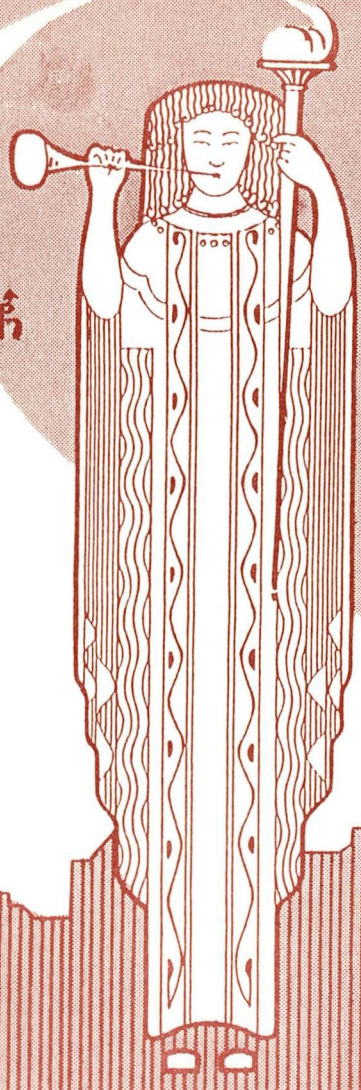
日本建築協會雜誌



第二輯　第二號

大正八年二月二十五日

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク
地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス
會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス
會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ達成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス
賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者
賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會ノ之ヲ推薦ス
終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス
特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス
普通賛助員タラムト欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス
會員ハ會內ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得
名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク
終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ
前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ
前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名
二　副會頭　一名
三　理事長　一名
四　理事　六名
會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス
副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス
理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス
理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得
役員ノ任期ハ貳年トス
理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一　名
二　計　記　一　名
三　編　輯　三　名
四　編輯補　若干名
五　書　記　若干名
主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス
編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス
書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事ノ之ヲ互選ス
編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス
書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トモスコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員長及委員ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク
委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス
理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トモスコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス
委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス
委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得
例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ
一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究
二　調査研究報告ノ發表
三　建築ニ關スル重要事項ノ議決
四　決議事項ノ實行促進
五　會誌ノ發刊
六　建築ニ關スル圖書ノ刊行
七　建築ニ關スル講演會ノ開催
八　建築ニ關スル展覽會ノ公開
九　建築ニ關スル視察
十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會
十一　理想的建築ノ計畫
十二　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾貳圓ヲ本會ニ據出ス
但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ヲ半額トス
一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ス
會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ
特別賛助員ハ特別賛助費年額金六圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金參圓ヲ本會ニ前納スヘシ
但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

第二十二條　本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス
本會ノ財產ハ確實ナル方法ニ依リ理事會ニ於テ之ヲ保管ス

第二十三條　本會ノ會計年度ハ每年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第二十四條　本會ノ財產ニ關スル債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス
本會ノ財產ニ關スル債務及每年ノ收支ハ理事會ニ於テ其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十五條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十六條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

關西建築協會雜誌

改題

大正八年一月

日本建築協會雜誌

關西建築協會改名

日本建築協會

本誌表紙懸賞應募圖案展覽通告

一、日時　大正八年三月一日(土曜日)午後一時―四時

一、會場　大阪市中央公會堂西部二階控室ニ於テ

一、入場無料―但シ本誌通告紙切取リ御持參ノ事

大正八年二月

日本建築協會

コルクタイル

最新の機械と製法を發明せる我社は品質優良
と價格低廉なる点に於て他社の追從を許さず

床敷用

■コルク、タイル　■リノ、タイル　■下敷用コルク板
■コルク疊床　■絶縁用コルク　■其他一般

半額で提供す

他社製品と同等品ならば

製造所
大阪府東成郡城東村鳴野
コルク工業合資會社
電話鮫江三四

一手販賣所
大阪市南區心齋橋筋二丁目
高島屋飯田合名會社裝飾部
電話南自三一至三五

日本建築協會雜誌 第貳輯 第貳號

目次

□ 繪
- □大阪築港の棧橋（三色版）
- □東京市街の現狀（其一、其二、其三）
- □大阪築港の現狀（其一、其二、其三、其四、其五）

△勞働問題と都市建築……會員 片岡安……一
△東京大改造論（二）……會員 片岡安……二
□東京市地圖
△英國に於ける都市計畫法（二）……大阪高等商業學校教授 法學士 伊藤眞雄……二一
△大阪港の將來……大阪市港灣部長 工學博士 直木倫太郎……二七
□大阪築港地圖
△活動寫眞劇場の改良（上）……會員 葛野壯一郎……三八
△都市と建築……都市研究生
□建物建築稅の不法を論ず……神學士 賀川豐彥 演……四八
□都市の心理的基礎……醫學博士 天兒民惠 演……五七
□都市の衛生に就いて

△女流の住宅觀
□家の中で一番大切な處は　足立電氣商會主　足立彌太郎氏夫人　足立民子談　六一
□御化粧室といふものは　原きく子談　六四
△現代社會觀（二）　會員　茅海生　六七
□葬式の沿革と途中行列廢止
△戰後に於ける倫敦の住居問題（下）　會員　MI生
△京都古建築觀（六）　特別賛助員　伊藤清造　八二
△臺灣營林局の事業（一）　會員　谷民藏　八八
△回想錄（下）　會員　野人生　九六
△時報　一〇二
□市區改正委員の任命
□神戸市に於ける都市研究會
□日高氏の近信
△會報　一一〇
□終身賛助員故川島甚兵衛氏
△編輯たより　一一四

附錄

ブリユッセル市建築條例（下）　一一頁

鐵橋
鐵骨家屋
水槽鐵管
煖房
鐵筋煙突
水槽
棧橋
鐵柱
鐵小屋

大阪工場

西區南境川町八十六番地ノ二

電話長西貳五八參番

東京工場

深川區千田町一番地

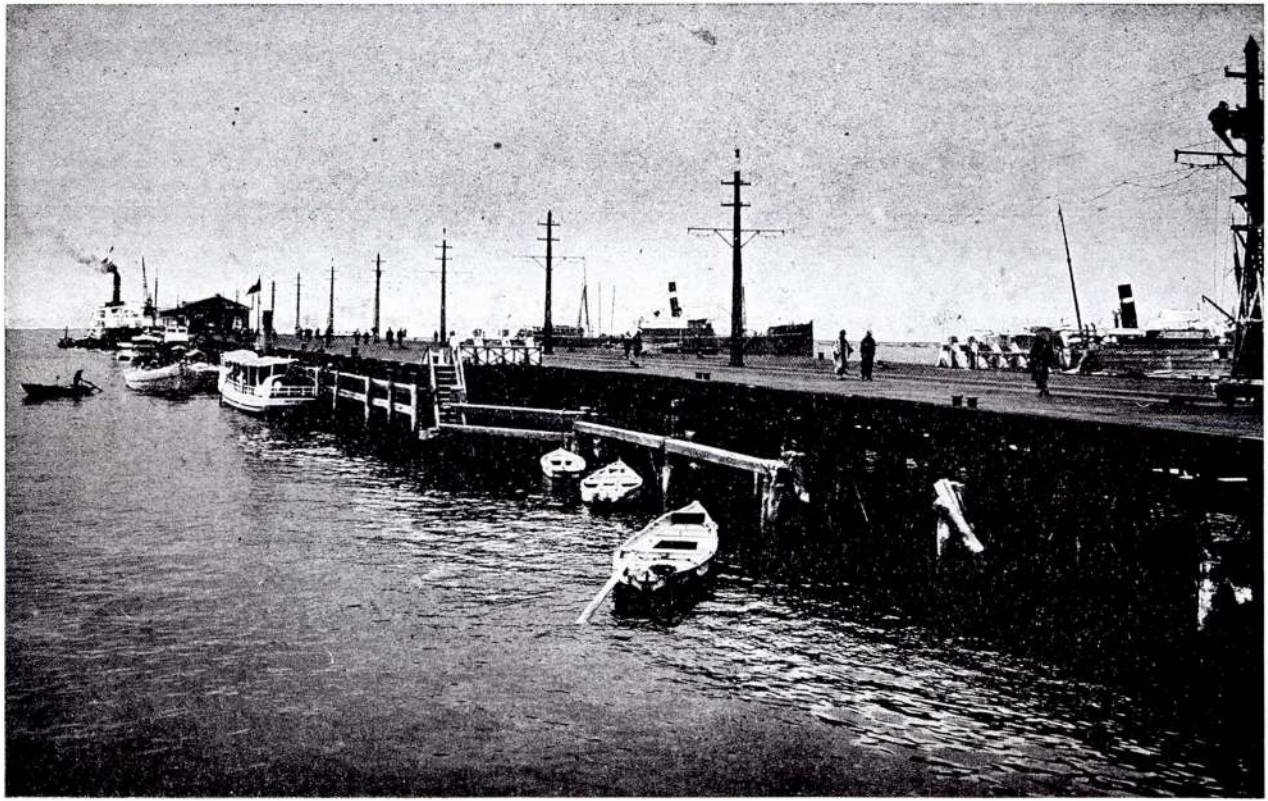
電話本所二五九九番

東京日本橋區楓河岸七號地

株式會社

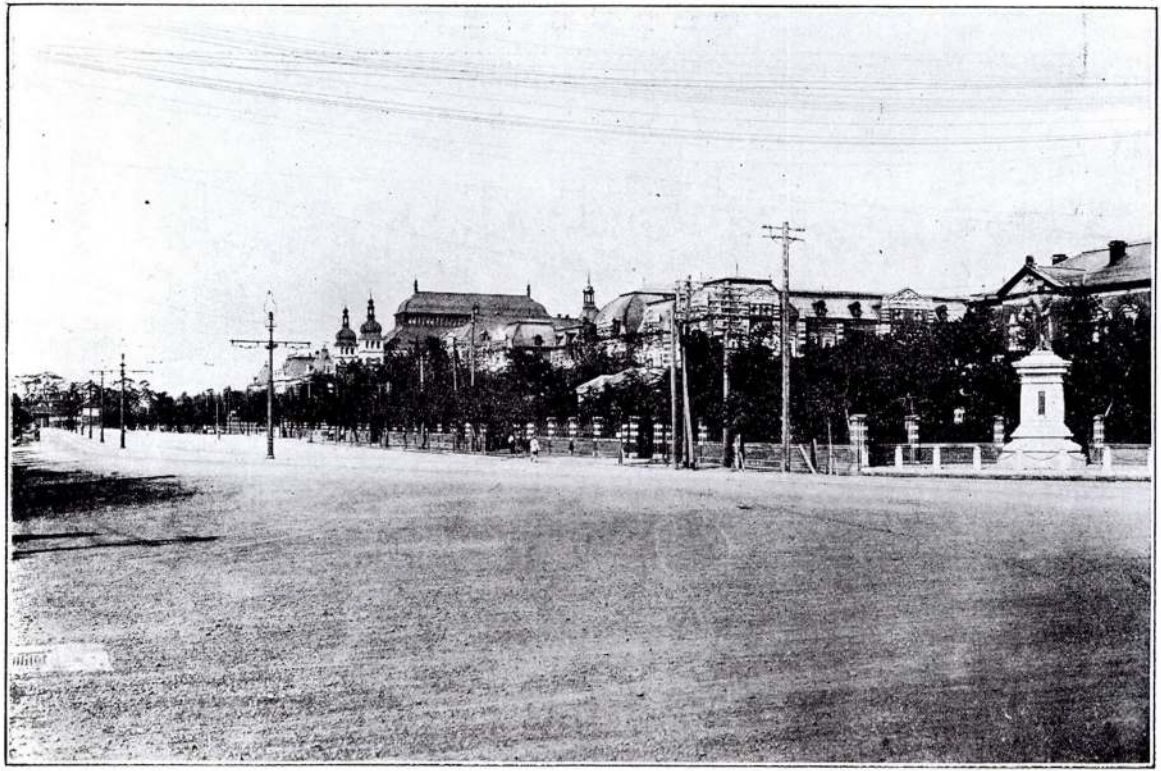
横河橋梁製作所

電話浪花一五七二番

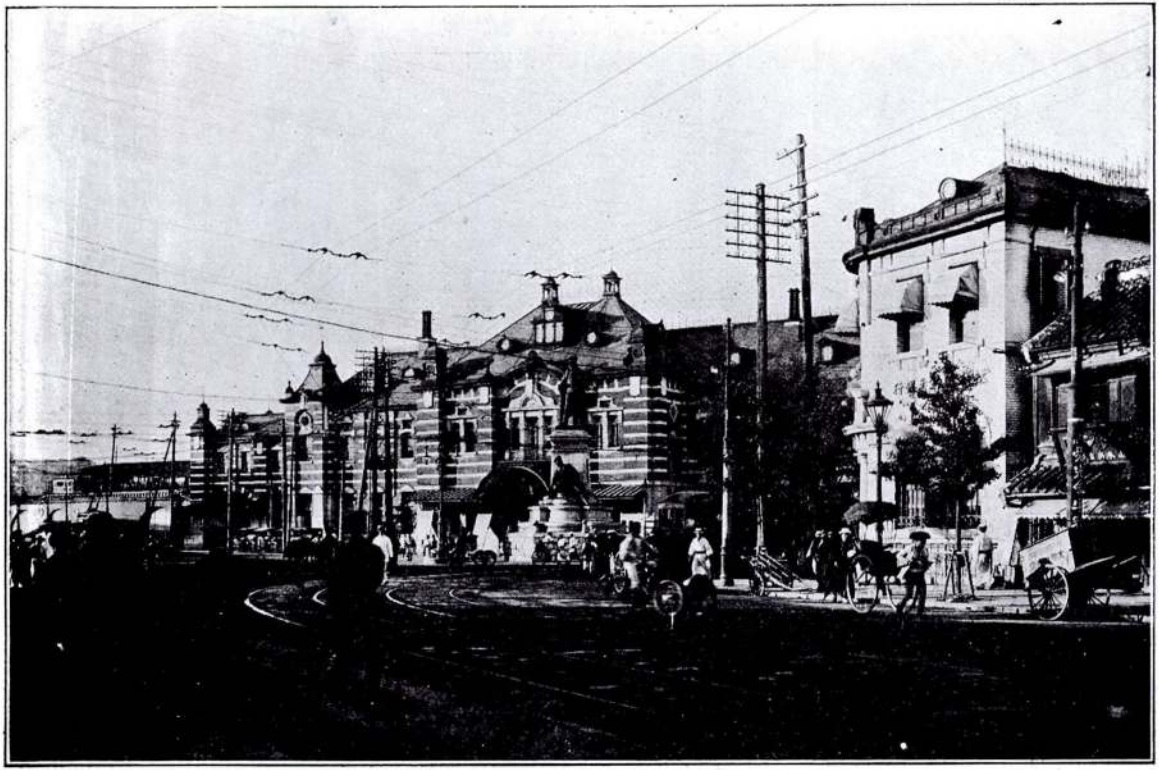


大阪港棧橋の現況

大阪(栗田寫眞製版所)製版印刷

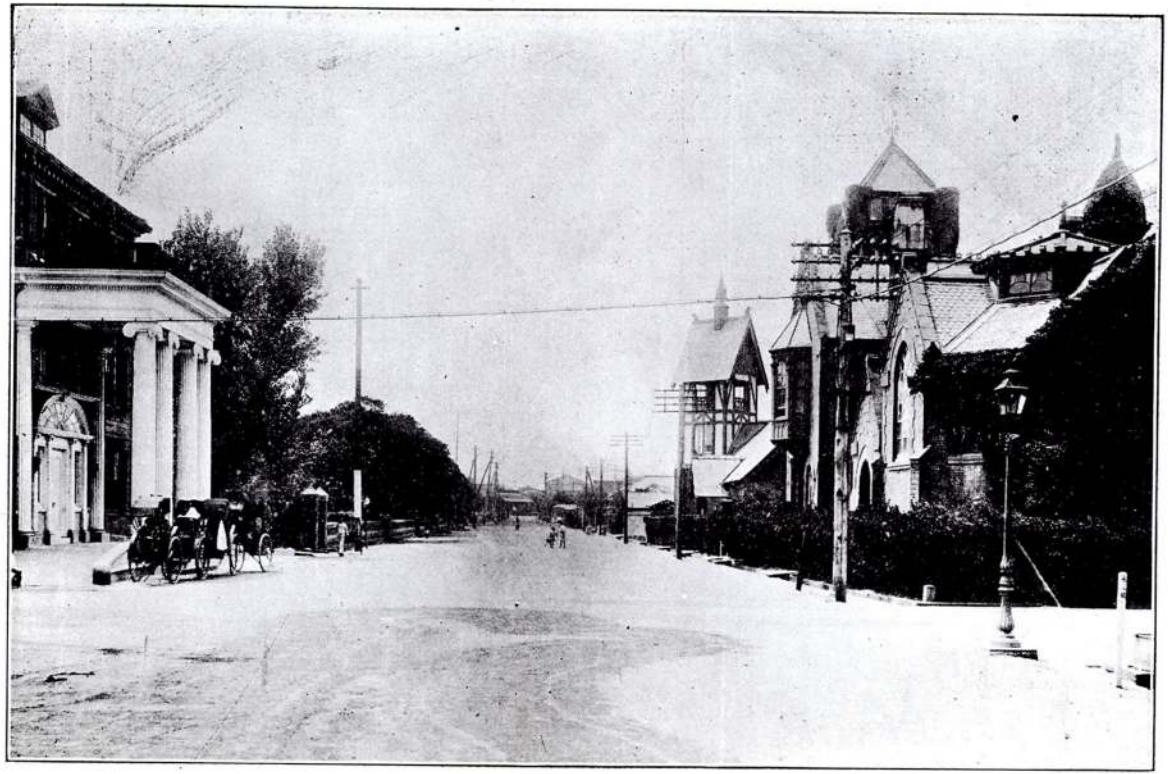


麹町區櫻田門外



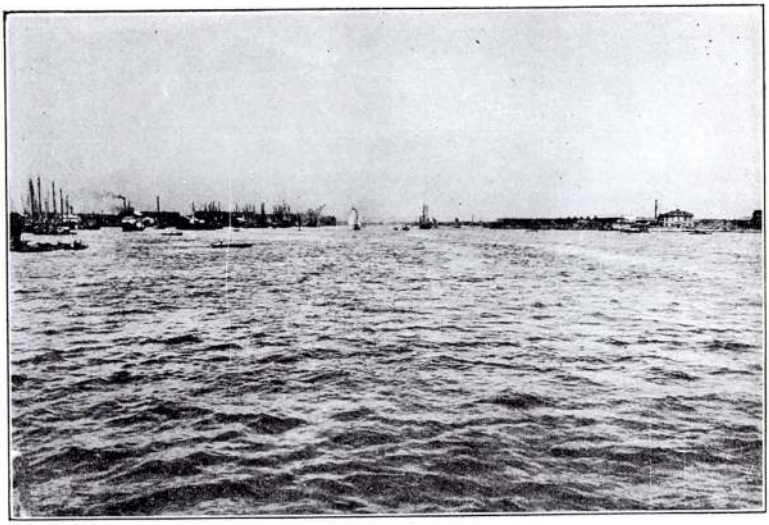
神田區萬世橋附近

東京市街の現狀（其三）

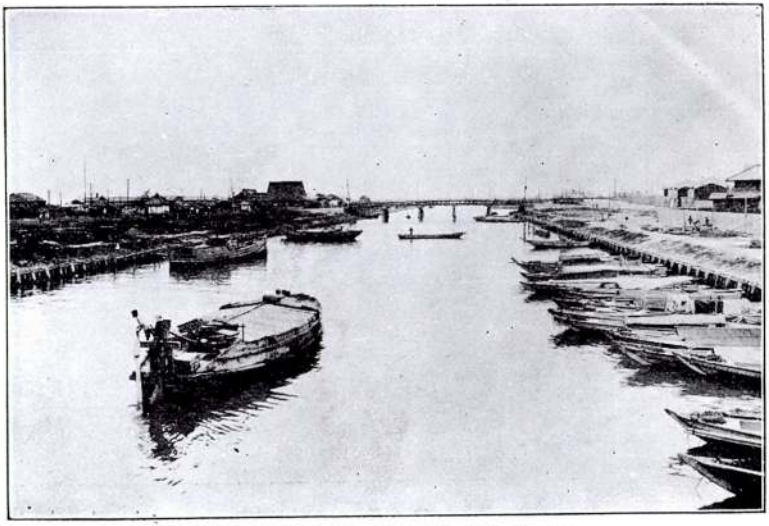


京橋區築地附近

大阪築港の現狀（其一）

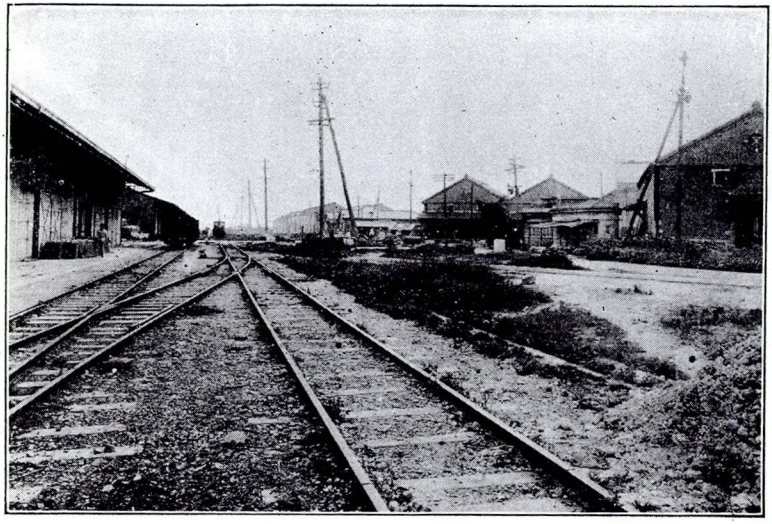


安治川（河口を望む）

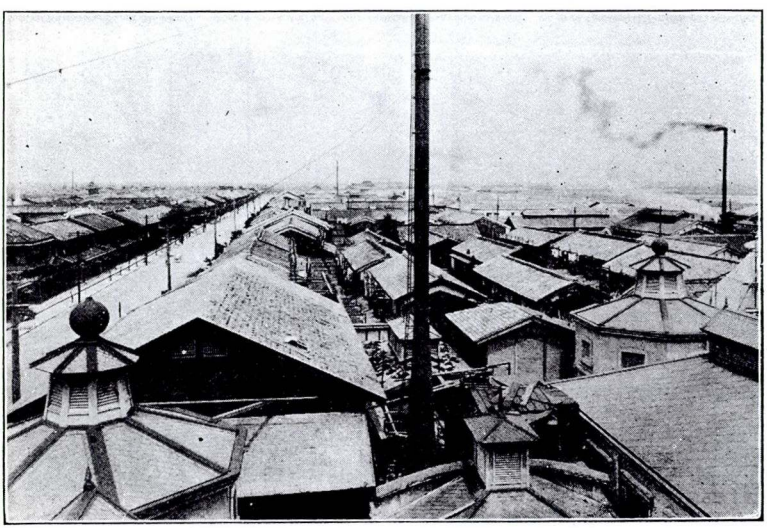


築港運河（千舟橋を望む）

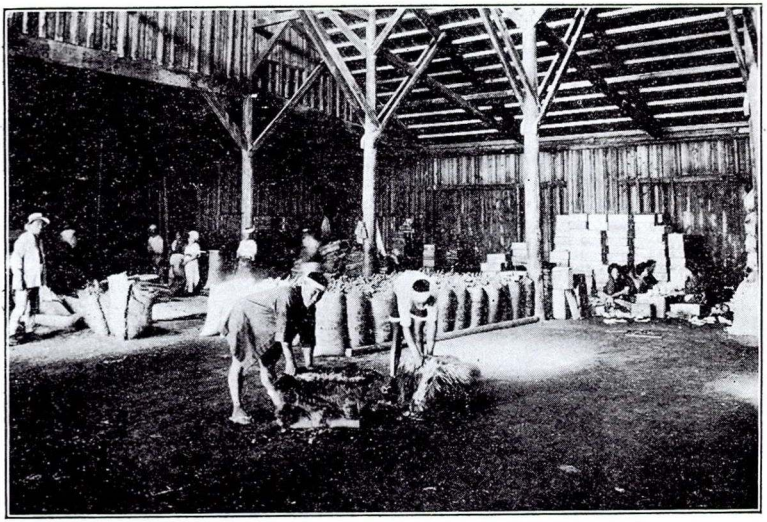
大阪築港の現狀（其二）



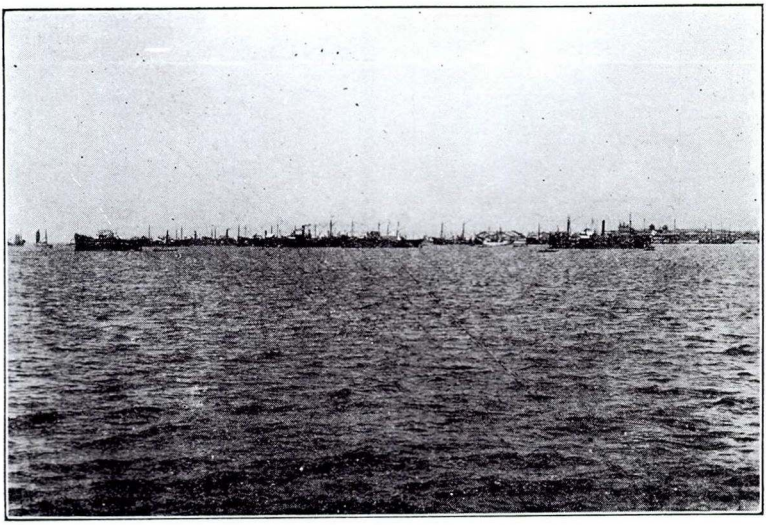
築港倉庫（市有もの）



築港市街（四條通）

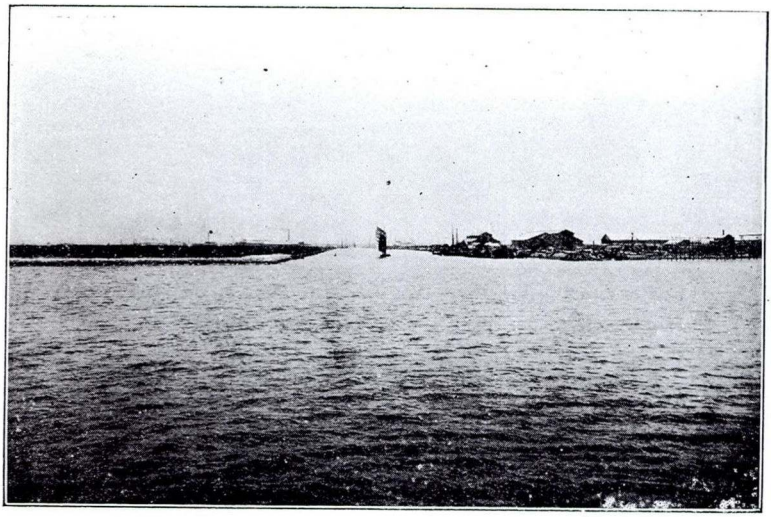


築港倉庫（内部）

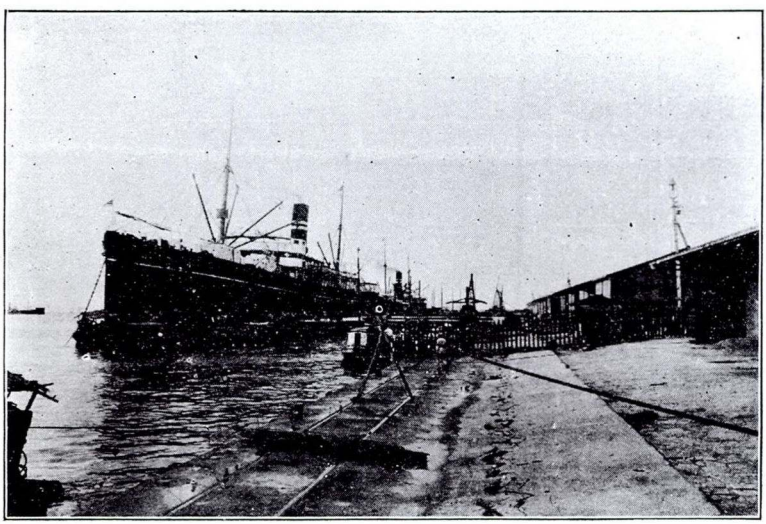


築港々内（汽船輻輳の景）

大阪築港の現狀（其四）

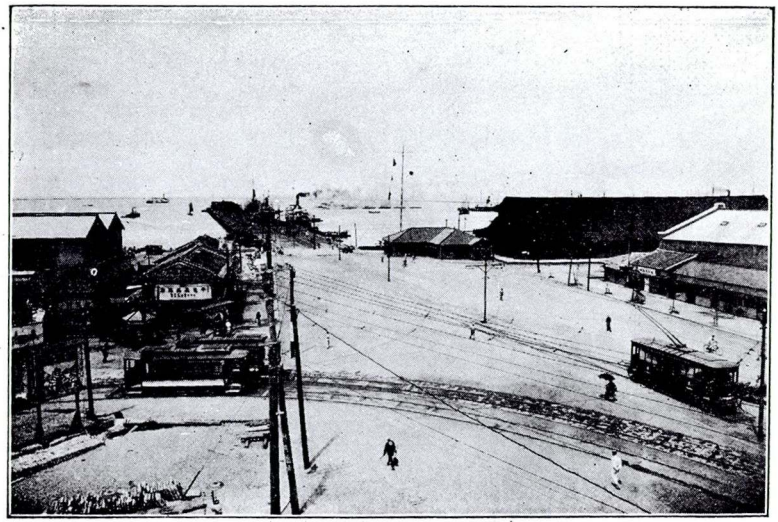


（む望を口河）河運川津木

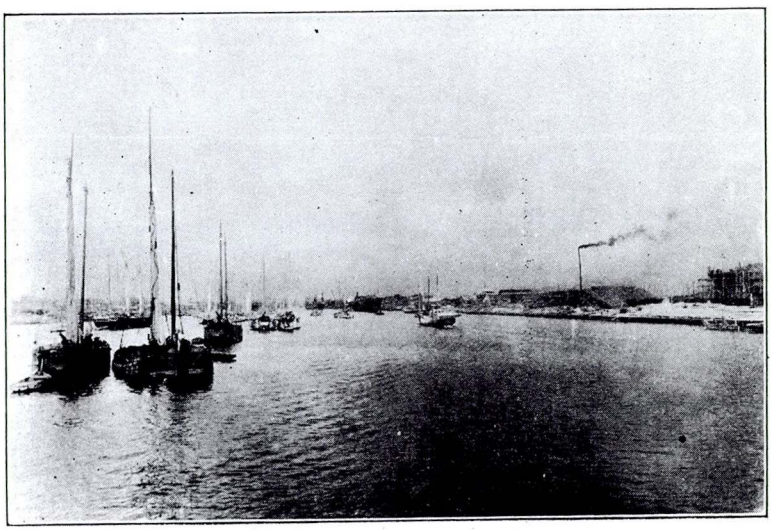


（景の中役荷）岸護港築

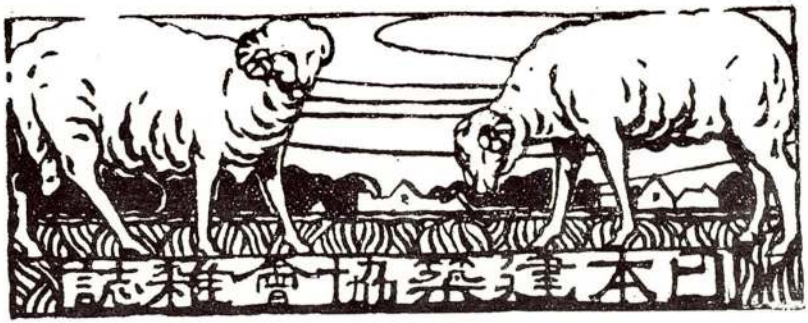
大阪築港の現狀（其五）



築港棧橋（港內遠望）



尻無川の歸帆（上流を望む）



勞働問題と都市建築

戰後各國の社會改造の叫びは今や歐米の天地を撼動し尋いて我國の社會組織の上にも殺到せんとす。而して勞働問題の如きは其先驅として先づ我國朝野官民の間に論議せられつゝあるを見る。近時勞働階級の漸次增加せんとする傾向は、都市發展と共に益々著しき現象となり、其生存競爭は遂に急激なる社會階級戰の端緒を惹起せんとす。茲に於て吾人は今後の我國都市經營の根底に勞働問題の潛在するを感得し、其解決は卽かて都市經營の出發点なるを知らざるべからず。勞働問題の解決には其干與する方面極めて廣しと雖も、都市政策の殆んど凡ては皆其問題の一部に觸れざるはなし都市家屋政策の實現は固より、都市改良工事のあらゆる施工は一として直接間接に彼等勞働階級の向上に資せざるはなきなり。幸にして我國の大都市は近時漸く其改良工事に着手せんとし、尋て家屋政策の實現をも計畫せんとし、都市建築の改良又勃興するに際會す。勞働問題の解決も或は容易に其針路を見出すならんか朝野有識の士は宜しく此間の幾微を洞察して其成果を收むるに努むべし。



東京市大改造論（貳）

會員　片岡安

一　總　說
二　交通狀態より見たる計畫
三　衞生及風紀論
四　經濟上の觀察
五　都市美觀
六　結　論

二　交通狀態より見たる計畫

〔イ〕人口の增加と地域の擴大

我東京市の改造計畫は、交通、衞生、保安、經濟及美觀の各方面より周密なる觀察を下したる後にあらざれば、決して適當なる考案を得ざるべきは前章に於て詳述した通りであるけれども、街衢の系統及幅員に關する根本方針を定め、適實なる交通機關の整備をなすことは、凡ての計畫の根帶

にして恰かも人身の骨骼又は血脈に相當するものである。而して其計畫の立案及處理の如何は直ちに其都市永遠の發展に甚大の影響を與るものであるが故に、現代の文明都市は各其最善の努力を盡して其街路系統の改善と交通機關の整備を計らざるはないのである。之を略言すれば都市改造の根本要件は其都市の交通狀態を現時は固より、遠き將來に亘り最も適切に處理し得るを目標とするのである。

今我東京市の交通狀態を現在より將來に亘り最も善く處理し得る計畫を論ずるに先だち、先づ其人口と其增加量の如何なる程度のものなるや、又其地域は如何なる程度に擴大さるゝやを一と通り考へて置かねばならぬのである。東京の現在の人口及地積は東京市役所の調査により、其數量を約そ知ることは出來るけれども、今後三十年五十年後に至らば果して幾何の分量に到達するやは、全く未知數であつて、到底吾人の能力にては之を豫定する譯にはゆかない。乍併交通脈路の計畫と交通機關の整備及擴張方針はなるべき遠き將來の情態にも適合せしめねばならぬのであるから、什うしても將來の東京が如何なる程度に其人口を增し、又同時に如何なる廣袤にまで地域を擴大するやを相當合理的に推算することは、此計畫の前提であらねばならぬのである。

吾人は今茲に、現代の文明都市が何故に駸々として其人口を增加し、其地域を擴大するやの理由を說明することを避ける、乍併其現象は世界的の一般風潮にして、我東京市も四十年來現今に至るまで又相當遠き將來に亘り此趨勢を持續することを承認せねばならぬ。而して其人口膨脹の計數は大体に於て其都市の經濟發展力の大小に正比例するものであることは、世界各國の都市が凡てそれ

に裏書するのである。英京倫敦は戰前の最近十年間は約百萬人を、北米の紐育は約百二十萬人を、仝市俄古は約五十萬人を、伯林と巴里は約三十萬人を增した如きは其著しき實例であつて。其他の各都市もそれぞれ其經濟的發展の程度に連れて、最近三十年間殆んど同一又は向上の比例に、其人口を增加し來つたのである。我國の都市に於ても廢藩置縣以來此世界的趨勢を追ふて漸次に其人口を增大しつゝ來りしことは、敢て呶々するまでもない事實である。

我東京市の人口は維新前後は約八十萬人と註されて居たのであるが、大正六年度末に於ては已に其數二百三拾四萬九千八百人に達し、其最近年度の增加率は百分の三となつて居る。今左に明治四十一年度よりの人口數を見るに。

明治四十一年	二、一六八、一五一人
仝　四十二年	一、六二三、〇七九
仝　四十三年	一、八〇五、八〇〇
仝　四十四年	一、九〇七、二七二
大正元　年	二、〇〇九、九八〇
仝　二　年	二、〇三三、三二〇
仝　三　年	二、一〇〇、三〇七
仝　四　年	二、二四四、七九六
仝　五　年	二、二八一、四二一

にして、最近五年間に三十一萬六千五百餘人を增加した計算である、又十年間にはそれと約そ同數であることは一見不可思議のように見ゆるけれども、之れ即がて我國の都市人口調査が不完全であるを証明するまでに過ぎないのである。兎に角東京市の人口が毎年五萬人內外の比例にて增加することを豫想すれば大過なきに庶幾からんかと思はれる。固より我東京市が現在の行詰まれる各般の施設を改善せざる場合には、此の豫想も或は或る時期に至りて外づれるかも知れぬのみならず。或は人口減少の傾向を帶ふるに立到ることも想像せねばならぬ。而して其人口減退の傾向を示す場合は我東京市の經濟活動力が漸次頽勢を表はす時であつて、其氣勢は啻に東京市の問題に止まらず曳いて我國經濟界の頽廢を意味することを知らねばならぬ。茲には東京市の漸次膨脹することが我國經濟界の發展と如何なる因緣を有するやは論ぜぬことゝするが、兎に角現代文明の趨勢と共に我東京市は其膨脹傾向を今後可なり永くに亘りて持續するものと見て吾人は凡ての議論を進めるのである。

以上の如く東京市の人口增加が毎年五萬人內外とすれば、大正三十六年に至らば其人口參百八拾五萬人、仝五十九年に至らば正さに五百萬人の人口を算するのである。而して現在市外に於ける近接町村の人口も近時著しく增加の趨勢を示し、事實に於て東京市の延長たるの觀を持するのみならず、早晩大東京市の地域內に包有さるゝは地理上當然の結果である。左に大正六年度に於ける其等接近町村の現住人口一萬以上のものを列擧する。（括孤內は明治三十七年度の人口なり）

品川町　四四、〇五〇人（一五、三八三）
大森町　一六、五二七（三、〇三九）
大井町　二六、五一六（八、三〇三）
入新井村　一一、一八九（三、二七七）
大崎村　二二、〇一〇（四、三四四）
目黒村　一二、五六七（六、四四〇）
世田ヶ谷村　一四、四八一（六、三三五）
内藤新宿町　一五、八一一（一〇、九七七）
淀橋町　三四、一一一（九、九五〇）
中野町　一五、三八二（六、八五三）
千駄ヶ谷町　二八、八〇二（九、三八八）
大久保町　一七、八一五（三、一〇九）
戸塚町　一一、四四二（一、七五九）
代々幡村　一六、四二四（三、一四二）
澁谷町　七五、七七一（一三、二〇二）
板橋町　一三、八一五（七、四三九）

南千住町　三五、七八五人（一三、一六二）
日暮里町　二九、八七八（三、五二四）
三河島村　一〇、九八九（二、二七九）
巣鴨村　三六、〇五七（三、八七八）
巣鴨町　一八、三五一（三、四三八）
瀧野川町　三三、〇六一（八、一五六）
高田村　一三、八八三（三、三四九）
王子町　三三、三四八（一三、三三一）
千住町　二七、五五九（一六、七五〇）
龜戸町　二七、一二六（五、五一三）
大島町　一七、六七六（五、八五四）
寺島村　一一、二六九（四、一四五）
吾嬬町　二二、〇六一（二、九〇三）
隅田村　一二、九二六（五、六六八）
砂村　一〇、四一六（四、八〇八）

以上接近町村の大正六年度末の現住人口は七拾壹萬五千人に上り、それに壹萬人以下の町村人口を合算すれば九拾萬人に近き數字を表はすのである。東京市の現住人口（大正六年度末）二百三十四萬九千八百人に合算すれば、正さに參百貳拾萬の人口が現在の大東京の內に現住するものと見て

も差支がないのであつて、若し將來の都市經濟發展と共に大地域の東京市を想像すれば、上述の近接町村は現在の市と相待ちて其人口及地域膨脹の基礎となるべきは言ふまでもないのである。

然らば我東京市は近き將來に於て少くとも人口五百萬を包有する大都市となるものと見て、或は又それ以上にも擴大するものとして、凡ての計畫を樹立せねばならぬのである。人口の增加と共に地域の擴大は絕對的必要の條件であることは敢て敷衍するまでもないけれども、往々にして一時の直覺觀に捉はれて、其大數を誤り、我東京市の余りに四方に擴大することを呪ふものなきにあらざるが故に、唯其等の人達の爲めに東京市の地域が將來非常に廣く擴大されねばならぬことを一と通り說明して置きたい。

東京市の現在の地域は東西二里九町二十一間余、南北三里三町五間余、其面積二千三百四十六萬八千百〇八坪である。其地積の現在の利用方法に至つては大に論ずべき幾多不合理の点を發見するのであるが、そは他章に讓ることゝして、其全体の面積が現住人口に比して適當の廣袤なるや否やを第一着に考へねばならぬのである。一体都市の廣袤余りに廣きに失すれば其市內交互の交通連絡に不便を感ずるは當然にして、其方面のみより見れば市民はなるべく密集的に地域を利用するを便利とするのである。乍併市民の健康狀態を向上し、なるべく多くの市民に安靜の生活をなさしめん爲めには、其反對に市地域のなるべく廣濶にして公園、遊步場、庭園等の充分なるを要するのである。茲に於て現代の文明は如何なる程度に其間に調和点を見出すやが問題となるのである。交通機關の發達を利用し、衛生設備の進步をも考慮して、各國の都市はそれぞれ其地域の廣袤を定めんと

して居るのは蓋し當然の努力である。乍併之を一概に論ずれば經濟活動の劇甚なるか、又は其發達の歴史の古き都市にては自然人口の割合に地域狹く、新開の都市は其地域甚だ廣濶にして市民の安靜生活に餘裕ある計畫を支持するを現代都市の一般的傾向とする。此の意味に於て我東京市の現在地域は決して地域に餘裕ある文明都市と見ることは出來ないのである。今左に世界の大都市の地域が其人口に比例して如何なる狀態にあるやを列記して聊か參考としたい。

都市名	人口一人に對する地域坪數	都市名	人口一人に對する地域坪數
大倫敦	七六・五	セントルイス	六四・四
倫敦市	二〇・四	ボストン	四五・三
紐育	四三・七	ミユーニツヒ	四五・三
巴里	八・三	ライプチツヒ	三八・三
市俄古	六四・四	バルチモア	四〇・八
伯林◎	九・二	ケルン	六四・四
東京◎	一一・〇	マルセイユ	一四・一
費府◎	六一・二	里昂◎	二三・五
大阪◎	一二・四	京都◎	二〇・七
漠堡	三七・一	セツフキルド	六一・二
バーミンガム	六四・四	ヂユッセルドルフ○	八一・六
リバープール	三四・〇	華盛頓○	一三六・〇

カンサス		横濱	二四・五
名古屋	一五二・〇	神戸	二七・二
	二六・六		

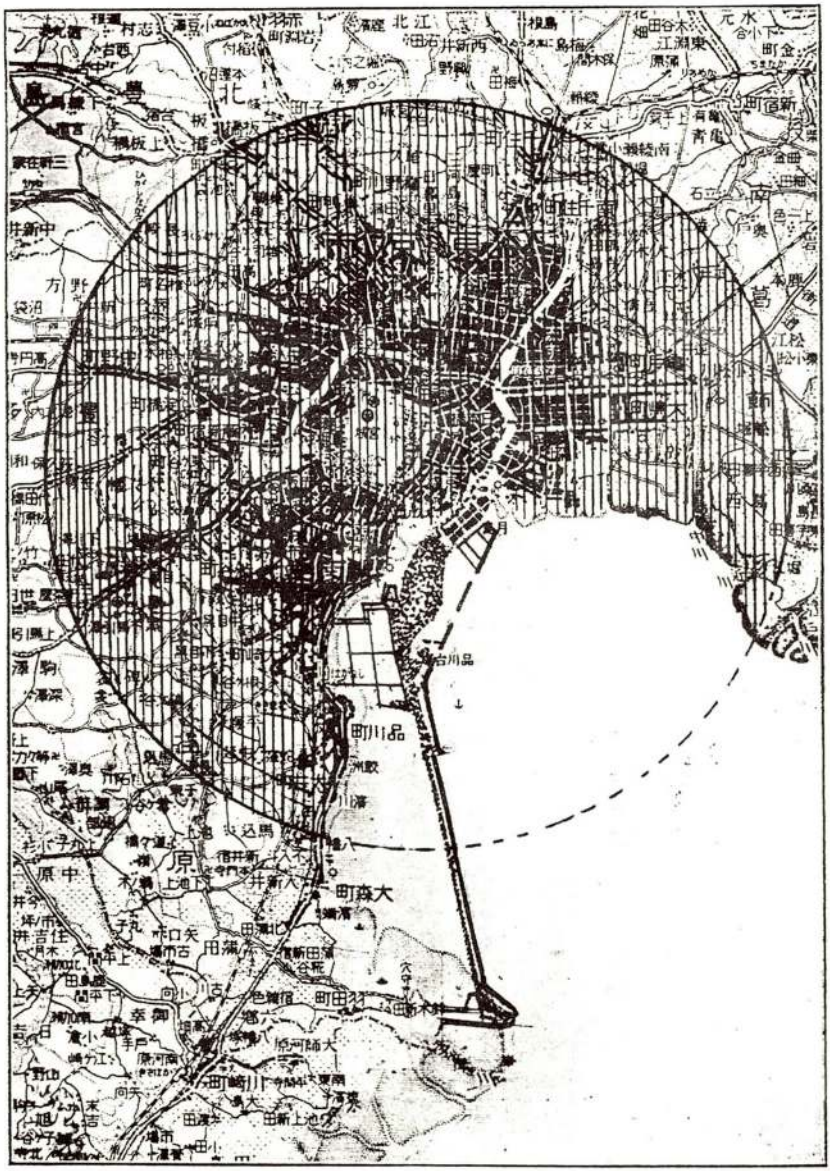
（以上の統計は我國の都市は大正三年度、外國の都市は一九一一年度後一二年の間のもの）

右表に示す如く各國の大都市は其事情の許す限り廣大なる地域を設定して、其市民の生活狀態向上を計りつゝあり、中にも摸範都市として有名なる北米の華盛頓やカンサス市の市民は、我東京市民よりも其一人當りの地積は十倍以上を享け樂んで居るのは大に注目に値する。唯伯林と巴里は其地積甚だ狹く我東京市のそれよりも更に低きを見るのであるが、伯林にしても巴里にしても決して此に滿足をするのではなく、現に其市外に廣大なる林野を有し、追つて市地域として相當の畫策をなすことは十分に想像し得るのである。

然らば我東京市の地域は現在に於ては已に文明都市としての最狹限度にあるものと見て差支がないのである。故に今後人口が漸次增大するに從ひ其地域の比例的擴大は當然の要求でなくてはならぬのであつて、二三直覺論者の言ふ如く不用地其他の地積を巧に利用し、以て或る程度まで地域縮少を畫策することは絕對に不合理と言ふを妨げない。凡そ大都市の地域を擴大するには唯自然の膨脹の儘に之を放棄するも一策なれども、現代の文明都市が嘗め來りし徑路より見れば、斯かる自然發展主義はあらゆる方面に不利益なる結果を生ずるのであるから、市の政策として豫め其發展の區域を定め、其區域の利用方法を一律の下に置くことを一般的趨勢とするのである。即ち主として工場を建設せしむる工場區域、或は住宅を主とする住宅區域を定むる如きは其一例である。新設市

區の方面に其區域を設定し置くことは、將來發展の曉に其都市の文明的價値を著しく高めるのであつて、利用する市民の側には經營上何等の苦痛をも感せざる一擧兩得の方法である。乍併舊市街の雜然として發展し來りし部分の地域的整理は又緊要の事に屬するは勿論であるが、其整理の困難なるは吾人の最も憂ふるところである。

以上述べ來りし如く我東京市の永遠計畫の立案に際しては、其人口が五百萬又はそれ以上に上るものとして、其地域の擴大を前提的に承認するを要する。而して其地域の擴がり方は市の內外交通機關の配置及物資の輻輳の關係等により、必ずしも四方に均等に及ぶものにはあらざるも、我東京市の現狀は大体日本橋附近を中心とする直徑五里の圓積を以て其將來の大東京市の地域と見るを適當とする。而して此大東京市の地域は東は新荒川の開修地を境とし、北は千住町、王子町を含みて其境とし、西端中野町を包擁し、西南世田ケ谷より南の方大井村を含む、其地積は約六千五百萬坪乃至七千萬坪である。之を五百萬人に割當つれば正さに一人に付き十三四坪となる計算である、其東南の一部は東京灣の深入して隅田川に通ずるあり、市の內部に行き渡れる運河と水運の密接なる關係を結ぶと雖も、然かも此大東京市の活動力を敏活ならしむる爲めには、所謂築港の大々的設備が其灣水との連絡を圓滑ならしむるを最要の條件とせざるを得ないのである。以下大東京市の地域內の交通計畫に付き項を分ちて少しく論じて見たい。



域地の市京東大るけ於に内圏の里五徑直と市京東の在現



現在の東京市地域

〔ロ〕東京築港及其他の水運關係

東京市の永遠計畫として最急要の交通政策の一は其外延的連絡の設備であることは、東京市が現在より將來に亘りて、一は海外よりの連絡、二は本州東部一帶よりの連絡を益々圓滑になさねばならぬからである。東京築港の施設が水上連絡を圓滑ならしむる唯一の手段である以上、什うしても其設計を立てゝ其實現を期すべきは東京市發展の爲めに最も急要なる事柄であるは、敢て吾人の呶々するまでもなき筈なるに、未だに我東京市の經營者が其設計に誠意を欠ぐは惜みても餘あるとでも言はねばならぬ。吾人が東京大改造論の第一要項に之を論ずるのはその爲めである。

世界に於ける如何なる都市と雖も、其經濟力發展の第一要素を水上の連絡にありとして、其設備に甚大の經費の努力を注ぎ込みしは、少しく現代の經濟に通ずるものゝ知るところである。マンチエスターの如きは其水上交通の途を開く爲めに一億七千萬圓を投じて三十五哩半の運河を開鑿し、以て海洋航海の船舶を市に引入るゝことを斷行したのは、已に二十六年の以前である。リバプールは又其築港に前後四億圓に近き巨資を投じたことや、ニューカッスルが一億七千萬圓を其水上連絡の設備に費したことは、皆之れ彼等の經濟活動力を發展せしめん爲めであつた。獨逸の漢堡はエルベ河口より溯ること六十五哩の內地にありながら、其輸出入の貨物は戰前已に一ケ年四十億圓に上ぼりし事實は、彼が自由港である爲めではあるが、其眞因は貳億圓の巨資を投じて、エルベ河の河深を浚渫し、以て大規摸の人工河港を其市に設けたからである。其他倫敦にしても、紐育にしても其繁榮の基礎は其水上設備にありと言ふも或は過言ではあるまい。

我國にありても、都市の發展は其水上連絡に負ふところ多きを着々事實に於て示しつゝあるは、近來の著しき事實である。大阪市が維新前より何等國策の援助なくして、常に經濟上の中心地たる位地を失はざりしは全く其水運の便であつた。神戸市の最近の著しき發展も又名古屋市の工業地たる價値も不完全ながら其水利に依つて來たことは爭ふべからざる事實である。我東京市が維新前に其百貨集散の方法を其水運に待ちしも亦事實とする。然るに世の變遷は其貨物の種類と數量を數倍となし、其目的地と積出地を擴大した爲めに、維新前の水運利用方法は忽ち行詰りを生じ、茲に新しき大規摸の施設を要する時機に到達したのである。大阪は明治三十年來其築港計畫を實施し、已に十數年前に其一部の竣工を告げ、不完全ながら之を利用しつゝあり、現在は其完成の急要を感じて本年度より内港の設備や、海陸連絡の設備に取蒐らんとする狀態にあり。又神戸には國港として相當規摸の築港を實施され、今は其完成に近づきつゝあり、横濱は最も古く其築港を完成し、名古屋、敦賀、小樽、若松、博多、高松、函館、基隆、打狗、釜山、大連等もそれぞれ相當規摸の築港を完成して、現に其市の積極的發展に裨益しつゝあるは、東京市民と雖も知らざる筈はなく、政府當局の夙に深慮しつゝあるところである。然るに我東京のみが其水運設備に於て、維新前の狀態より一歩も出でざる組織に拘泥しつゝあるは、如何にも不思議の現象である。而して東京市が其水運交通計畫を怠りながら尚且つ現時の如き發展をなしつゝあるを見れば、其現代式水運設備の急要が如何に迫りつゝあるかを知ることが出來る。

東京築港は現代都市發展の趨勢より見て、又事實上現時の不完全なる水運連絡が日々市民に與へつゝある損害に見て、東京市の經營上最急要の問題であることは茲に詳述することを避けるけれど

も、唯其要点のみを少しく述べて置きたい。即ち東京に輸送し來る貨物及積出の貨物が凡て一たび横濱に停留し、其間の輸送を舊式の荷足船、達磨船等に依りて連絡するのであるから、其間の勞力と時間の損害、風浪の危險と保險料の高率は可なり大きな負擔である。殊に舊式荷役の不秩序、高賃及時間の浪費は到底現代の商工業と伴ふべき性質のものではない。況んや其貨物は現時の如き困難と不利益あるにも拘らず、尙且つ毎年五百萬噸の出入があると言ふに至つては、其輸出入の便を計るべき文明式水運設備の急要は殆んど說明を要せないのである。

戰前に於ける日本郵船株式會社の調査なるものを聞くに、築港成る後の運賃は（横濱よりの）外國貨物一噸に付き一圓二錢三厘、內國貨物一噸に付き五十八錢三厘だけ低くなるべしと言ふ。之を平均して一噸七八十錢と見て其數量五百萬噸とすれば、其金額は一ケ年正さに三百五十萬圓乃至四百萬圓となるのである。而して若し戰後の我東京市の大發展を推定すれば、其數量は漸次增加して六百萬噸となり七百萬噸となり遂には一千萬噸を超ゆるは、約そ想像出來るのである。して見れば運賃の低廉さるゝ金額のみにても、三百五十萬圓より漸次增加して七八百萬圓に達するのである。況してや輸送の輕快に圓滑に運ばるゝ爲めに生ずる時間の利益に至ては、金錢を以ては到底代ふることの出來ない程度のものであることを知らねばならぬ。左に大正九年に至る最近三ケ年間の水運による東京出入貨物の數量を揭げて、其の貧弱なる狀況を知らしめたい。

	輸出	輸入	合計
大正三年	九五〇、五三七噸	三、一五九、〇二二噸	四、一〇九、五五九噸

大正四年　一、〇五五、一八七　三、二四七、三三四　四、三〇二、五二一
大正五年　一、一六一、一七九　三、〇三七、四五一　四、一九八、六三〇

若し之を大正四年度の大阪港出入の貨物拾億七千五百萬圓其重量八百五十七萬五千噸に比すれば其半ばにも及ばないのである。而して大阪港の如きは未だ其利用の十分に發達せざるにも拘らず、毎年五十萬噸以上の比例にて其出入貨物を增加せんとして居るを見れば、東京の大築港を經營して其出入貨物の便利を計ることは、大東京市の營養の爲めに最要の條件として考へられねばならぬのである。

東京築港の計畫が東京の外延的交通政策の最大なるものであることは上述の通りである、而して其計畫の立案に最大の故障となるものは、其財源を如何にして求むるやの問題であらう。又第二の故障としては僅か二十哩の近くに橫濱港のあるありて互に其繁榮を爭ふは國家として不得策なりと言ふことである、其他芝浦方面に煤烟を漂らすの虞ありとか、品川沖の美觀を害するとか、種々の苦情はあり得るけれども、其等は凡て現狀拘泥主義者の意見にして少しも採るに足らぬのである。橫濱港の衰微を憂ふるものに向つては彼等の淺見を一と通り說明して置かねばならぬ。東京は其築港により東京を集散地とする百貨の水上運輸狀態を圓滑にするを目的とするに止まり、橫濱の貿易を奪取せんとする計畫ではないのである。故に從來東京に來らんとする貨物及東京より仕向けらるゝ貨物の橫濱港に假寄港せし分が凡て直接に東京港に出入するに過ぎないのである。固より物品により從來橫濱の商舘を中心とせしものも、種々の關係により東京の業務となり、その結果橫

濱港に出入せずして東京港に直接出入することゝなるものゝ絶無とは言ひ得ないのである。乍併東京が何時までも其莫大なる不便不利益を忍び、其結果の極小部分に於て横濱港に利益せしめんとするが如き無意味の仁惠は全く冠履顚倒の事と言はねばならぬ。現に神戸港の大阪港に於ける如きものであつて、事實に於て少しも其利益をば阻害せないのである。若し東京港完備の結果が多少横濱港に不利益を與ふる場合ありとも、そは從來横濱港として取扱ふべきものにあらざる貨物が東京港の不備の結果已むを得ず、横濱に寄港したに過ぎないとして諦らめるより外はないのである。

東京築港の財源の研究は先づ其計畫に要する工費より出發せねばならぬのである。而して其工費の大小は其設計の如何にあるは言ふまでもない。故に順序として今日まで東京築港の設計が如何なる方針に進みつゝ來りしかを略述して置きたい。

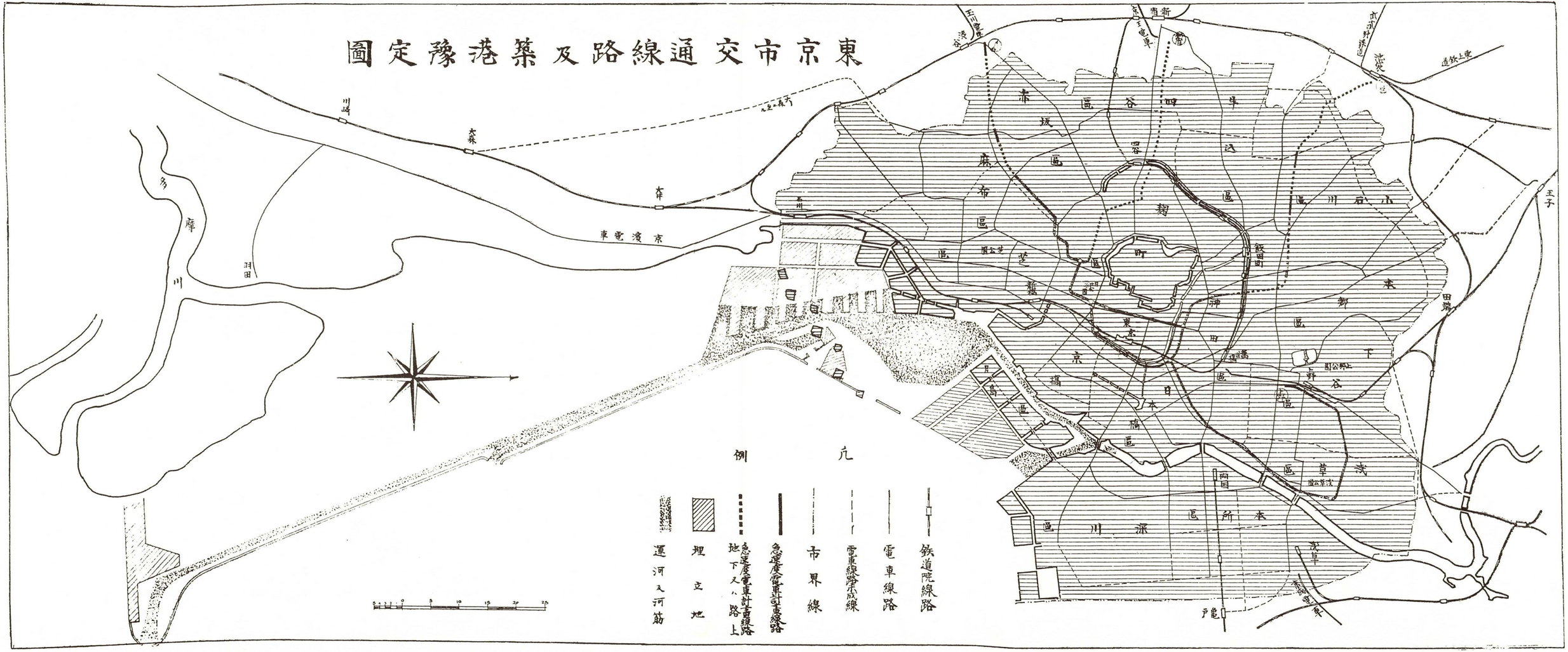
東京築港の最初の設計は明治十八年の頃東京市區改正審査會に於て立案したのである、其案は其當時の内務省備技師ムルドル氏が立案したる原案に多少の修正を加へたので。其方法は隅田川口の東派即ち上總湊を塞ぎ、全流を西派に導き永代橋以下に於て漸次川幅を擴大し、流水港となさんとしたのであつた　而してその工費豫算は一千八百九十三萬圓として報告された。明治二十一年十一月内務省は其當時成立したる東京市區改正委員會に東京築港の設計を再審せしめた。委員會にては委員の一人古市公威氏を海外に派遣し、親しく海外の築港大家の意見を探らしめたのである。古市氏は佛國技師ルノー氏の意見を齎らして歸朝の上之を市區委員會に報告し、委員會に於ても大体之を最良案として決定したのである。其案の要点は、本港と前港を分ち、本港は市街に近くして鐵道

との連絡、隅田川の利用に便にし、其周圍に廣大なる埋立地を得て倉庫地帶となすべく、前港は之を東南羽根田の沖に設け、本港との連絡は運河を以てすべしと言ふのであつた。其後設計は數次變更されたけれども、大体の此方針は踏襲されたのである。（地圖參照）

明治二十二年に市區改正委員會の決定したる築港案も、其後久しく葬り去られて顧られなかつたが、明治三十二年時の市長松田秀雄氏は古市公威、中山秀三郎の両氏に囑托して更に東京築港の設計案を作らしめて、之を市會に提案し其決議をも經、又市區改正委員會の協賛をも得た以外、朝野の名士の後援をも得て其實行を期し、其工費の一部として一千二百萬圓の國庫補助を請願したのであつた。然るに政府は其願書を握り潰して何等許否の指令を與へず、今日まで二十年間空しく之を等閑視して居るのである。其當時の設計案は大体ルノー氏の意見に依り、本港を芝浦に設け、港門及前港を羽根田に置き運河に依て本港と連絡せしめ、其本港は水深を二十四尺乃至三十尺に浚渫して、專ら大船の繁泊所とし、小船は從來の通り隅田川を利用せしめ、鐵道の連絡及倉庫等の地帶をも遺憾なからしめる計畫であつて、其工費四千百萬圓であつた。

東京市に於ては其後何等築港實行の熱心なかりしも、其築港調査委員會は明治三十八年より市技師直木倫太郎氏の意見を容れ、隅田川口の改良工事に着手して、航路の水深及幅員を增加し、其浚渫土を以て芝浦方面に埋立地を造つたことは、多少なりとも水運の便利を增したに違ひない。けれども其根本計畫に觸れたものとは言へないのである。要するに東京築港の問題は其經過餘りに永きに亘り、其當初の關係者は漸次世を去るか或は官公職を去りたる爲め、內務省に於ても市理事者に

東京市交通線路及築港豫定圖



於ても何となく氣乘りせず、市民も其急要を覺らず、兩々相待ちて話題にさへ上らないような始末である。

東京築港の設計は上述の如く久しき研究により出來上りたるものなれば、上述の其大体案に於ては吾人も之を適當と信ずれども、其水深の程度の尙小なること、陸上交通系統及機關との連絡の研究不充分なること、及南部工場地帶の考究なきことを其主たる欠点と考へられる。港内の水深は今日の時代は最早三十尺にては役に立たぬのである、巴拿馬運河の水深が四十尺となり、蘇士運河は其三十尺の水深を三十六尺となすべき計畫を有する際に、又大船運用の時々刻々進みつゝある時代に我東京築港は其水深を三十尺以内に止めんとするは最早之を容るゝ譯にゆかない、少くとも三十六尺以上の水深を保たしめねばならぬのである。又築港本港と陸上交通系統及機關との關係及倉庫地帶、工場地帶の設定に關する問題は後章のそれぞれの部分に於て述べることゝして、此處にはそれを略する。

東京築港の舊設計案は明治三十二年に其工費四千百萬圓と豫定されたのであるから、今日以後之を實施するには壹億圓に近きものと思はねばならぬ。而して吾人の希望する如く其水深を更に大にし、倉庫地帶、工場地帶を大規摸に築き上げ、陸上連絡の方法を十分に設備するに於ては、或は壹億圓以上の工費を要するであらうと思はれる。故に吾人は我大東京の營養機關としての築港を經營するには、一億圓に近き工費を要するものとして、其財政策を考へねばならぬのである。國庫は或る程度の補助をなすべきであるが、東京市としては必ずしも其補助を目當てに計畫をなしてはなら

ぬ。明治三十二年より二十年間も放棄の狀態にありし築港問題は、其當時一千二百萬圓を國庫より補助せしめんとせし畫策が累をなしたのであるから、今後は國庫の補助を眼中に置かず、都市計畫法なる國法の保護により其立案をなさねばならぬのである。

東京市が其築港市債一億圓を如何にして償還するやの問題は、財政上の專門家の意見に待つべきであつて、敢て吾人の彼是れ論ずべき問題ではないけれども、其材料としての意見を少しく述べて置きたい。築港の工費は築港の財產及收得を以て支辨し得るようにしたいのであるが、或は工事中及竣工當初の間は多少一般財政に其負擔を及ぼすかも知れぬ、然しながらそは唯一時の事であつて永久には決して一般財政に不利益を與へてはならぬのである。たとへ東京市の發展上大なる間接利益を與ふるとしても、築港の財政は築港にて其バランスを安全にしたい、何となれば市は更に他に幾多の積極的畫策を有するから、もし築港の大工事の爲めに其一般財政が累さるゝときは、他の方面の事業の經營が進捗せぬ憂があるからである。

築港完成の後の收入は、(一)埋立地の賃貸料金、(二)上家の使用料及倉庫の賃貸料金、(三)繫船料、(四)入港料を主なるものとする。第一期の埋立地を貳百萬坪とし、內百萬坪を平均一ヶ年一坪貳圓の賃貸料に見積り、其收入貳百萬圓を得、(最初五年間は壹圓貳拾錢、次の五ヶ年は貳圓更に貳圓五拾錢、參圓と累進せしむ)、上家使用料は三萬坪として一ヶ年の使用料一坪拾五圓とすれば其收入四拾五萬圓を得、倉庫十萬坪として一ヶ年の賃貸料金一坪貳拾五圓とすれば其收入貳百五拾萬圓を得る、其他繫船料と入港料は初めは五拾萬圓とか六拾萬圓なるも、漸次增加して遂に百萬圓以上

に出づるは明白な事實と見て差支がない。即ち築港よゝ生ずる直接收得は毎年五百萬圓以上六百萬圓に及ぶのであるから、先づ其公債の利子を支辨出來るに近づくのである。而して築港の利用進むに從ひ本港を擴大して南方に及び、埋立地を增大して其利用を企つる時は、東京築港の財政計畫は其基礎益々强固となり、何等悲觀すべき點を見出さぬことゝなるであろふ。

築港の利用は主として水上の外延的交通に偏すれども、其內面の交通としては、市の內外に互る運河系統を利用せねばならぬのである。現時の東京市內の運河は主もに維新前のものその儘にして唯本所深川の方面に新しきのを少しく開鑿せしに止まる。日本橋河岸及鎌倉河岸を始め、柳原河岸より外濠の利用は近時益頻繁にして殆んど行詰まりの狀態なれども、此等は築港の完成と共に大に整理され市內の主要なる倉庫は築港の倉庫地帶に集中なることゝなり、市內の日用消費品を蓄藏する倉庫のみに撰練さるゝが故に、此等の運河は餘りに困難に陷らざるべきも、今後水運の積極的畫策を要するは、工業地域に於ける交通の爲めであるは言ふまでもないのである。今後運河として改修を要するものは、第一着に本所深町の方面に現存するものにして、其系統を整理し、水深幅員其他の狀況を相當に進步的に改修するは急務である。乍併永遠の問題として大東京市の工業地域を考ふる時は、新荒川の右岸に沿ふて一大運河を開鑿することゝ、築港の外港より埋立地を經て大井村の南部一帶を貫く運河の畫策とを以て急要とせねばならぬのである。此等運河に就ては大東京市の工業を益々雄大ならしむると言ふ意味に於て緊要欠くべからざるものとして、之を唱ふるのであつて、未だ其計畫や工費等に付て研究した譯でないから、他日更に稿を改めて論することゝする。兎

に角今後の我國産業促進に於ては工業原料の運搬及製品の般出を低廉なる水運のみに依らしめねば所詮最後の勝利を制する譯に行かないことを考へたならば、大東京の將來は東京灣の水運を徹底的に利用することを理想とせねばならぬのである。或學者は東京灣より鹿島灘へ一直線に大運河を開鑿し、太洋連絡の距離を短くすべしと言ふ大理想論を發表されたけれども、それよりも先づ、東京灣の水を徹底的に利用する築港を完成し、市内外に亘る運河系統の開鑿を畫策するを第一歩とする

ローマ帝國の都市

ローマの歴史は都市の膨脹發展の記錄とも云ふべく、都市の初めて近世的意義を有するに至りたるは實にローマを以て嚆矢となす。初めローマ帝國其征服の範圍を伊太利以外に擴張するやグリーク、フエニシヤの繁榮なる商業市を其權力の下に置くに至れり。然れども尚ほ此等の都は條約によりて數多の特權と權利とを留得するに置得たりき。而して此等の都市中或種のものに就ては形式的の獨立と實際の自治制とを享有したるものなきにあらざるも、多くはローマ政府の派遣せる地方官の監督を受け、其歳出入はローマ政府の會計より獨立する能はざりき。既にして後ち又他の一種の都市を生ずるに至れり。即ちローマ政府は將來有望の征服地又は殖産地と其老兵等の一團を派して土着せしめ、漸次都市を形成せしめたるものにして、最初より始んど獨立の自治團體をなし、唯々偶々ローマ皇帝の勅宣によりて監督せらるゝもの生ずるに至りしこと之なり。

（都市經營論より）



英國に於ける都市計畫法 (二)

大阪高等商業學校教授 法學士 伊藤眞雄

第五十四節

(一) 都市計畫の設計は、現に發達しつゝある土地又は建築のために用ひらるべき見込ある土地に對し、其土地及び其近隣地の目論見並に使用に關して、適當なる衛生狀態、風致及び便利を確保せんとするの一般目的を以て、本法本編の規定に從て之を行ふことを得。

右は都市計畫設計なるものゝ性質及目的に關する規定であつて、斯種の規定は英國の法規としては全く初めてのものであるけれども、都市計畫案なるものゝ觀念は、既に大陸諸國に於て一般に熟知せられて居つたものであるのみならず、本法の目的とせる所と同一なる結果の達成に就ては既に英國に於ける『田園都市』なるものに依て大に試みられて居たのである。加之ロンド府は既に一八九四年のロンドン建築條例なる特別法に依て附與せられたる權能に依て本法の目的となせる所と同一の事柄を實行し得たることも多いのである。茲に於てか本條例第二編は、ロンドン建築條例を擴張して之を英國一般に亘りて總ての地方廳に適用せんとする第一着手であるとも見做さるゝのであるが、併し這は大なる誤見であつて、本條例第二編はロンドン建築條例に比して第一其目的の範圍に於て大なる差異があるのである。既ちロンドン建築條例でも其

第五編に於て、建物の周圍の空地に關し其他街衢の構築に關しても、些細なる事項に就て地方規則を制定するの權を與へてあるけれども之等は要するに只空氣の流通や其他普通の衛生を以て其目的とするに過ぎぬものであつて、其他凡ての規定も亦皆此範疇を出てぬのである。之に反して本法に於ては更に進んで謂はゆる風致 amenity の確保と云ふことを目的として居るのであつて、即ち土地や住宅や工場又は運河鐵道等に依て發達せんとするに方りては、之に關する都市計畫の設計の中に其地區を快適良好ならしむべき方法にて、其住宅や工場と共に空地や公園運動場等を設備せしむべき規定を設けしめ、以て都市周圍の邊郊に於ける風致等を確保せんとするのであるが、ロンドン建築條例では、人口稠密、家屋密集せるロンドンの中心區にありては、斯る都市計畫的施設は地方廳の堪へ得ざる莫大の負擔を要し隨て到底不可能なる事として、風致と云ふが如き積極的目的を規定することなく只普通一般の衛生上の謂はゝ消極的なる目的を主としたるものである。

(二) 地方政務廳は、本法本編の意義に於ける或地方廳が、都市計畫の設計を行ふべき場合として認め得べき場合の存在せることを示したるときは、其地方廳に對し、其地方區域の內部若しくは其附近に於ける何れの土地に關しても、都市計畫の設計を行ふべき權能を附與し、又は其地方廳が自ら此權能を受け得べき其土地を有せる所有者の全部又は一部の者の提案したる設計を、之に變更を加へ又は變更を加へずして、之を採用するの權能を附與することを得。

故に都市計畫の設計は地方廳が自ら行ふものと、其他の者が作製して地方廳が之を採用したるものとの區別があるのである。併し其實質に於ては何等の區別も無いのであつて。本法の目的とする所が風致及び便利と云ふことゝ共に最良の衛生狀態を實現せんとするに在る以上、設計の創作者が何人であらうとも敢て問ふの必要はないからである。土地所有者

が作りたる設計を採用することは、地方廳と所有者との協働を圓滑ならしめて、地方廳に取りても又土地所有者に取りても双方に有利である。

(三)　既に建築せられたる土地又は建築用に供せらるべき見込ある或る土地に對して、之をも後者に關する都市計畫設計の中に包括することを要するが如き位地にある場合には、地方政務廳は前者をも之に包括し且つ實施上必要なる場合には其上に在る建物を取り壞ち又は變更すべきことをも規定せる設計を作製し又は之を採用するの權能を地方廳に附與することを得。

本項及び前の第一項に依て觀れば都市計畫の設計が行はるべき土地は、現に發達しつゝある土地、建築用に供せらるべも見込ある土地建築用に供せらるべき見込なき土地及び既に建築せられたる土地の四種の土地として列擧せられたわけであるが、而も之等は實際に於ては頗る意義明瞭を缺くものであつて、場合に依ては、隨分難問を生じ得べきである。例へば建築用に供せらるべき見込ある土地と云ふのは實際に於て如何なるものを指すか、都市の周圍に在る土地は殆んど皆斯種の土地に屬するものと言ふ事が出來、又所謂現に發達しつゝある土地とも云ふことが出來、又所謂既に建築せられたる土地と區別することも困難なることがあらう。故に後の第七項に於て所謂建築用に供せらるべき見込ある土地なるものゝ意義は地方政務廳が之を決定することゝなつて居るけれども、而も其他の種類の土地相互間の區別を決定すべき方法は規定してないのである。

(四)　地方廳が作製又は採用したる都市計畫の設計は地方政務廳の認可の命令あるまでは、効力を生ぜず。地方政務廳は、其適當と認むる所の變更並に條件に從ふものに非れば、之が認可を拒むことを得。

但し、地方政務廳は或都市計畫設計を認可せんとするに方りては豫めロンドンガゼット又はエディンバーガゼット紙上にて之れを認可せんと

する旨を公告するを要す。若し右公告掲載の日以後二十一日内に、利害關係を有せる或地方廳又は其他の利害關係者が、所定の方法に依て異議を申し立つるときは、地方政務廳は、議會の會期中三十日を下らざる期間に亘り、其認可の命令案を各議會に提出すべし。若し兩院の孰れにても、此期間滿了以前に其命令案又は其或る部分に對して反對の上奏をなすときは其後の手續を中止すべし。但し新なる設計案の作製を妨けず。

本項の規程に依て、本條例は都市計畫に關する事項の監督に就ては、中央廳たる地方政務廳に全權を握らしめんと欲するものなることを知り得るのであるが、併し各地方廳の創發的行動には毫も制限を加へんとするものではなく、中央廳の監督は、只其行動の統一を圖り、各地方の計畫設計の實施をして廣大なる公通的方針の下に行はれしめんことを期するのみである。

地方廳が其設計に對して地方政務廳の認可を受くる爲めの手續は、一九一〇年五月地方政務廳の發布したる施行規則第十九條から第二十四條に亘つて詳細に規定してある。

(五) 都市計畫の設計は地方政務廳の認可を得たるときは、恰も本法の中に之を規定したると同一の効力を有す。

即ち地方政務廳の認可は計畫設計に對して議會の制定したる法律と同一の終結的効力を與ふるものであつて、之は地方政務廳の手に著しく廣大なる權能を集中せんとする本條例の一般的方針から出でたる規定である。

地方廳は地方政務廳の認可命令書を受取りたるときは。

(一) 遲滯なく地方の或新聞紙上にて政務廳の認可の公告をなすことを要し之に左の事項を附記することを要す。

(イ) 其認可は原設計に變更を加へたるものなるか否

(ロ) 認可命令の日附後三ケ月間一定の場所に於て、無料にて政務廳の認可命令書及

び設計に關する總ての地圖並に設計圖の閲覽を許し、又設計に關する必要なる説明を受くるを許すこと。

(二)右公告をなしたる翌日以後に於て、其設計中に含まれたる土地の所有者、賃借人並に占有者、右土地の一部を含める他地方廳及び主要道路に影響を受くる地方の府縣會に對し、認可命令書の寫し及び前揭(ロ)と同一の閲覽並に説明に關する通知を發することを要す。

(三)認可命令書、都市計畫設計書、地圖、及び設計圖の閲覽者に必要なる説明を與ふる設備となすことを要す。

(四)認可命令書受領後十四日以內に(一)及び(二)の義務を履行したる事を證するため、地方廳が發したる布告文及び其他の書類を地方政務廳に提出することを要す。

(六)　都市計畫の設計は、本法本編に從て作製又は採用せられて認可を經たる其後の設計に依て之れを變更又は廢止することを得。又地方政務廳は、設計を廢止すべき特別の事情ある場合と認むるときは、當該地方廳又は其他利害關係者と認むべき者の請求に基き、令命に依て之を廢止することを得。

都市計畫の根本觀念から觀ても又之が實施上の立場から觀ても、一旦定めたる都市計畫の設計は之を確定不動のものたらしむることを敢て必要とせざることは、其道の識者の皆認むる所である。例へば獨逸の都市計畫の經驗に徵しても、確定不動なる設計を實施したる場合には、其結果往々地方稅の負擔を無益に著しく加重するのみならず、其都市の商工業及び其他公共的建造物等の發達が所期の如き形勢にて行はれず、又豫定せられたる街衢の配置や街路の連絡が實際の便利から觀て甚だ不都合なることを覺るに至るが如き場合少くなつたのである。又都市計畫家の中には、一旦確定したる設計は例へば主要道路の彎曲とか公開空地の方位と云ふが如き程度の比較的小なる變更に限て之を許し、設計の一般的骨

組に至つては常に之を確守して動かす可からざるものとするを要すと主張する論者もある併し本項の規定に於ては毫も其許し得べき變更の種類及び程度を示し居らぬのであつて、全く各場合に於ける實際の事情（例へば經費の關係）等に應じて之を決せんとするものなること明かである。

（七）『建築用に供せらるべき見込ある土地』とは空地、道路、街衢、公園、遊戲場又は休養場として用ひられ、若しくは之等のものを設置する目的の爲に用ひられ、又は建築工事たる性質を有すると否とを問はず凡て都市計畫の設計に伴ふ地上又は地下の工事を施行せんが爲めに用ひらるべき見込ある總ての土地を包括するものとす。（未完）

都市の土地政策

現時に於ける社會生活中最も顯著なる事實は、都市生活の發達と云ふことに之也。今や、政治の重心、經濟の重心、文化の重心は、悉く都市に集中せらるゝに至り、社會的活動の大部分は、都市に於て行はると云ふも過言ならず。此時に方りて、都市行政上の問題が頗る其意義を加重し來り、凡ゆる方面に於ける都市政策が愼重講究を要するに至りたるは、實に時勢の要求にして、而も、其實際政策の當否巧拙は纏て雜れ社會大多數の禍福の岐るゝ所となり。而して、數多き都市政策の中に在りて土地に對する政策は。其意義の深甚なる點に於て、其及ぶ範圍の廣大なる點に於て、最も研究に値するものたらざるを得ざる也。

（「土地經濟論」の一節）



大阪港の將來

大阪市港灣部長
工學博士　直木倫太郎

（於第壹回大會）

建築協會の大會席上に於て、港のお話をすることは頗る妙な譯でございますが、此の建築協會は非常に熱心に都市計畫問題を研究して居られまして美事な活躍をお續けになつて居られます點から、又都市計畫と云ふ問題と港と云ふ問題の間に一脈の關係を有つて居ると云ふ點から私は彼樣な題目を出したのであります。殊に大阪の市區改正を論ずるに方つては、大阪市の內外を貫通して居る所の大小河川の水運を無視することが出來ない關係に居りまして、而も是等河川の流水は孰れも大阪築港に歸するのでありますから、斯の點から申しましても大阪市の市區改正事業と共に運輸系統の一つの大きな機關として築港の問題も多少御注意を願ひたいと云ふ樣な點から實は斯の問題を出しましたのでムいます。題は築港の將來に就いての事を說きたいと思ひますが、少しく報告的になりますけれども先づ便宜上過去及び現狀に就いて少しく申上げて見たいと思ひます。少し判り難いかも知れませぬが便宜上茲に大体築港の見取圖の如きものを揭げました、之に依つてお話をしたいと思ひます。

抑此大阪の築港が工事を起しましてから今日まで廿年程になりますが、其初めの十年間は工事をして居つた時代で、築港は此十年間に大体其規模が出來上つたのでムいます、極く引つ括

めて言へば、先づ二條の防波堤を以て港の安全が得られまして、港の水面積約二百廿萬坪と云ふ規模が立ちました。之れを横濱の百五十萬坪に較ぶると遜るに大きなものであります、神戸は今防波堤で以て港を圍まんとして居りますがあれが出來上ると約三百萬坪になりませうからそれよりは小さいが、兎に角大阪の水面積は二百二十萬坪で、其中八十六萬坪程が大汐干汐面下三十尺の深さに浚へられたのであります。さうして其浚渫から得た土砂で以て此處に黄ろく着色した圖面の部分だけの埋立が出來たのであります。此埋立地は百二十三萬坪に達します。即ち最初の十年間は築港工事の作業時代でありましたが次の十年間は最初の豫想に反して餘り築港と云ふものが利用せられなかつたのであります、即ち當初の計畫では大阪と云ふ大なる都會の勢力があつて港が出來た以上は直ぐにも役立つて盛に利用さるべき筈であると云ふ期待があつたのであります、無論計畫者も之に協力された人々も就れも其積りであつたのであります處が意外にも出來上りまして後の十年間即ち最近に至ります迄は豫期のやうに物事が行きませぬでした、實に不思議なやうでありますが矢張り理窟と實際とは齟齬する點があると見えまして事實が理想の通りに參りませぬ、名物の大棧橋は東洋一の納涼臺とか魚釣場とかの異名を取り、その上に或は料理屋が出來たり潰れたり、又起重機を据付たり取外したり、實に慘憺たる有樣で、其間非難の聲も高く當局の苦心實に一方ならぬ次第でありました、尤も此間市は更に幾多の財力を投じて或は天保山運河、木津川運河の開鑿、或は櫻島の横棧橋、埠頭地沿岸の護岸改良、上屋倉庫の增設、埋立地區の道路下水など色々の仕事をやつて港の開發に勗めたが何うもうまく發展せぬ、實際私が昨年春此地に參りました當時でも、港内には船の影が薄く、埋立地の百二十萬坪は殆ど蘆荻の茂るに任せた不毛の地で、前途望洋の歎とは實に之かと思はざるを得ませんでした、所が意外にも其夏になり秋になりますと共に、この大阪の港が矢庭にそ

の急激なる利用を見るに至つたのであります、これは、申す迄もなく今度の戰爭に因つて日本の商工業が非常に勃興して參りましたことが其動機となり刺戟となつたのでありますが、就中その最も有力なる直接原因としては、神戸の港が上屋も倉庫も停滯貨物で一杯になつて如何ともすることが出來得ない、船が荷物を持つて來ても、始末の着けやうがない、陸上の空地と云ふ空地は更なり、艀船までが倉船に用ゐられて阪神間の水運の連絡を取ることが出來得ない、同時に輸送も大停滯で、始末の付かぬ所から、茲に已むを得ず、本船を大阪に廻すより仕方がない、大阪には十分なる機關も無いが、已むを得ないと言つて、本船を初めて大阪に着けるやうになつたのであります、併し船が來て見るとどうして、却々港も良く水も深い、七千噸位の船までは自由に入れますし、仲仕が足らぬ、倉庫が足らぬと云ふやうな問題は無雜作に解決することが出來ましたので、それからと云ふものは急にドシ〳〵本船が入つて來るやうになりました、即ち船が入つて來る癖がついたと同時に陸上に於ては倉庫上屋其他の機關は迅速に充實されまして現に三萬坪からの倉庫上屋が出來上つたのであります、約り、大阪の港に船の來なかつた眞因は斯う云ふ機關や設備が足りなかつたからではなくして、從來唯何となしに來る癖がつかなかつたと云ふことにありまして、畢竟は船主貨主の喰はず嫌ひと申しませうか、習慣の力の大なることを恕歎せしむる外はありませぬが、何しろ大阪港の爲に一朝この習慣が破れたことは無上の福音と云ふべきであります、其所へ持つて來て別に昨年來造船業が盛に發展しましたのと及び新設の工場を水運の都合よき所へ持つて行きたいと云ふやうな希望から築港の埋立地が盛に使用され出したと云ふことも港に取つては結構な事柄だつたと思ひます、それで昨春までは築港の埋立地の貸付けを主とした港灣の收入が一年十四萬圓に止まつて居りましたのが、昨年に於きましては急に三倍になつて四十二萬圓に上り又本年は多分五十萬圓には達す

るだらうと思はれますが、更に來年にもなりますれば六十萬以上確實に收入し得られる積りであります、扨て斯く船が一度やつて來て見ますれば、其所に大阪築港の眞價は十分認められるゝのでありますから最早今後は如何なることがあらうとも最早船が來ないと云ふことは無いので現に昨年の築港入港汽船數が一日平均十五六隻だつたのが今年は其倍の三十隻即ち一ケ月一千隻に上るの有樣ですから、やがては寧ろ大阪の港内は狹くて足らぬぢやないか、モット擴張しなければならぬと云ふやうな船舶輻湊の時代が近き將來に押迫つて參ることだらうと思ひます即ち曩に住友倉庫會社から繫船岸一部の經營を出願しました時には築港の價値は尙疑はれて居る時勢でありましたが、爾後形勢一變の結果として、市自身亦更に八百萬圓を投ずる築港殘工事を施行することゝなり、又政府に於ても多年の問題たる臨港鐵道問題を一擧に解決して呉れ又大藏省は稅關本廳舍を埠頭に持つて來ることに定まり、又陸軍省の方も十萬坪の用地の位置撰定に市の希望を容れて呉れまして、寔に多年の問題が凡て僅の間に解決を見ることゝなり、又民間の有力な倉庫會社も夫々大規模の計畫を以て港頭の設備に力瘤を入れ出して呉れ、一方に船は益々數多く入つて來て彼の大棧橋にも一日平均三隻の繫留を缺くことはなくなり、寔に何れの方面からも春風春水一時に來るの快感を味ふことになりました。

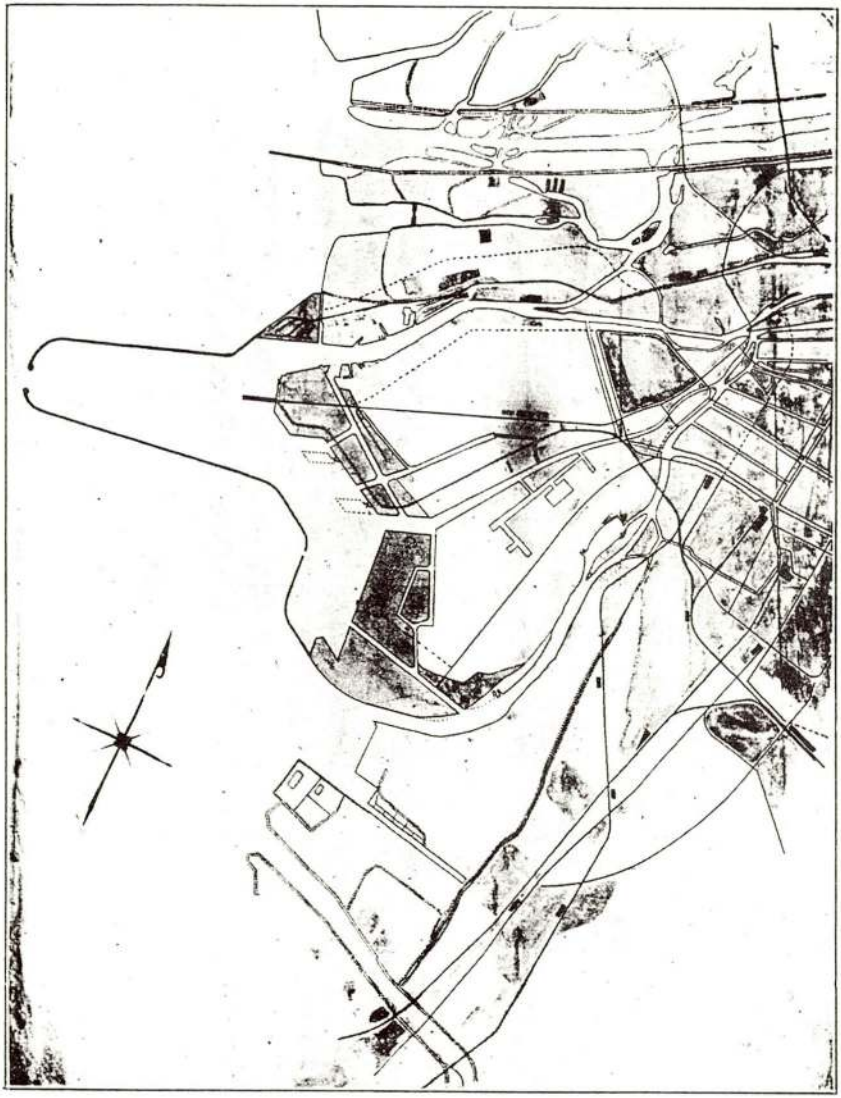
次に、試に大阪港の貿易額統計を少し申上げますが、之は大阪と云ふ市の實力を知る上に於て好い例であらうと存じます、即ち大正二年乃至五年の統計を通觀してその概數を見まするを先づ第一に大阪市の一年の海陸兩輸出入貨物は一千三百萬噸でありまして東京の一千萬噸に比較しますと、それよりは三割多いのであります此一年一千三百萬噸の貨物は大阪では水運が六割五分（八百五十萬噸）汽車が三割五分（四百五十萬噸）と云ふことになつて居りますが、東京では水運が四割（四百萬噸）で汽車が六割（六百萬噸）と云ふ割合で、約り東京は汽車の方が

多くて水の方が少いことになつて居ります、大阪は遖に水の都だけありまして水に便るものが六割五分、東京の倍額以上になつて居ります、さうして兩方合して前申します如く一千三百萬噸と云ふ大きな噸數を更に金に換算しまするど十八億五千萬圓の價額で一年に是だけのものが大阪市に出入して居ります、さうして其中で入つて來るものが八億五千萬圓、出る方が十億圓で即ち入つた八億五千萬圓の貨物が十億圓の價額となつて出て行く譯でありますから此差引の一億五千萬圓と云ふものが大阪市民全体の消費以外に商工業による一年間の利得と看得べき譯であります。入つて來るものはどんなものかと申しますと、主に原料品とか粗製品が多く出て行きます物は其噸量に於ては減つて居りますけれども、寧ろ金目のものが出て行きます、つまり入ります時には內國品並に朝鮮貨物の直段は一噸に付き平均八九十圓でありますが、それが出ます時には朝鮮或は內地の各方面に向つて一噸百七八十圓となつて出て行くのであります、又外國品が船で入る時は一噸二百二十圓位ですが、一且大阪人の手に懸つて出て行く時には噸三百卅圓の値打のものとなるのであります、是が大阪市の商工業の面目の一端を語る所の頗る見易い一つの例でございます。次に此一千三百萬噸の貨物の海陸運輸の割合を申しますと、水で運びます高は一昨年は八百五十萬噸、昨年は八百六十七萬噸となつて百萬噸程殖えて居ります、さうして是等の水運に依る貨物は大阪の何所で取扱はれて居るかと言ふと、一昨年の八百五十萬噸に就いて申せば其內五百萬噸は安治川に於て取扱はれ、築港で取扱つたものは二百萬噸、木津川は百萬噸、尻無川は五十萬噸と云ふ割合で、歩合から申しますと安治川の五割八分に對して築港は二割四分しか働いて居ないことになります、斯の點から言へば安治川の方が豪いと云ふことが言へますけれども、抑も築港が無かつた時代のことを考へますと全く非常な相違で安治川が今日斯く多量の貨物を取扱ひ得る所の力と云ふものは全く築港のお蔭なのでありま

す、成程築港其物はまだ二百萬噸しか取扱つて居ないけれども築港が出來て安治川口が船舶の出入に非常に安全になつた結果として、安治川が斯く多數の貨物を取扱ひ得ることになつたのであります、若し斯の築港と云ふものが無かつたならば安治川は到底今日此活動を望むとは出來なかつたのでありまして、之に依つても昨年以來の如く商工界業の活躍の目覺ましき場合若し斯の築港の備へがなく凡て一神戸港を賴まねばならなかつたとすれば我大阪市の商工業者が如何に努力し焦慮する共果して能くあれだけの利得を見得たでありませうか、前にも申しました如く、神戸に貨物が停滯して什しても大阪へ思ふやうに廻つて來なかつたならば、大阪の商人は神戸迄取りに行かなければならぬ、如何に苦心しても汽車は貨物の停滯で動かない、本船は來て居つても倉庫も上屋も貨物で一杯で思ふやうに荷物を捌くことが出來ないと云ふやうなことになつたとしたならば、大阪の商工業者は機會を失して、如何に神戸と大阪の間を賣り廻つても迚も今日見るが如き大收益を見ることは出來なかつただらうと思ひます、即ち是は全く一面から我大阪築港の眞價を證明し得たものだと言へるのであります。

茲に序でに大阪と神戸との關係に就て申上げますが、大阪へ參る荷物の中で今でも神戸から艀船で來る貨物があります、之は一年に百七十萬噸程あります、何故之だけの貨物が本船で直接大阪港に參らないかと云ふに、之は地勢の關係上港の自然的水深の關係上神戸には自由に歐米航路の一萬噸以上の船も着きますが、大阪港は如何にも遠淺で現在の規模では到底是等の船を着けることが出來ないと云ふことに歸着致します、即ち若し此船を着けやうと思へば大阪の港を更に々々沖の方へ遠く深く掘らなければならぬ、同時に今の防波堤をその倍の長さに延長しなければならぬ、而も斯く迄して神戸の港と競爭することが得策であるかと言へば、之は不得策である、大阪は何も神戸と競爭してまで歐米航路の大船を呼ぶ必要はありませぬ、是は國家

大阪築港地圖（現狀說明圖）

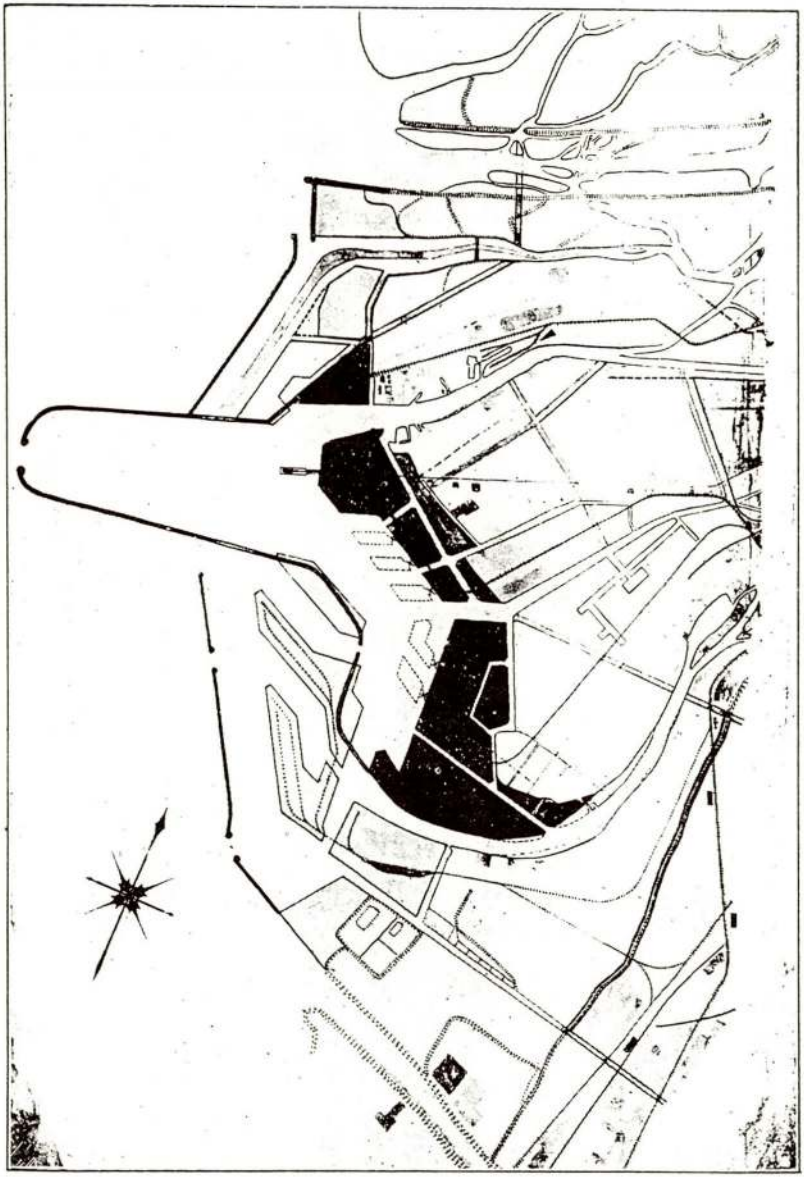


最北部を走西せるは新淀川にして次は舊淀川河口なりし正蓮寺河なり

築港北部に流入するは河村瑞軒の開墾せる安治川にして南部に在るが尻無川なり

木津川は大阪市中央より西南に流れて築港南端に逢す

最南部を西流するは大和川なりとす



大阪築港地圖（將來豫定計畫圖）

的見地から見てもさうでありますが又大阪自体から考へて見ましても不經濟でありまして、大阪は其地勢上どうしても玄關口ではなく寧ろ臺所の勝手口に當るのでありますから、其附近に臺所があり納屋があつて宜い譯であるが、神戸の港は玄關口でありますから客間もあれば應接室もあるべき筈で之で初めて兩方の港が、御互ひに無理なことをやらないで各其特色によつて立ち得る、否寧ろ我大阪は其絶大な經濟的威力で以て今後は其玄關口たる神戸を抱擁して發展し能ふ譯である、のみならず、事實斯の二港の設備を以てしては將來互に其全力を盡し合ふた所で尚且つ海外の著名な一港灣設備に比肩し得る時があるか否かゞ寧ろ問題である位であります

以上述べました如く、今日迄の事情は先づ大体こんな有樣でありますが、次には進むで今後斯の大阪港がどう云ふ風に發展し擴張さるべきであるかと云ふことを申しますれば、大阪港の設備を充實し港内の浚渫區域を擴大せねばならぬと云ふ機運は最早手近に迫つて來て居るのでありまして、彼の八百萬圓許の殘工事と云ふが如きも實は知れたもので、進むでは尚一層大きな規模と設備とを要することにならうと考へます一般に都市計畫の目標とする三十年後五十年後と云ふことを豫想しまするとと、私はこの防波堤で限られた二百二十萬坪の港域を以て尚足れりとし能はぬ如くに考へます、無論その以前に市としても民間としても爲すべき事柄は多々あるのであります、港内浚渫區域の取擴げの如き、艀船溜帆船溜の新設の如き、船客用棧橋の設置貯炭場危險物置場の特設の如き、或は浮標或は起重機艇の設備の如き、或は大棧橋の改良の如き、その項目は頗る多いのでありますが、尚その以上に私は進むで港域の擴張をまで豫め目論見の中に入れて置きたいのであります、早く大勢の赴く所を察して、今から之れに應ずるの規模を案じ、百般の施設を是杆格せしめざるやうに配慮したいと思ふのであります、それで試に私案を圖記して御覽に入れ且つ御批評を仰がうと存ずるのでありますが、無論成案ではありま

せぬ、尚斷わず研究に研究を續けて行きたい爲めの原稿に過ぎませぬからその積りで現在の港域と對照して御覽ください、但し現在港の外にあるこの正蓮寺川を港內に取入るゝと云ふ計畫に就きましては既に一兩年前から該河の沿岸地主間に熱心なる希望がありまして、市に於ても之れに同意を表し曩に出願の手續を致したのであります、即ち圖に於て御覽の如く北防波堤の一部を切破りまして水深二十八尺の航路をつけて正蓮寺川口に達し、航路を守る爲には一條の防波堤を築き、又航路の浚渫より得たる土砂を以て沿岸に埋立てを爲し、繫船地並に工場地としての開發を期さうと云ふ考へなのであります寔に結構な計畫で、さうなれば現在市內にありながら全く利用されて居ない約百二十萬坪の正蓮寺川沿ひの土地が良好なる工場地としての發展を遂ぐるのみならず、新たに尼崎市と大阪築港との間に安全なる水運の捷路を得る譯になりまして自他の便利は非常なものであらうと存じます、現在では此尼崎の工業地は頗る大阪と接近して居るに拘らず水運上は尚神戸港の勢力範圍にありまして大阪港を利用する段に達して居りませぬ、これも畢竟は多年の慣習の致す所のもので、極最近に大阪港にある一倉庫會社が試に大阪港から棉花を曳船でもつて尼崎附近の一紡績會社に運むだ所がその配付が頗る迅速だつたのに紡績の人達が驚いたと云ふ、さう云ふ次第ですから、今後若し大阪港の港門を迂回せずにこの新防波堤の蔭に沿ふて安全且つ素早く尼崎と水運を連絡せしめ得ることゝなれば、最早尼崎は事實上大阪の延長と見做して然るべきものかと思はれます、又都市計畫の方面から考へまして、この正蓮寺川の兩岸百廿萬坪の不毛地に加へて安治川より木津川に至る築港背面の未開發地二百六十萬坪及び築港埋立地百廿萬坪を以てすればその合計五百萬坪に達し、現在大阪市全面積の約三分の一を占むる譯でありますからこれが開發の方策如何は頗る興味ある研究問題であると存せられます。

さて斯く港の北方に於ける正蓮寺川方面の計

畫は最早確定して居りますが、その以外の港域の擴張は地形上何うしてもこれを港の南方に求めねばなりませぬ、處が其處に木津川が丁度正蓮寺川と同じく現在は港の區域外にあります、而してその兩岸の關係地主が土地の開發上築港との連絡を要望する程度は正蓮寺川と同じことなのであります、遺憾ながら今日では木津川の一方が郡部である爲め未だ具体的の計畫にまでは進むで居ませぬが、何れそれも近い内に市に編入さるべき譯かと思はれまするし、それでなくても、此木津川を港外に放流せしむることは最早事情が許さぬ程に兩岸の發展を來して居るのであります、其處でこれは全くの私見として此方面の港域擴張を圖のやうに畫いて見ました、即ち市も新しい埋立によつて利得し兩岸も亦港との連絡並に浚渫によつて仕合せすると云ふ方針で、此部分の現在防波堤を切破つて船の出入を便にし將來は何程でも繫船岸なり錨泊地なりの增加され得るやうに埋立地と新防波堤とを配置し、又鐵道との連絡をも水運に劣らず利便ならしむるの目的で考案したのであります、恰も北の正蓮寺川取込みと相俟つて鶴の雙翼を張つたが如き布置であります、それでこの南北凡ての海岸線に十分の繫船岸が配置されました曉を想像しまするることは今日頗る悠遠の感がございまするが、併しそれでもつて大阪港全体に一萬一千間の船着場が出來るのでありまして、これを彼の漢堡港の一萬二千間、馬耳塞の八千間、アントワープの一萬三千間に比すれば漸くその壘を摩するに至るものと云ふべく、若し更にロッターダムの二萬二千間、ロンドンの二萬九千間、リヴアプールの三萬一千間に對比すると尙著しくその隔りの大なるを思はねばなりませぬが、この以上の擴張計畫も無論不可能な譯ではありませぬ、たゞ先づこの位ひの程度で大阪港の三十年後を見て置けば今日實際問題を處理する上に大きな杆格を生ずることはあるまいと存じて一應の段落を付けたのであります、一寸概算でありますけれどこれだけの設備をするに先づ六千萬圓を要するだらうと思はれます。

六千萬圓の金を一事業の爲のみに使うと云ふやうなことを計畫しては何にもならぬと思はれる方もあらうが、此前に片岡君のお話にもありました如く總て計畫と云ふことの上には金のことは別問題で暫く眼中に置かないのであります而して茲に甚だ便利なことには築港の計畫と云ふものは決して一度に全部を是非やらなければならぬと云ふものでは無く、財源に應じて小刻みに進めて行けば宜いのでありまして、上水や下水や又は鐵道の如く初めから終までを一擧に仕遂けねば効用を見られぬものとは異り、築港の工事だけは如何樣にも小刻みにやつて行つて一尺深くすれば一尺の利千坪擴げれば千坪の益と其成るに從つて之を實用に供することが出來且つ何等の損害をも生ぜぬ頗る彈力性に富んだものであることを御承知被下たい、即ち木津川取込工事にしても先づ第一着には木津川と築港とを連絡せしめる爲に防波堤の一部を取去ることをやつて見たい、次には川口から附近を少しづゝでも浚へて船着きを良くする、其土砂を以て順次に埋立をやる、又一部分づゝの新防波堤を築く、と云ふ風に小刻みにやつて行くならば、今後三十年後の大阪の築港は何時の間にか今日とは其規模を一變するであらうと斯樣に私は考へます。若し只今申したやうな計畫にすると港内の水面積が約三百五十萬坪程になる譯で、之を現在の二百二十萬坪に比べて隨分大規模のものとなります、兎に角私は之を强てやらうとも何とも考へては居りませぬ、又無論市の力だけでは容易に斯樣な大事業がやれるとは思ひませぬ、固より民間事業家の力に俟つ所が頗る多いのでありまして、若し是等の人達が市と協力し一の統一した計畫の下に斯種の事業を進められるとあらば、それは市としても大に之を歡迎する所で、一日も早く有効な設備を整へる事が御互ひの利益でありますから、民間の力と市の力とが合体し共に同一の方針を採つて進みましたならば、恐らく三十年後の大阪築港は斯かる盛大なる狀態を實現しはしまいかと思ふのであります。今日私等をして斯かる大規模の空想を臆

面なく諸君の前に話さしめるに至つたと云ふこ
とも約りは我大阪市の力の奈何に偉大なるもの
であるかと云ふことを立証する所の一端であら
うと思ひます、私は此偉大にして且多望なる前
途を有する大大阪市の實力を茲に讃美し歎賞し
且つ祝福せんと欲するのであります。（丁）

▼大阪港と出入貨物の關係▲

大正五年中大阪に於ける海陸出入貨物總量は、一千二百九十六萬二百三十八噸にして、內出貨物四百九十五萬五百十噸、入貨物八百萬七千七百二十八噸にして、差引三百五萬九千二百十八噸を入超せり、今之を運途別に見るに、海運八百五十七萬五千三百六十九噸にして、總出入量に對し、海運は七割に相當し、海運貨物出入別に見るに、出貨二百五十六萬一千二十四噸、入貨六百一萬四千三百四十五噸、差引三百四十五萬三千三百二十一噸を入超す、是れ、大阪が大商工都市たる關係上、原料品、食料品等の大量貨物の入貨多く、出貨は精製品を主とし、而も、運賃其他の分布區域の關係上、低級の大量貨物は海運に便りて輸入せられ、又外國貿易の殆んど全部が海運に便るが爲なり

（「大阪市勢要覽」より）



活動寫眞劇場の改良

（上）

會員　葛野壯一郎

劇場とか寄席とか娯樂的建築物で、其數に於ても內容に就ても最近に最著しい發達を遂げたものは活動寫眞劇場で有ります。津々浦々の什麼少いさな町へ行つても、現今では、一ツヤ二ツの常設活動寫眞劇場を持ツて居らない處は無い。歲から云へば其初めて輸入せられて以來漸く十年餘りで、斯の如く全國を風靡し一般民衆の歡迎を受け、延いては我が興行界全般を通じて著い變化を齎らしたのは、寔に驚く可き事實で社會的に其影響の甚大なる事は申す迄も無いので有ります。併し斯の事實は獨り日本だけでは無い……歐州各國は勿論亞細亞亞弗利加濠州北米南米カナダメキシコ……殆むど全世界を通ずる驚嘆す可き事實で、斯の点に關して我邦も亦御多分に漏れず大勢に順行して居る譯で有ります。輸入當初には寫眞も簡單で其興行の如きも大部分在來の劇場を利用して居つたが、內容が複雜に成り種類が增加して來たに準じて舊來の芝居小屋を特に其目的に改造し、又は新しく常設の活動寫眞劇場の建築を觀る樣になつたが、孰れも明治四十年以來の事の樣に自分は記臆して居ります。是がまた日本だけでは無く世界を通じて起ツた事實で、無數の劇場の改造が始まツた計りでなく、新たに在來の劇場とは別に活動寫眞興行のために、ホトプレイハウス即ちモーションピクチユアシヤターと稱する一

新形式が生れて、如何にすれば此熱烈な民衆的嗜好に投じて其満足を得可きかが、興行界を通ずる大きな問題となつて居ります。我が邦の建築家が斯の現前の大事實に遭遇し乍ら一向考へて居らない如く觀ゆるのは頗る遺憾な事で、技術者大勢に暗し等と批難を受けるのも亦止を得ないかと思はるゝので有ります。

新奇を好む米人が最も活動寫眞を好むのは當然で、一説には米國では日々活動眞寫のお客は一千萬人だと記されて居ります。又他の説では反對に少なく三百萬人以内だとも云つて居ります。并は兢れとしても同國に於ける活動寫眞の社會的勢力の重大で有り、平民的娯樂機關として最も活用されて居る事は明かであります。政治的にデモクラシーの思想が殆むど今や世界民衆を支配するが如く、娯樂的に活動寫眞の熱愛が一般社會を支配して居る斯の二つの傾向は、現代に於ける最も著しき社會的現象で有ります

常設活動寫眞劇場の建築物及び設備に就て米國記者の記すところによると、其最進むで居るのは歐洲大陸で、其流行の割合に米國は後れて居るといふ事で有ります。是は單り寫眞劇場に就て計りでなく一般劇場建築が割合に進むで居らない……と云つても、勿調我邦等の比較にはならない處では有るが……其自然の結果で有るが如く觀ゐるので有ります。露西亞のカニヨンコンといふ人はモスコー市の最も繁華な區域に出來るだけ狹い範圍に出來るだけ多くの觀客を收用せんが爲、一スクリーンに面して三層の床を有する、活動寫眞劇場の驚く可き巧みな構造を考案したといふ事で有ります。其案によると最下の土間即ちピットフロワーを路面以下地室とし、スクリーンの前に大きなオークストラを設け其後の部分を最下等の觀客席として床の勾配を後下りに附けて居る……即ち斯の席の觀客は少しく仰向いて見物する勝手になるので有ます。是は頗る不便な方法でありますが、席料が安いので有るから止を得ないので有ります。第二層が普通の床で地下席の第五列から初つて勾配も席割も普通の方法に依つて居る、第

三層はバルコニーで是れは第二層の第五列目から初つて、普通のバルコニーの勾配席割に準じて居るといふ事で有ります。一寸聽いただけでは寔に窮屈を極めて居る樣に考へられるので有りますが、地價の高い目拔の場所では斯んな考案も必要で有るので有ります。單り寫眞劇場に限らず凡て斯の部類の建物で經營者の第一に望む處ろは出來るだけ定員の多からんことで有ります。成る可く狹い處に成る可く多く詰め込ふとするので有りますが、觀客の愉快といふ事を本位とすれば自然と程度の問題が起つて來る、出來るだけ座席を廣くし、觀客をして愉快に見物せしめるといふ事は、高等劇場としては勿論第一の要求かも知れないので有りますが、寫眞劇場の如き安値な最も民衆的のものでは必ずしも左樣とのみは考へられない、殊に斯の種の興業場の性質として最も繁華な地を理想とするからは、相當な程度に於ける詰込主義は止を得ない結果の樣に考へられるので有ります。

位置と大さに就ては比較的小さな種類で主として近隣の人を常客とする向では、出來るだけ眼に附易い親近の位置をよしとし、ズット大きな規模で一般的のものでは市の中心を理想として居ります。建物と空地の關係は我邦にも警察の其れ〳〵取締規則に制限されて居るところで有りますが、專門家の主張によると定員三百人迄は建物が比較的廣い街路に面する以上、別に兩側に空地を置く必要がない、定員三百人以上千人以下では座席六百に對して巾五呎に相當する空地を兩側に置き、空地の一端は前後孰れかで公道に通ずる事を條件とする、其以上は座席百を增す毎に巾六吋づゝ增加するといふので有ります。或市にては二階棧敷即ちバルコニーのない場合は、左右空地は必ずしも觀客席の全長に相當しなくとも、其非常口から街路迄の通路が有ればよいと定めて居る、また斯の通路が舞臺或は建物の孰れかの部分を貫通する場合は其通路を耐火構造とする、又定員が千人を超過する場合は少くとも巾十呎の空地を要するとして居ります。特別に大規模のものは別として、普

通千二百から千四百の定員を以て最適當なるものと考へて居る樣で有ります。以上は外國殊に主として米國の例で有りますが、我邦に於ても略同樣の基礎を以て計畫する事が出來るのみでなく、定員に就ては一般演劇と異なり、活動劇場では一日數回の興行を現に行ひつゝ有る結果千二百の定員を有するものは優に一般劇場の三千內外の定員を有するものと對抗し得る譯で、斯の意味に於ても右に上る大さが普通に最適するものと考へらるゝので有ります。

外觀に就ては其內容が從來の劇場と全然趣を異にするだけそれだけ樣式に於ても面目を一新されなければならぬ筈で有ります。併し斯の問題は未だ充分な解決を得ないで獨り我邦許りで無く、歐米に在つても有合せの形式に據つて居るといふ有樣で有ります。米國では建物の前面の一部を商店等に利用する事は、場所柄によつては頗る有利な事で有るが、其都市の建築法規によつては是を禁ずる場合も有り、旁研究を要する問題だとして居ります。一般に外觀としては表廻り入口玄關等共、出來るだけ俗に落ない程度で通行人の注意を呼ぶ事が必要だとして居ります。切符賣場の如きも其位置及び形に注意を要する、斯麼事は頗る小問題の如くにも思はるゝが、大衆を對手とする劇場の如きでは、先づ第一に充分な注意を以て考案せられなければならぬ部分で有ります。內部の裝飾に就ては活動劇場は一般劇場に比し、より多く裝飾的に取扱ふがよいと云ふので有りますが、是とても素より程度問題で、大俗に失する事は勿論避け度いので有ります。

觀客席即ちオウヂトリアムは活動劇場も一般劇場も同樣で有るが、活動劇場に於ては視線に對する特別の注意が必要で有ります。其ためには舞臺額緣即ちプロセニアムオープニングが相當の大さを有し、土間最後列の席からでもスクリーンの頂上二三呎位迄は視ねなければならぬとなつて居ります。我邦の活動寫眞劇場では西洋とは異つて一々詳細な說明聲色が入る許りで無く、連鎖劇等といふ特種の形式迄生れて來て

居るので有るから、視るといふ事と同樣宜く聞ゐる事が必要で、斯の点からは全然普通劇場の觀客席と全く同樣の原則によらなければならないので有ります。西洋でも單に寫眞許で無く其中間に音樂或は輕い寄席藝の樣なものを入れる事は有るには有つても、其音響に對する必要の程度は著しく異て居るので有ります。元來說明なしに何人が觀ても了解せらるゝ樣に出來て居る寫眞に對して、殊更らに念入りの說明を加へる事は却つて沈默劇即ちサイレントドラマとしての寫眞の本質を著しく害する譯では有りますが、一般人情風俗を異にする我が觀客に取つては、詳細の說明を要するといふ事も亦止を得ない事らしく考へらるゝので有ります。

活動寫眞劇場は寫眞其物から考へると大した舞臺の必要は無いかの如く思はるゝので有りますが、夫れは間違で音樂や寄席藝を其中間に入れる事は別としても、兎に角相當の舞臺を要するといふ事で有ります。是は寫眞を出來るだけ觀客から距れしめて奥行を附するためと、觀客席に設ける多少の燈火が有つても映畫に影響しない爲めのシャドーボックスを置く必要からだと云ふので有ります。我が邦でも西洋でも觀客席を眞暗にして寫眞を映すといふ事が、從來からの習慣では有りますが、極新らしい說では此觀客席を暗くするといふ事は、種々の不便不都合は勿論、觀る方からも非常に不快でよく無いといふ事で有ります。例へば何か喜劇物でも映して居る場合に、暗がりでは笑つても互に觀ゐ無いから云はゞ勝手に笑つて居る譯だが唄を明るくすると、互に甲の笑が乙にも移つて一層多く愉快に笑ふものだといふ事で有ります。觀物席に多少でも燈火が有るといふ事は、單に寫眞からする反射のみの暗がりよりは遙かによいとして居ります。最近の研究では軟らかな琥珀色か或は桃色の光線で、觀客席を照すのがサイレントドラマとして最も結果が宜しく且つ愉快で外國では高等活動劇場には實施せられて居るさうで有ります。我邦では一般に活動といへば暗黑を想ひ出さす位で、其爲には風紀上由々しき

欠点多く、男女の席まで全然別にする等の珍態迄出來て居る譯で有るが、是は宜しく最近の理想によつて明るい方に改めるが宜しい、勿論其爲めには映寫版即ちスクリーンを現在より十數呎奥へ引込めて、相當のシャドーボックスを附すると共に、舞臺廻りに多少の改造を餘儀なくせらるゝは止を得ないので有ります。兎に角こう云つた方面をモット學問的に研究する事が最も必要だと考へられます。

座席の配置に就ては、活動劇場は一般劇場に比して一層困難で有ると稱されて居ります。其理由とするところは席の前の人が立つて其後者の視線を遮斷する事は、視る事を主とする沈默劇に在つては興味の連續を害する事、到底視るとに共に聽く事をも大切とする一般演劇の比では無いといふので有ります。此爲めには座席の間隔は出來るだけ廣く、即ち一般劇場の三十二吋に對して三十六吋以上、また其座列の如きも十二席十三席或は十四席に對して、一列八席を限度とするので有ります。凡て寄席だの芝居興行物は窮屈なものとして、夫れに慣れて居る我邦人は一向其邊の事には無頓着で有るかの如く觀ゆるので有るが、時代の進歩は到底現在の樣なスシヅメ主義では滿足されない、現在よりはモット廣やかな且つ愉快な座席を欲する事は一般の既に要求する處で、斯の種の建築物に在ては其邊の研究も亦頗る重要な事で有ります。

（未完）

亭梅

早梅一樹傍簷發　占盡風情蝶未知
霜後含香千萬蕾　臘前破蘂兩三枝
幽研寫得文貞賦　清麗裁成和靖詩
宜嫁君思妝素面　從來寒殺雪生涯

石川丈山



都市と建築

□建物建築税の不法を論ず

會員　都市研究生

我大阪府の今年度豫算案に於て建物建築税なる目を發見して其不理不法を感せざる者は恐らく一人もあるまい。唯世人が之を喧しく言はざるは其費目の餘りに小なるが故に敢て爭ふの要なしとするのであるか。或は府政に冷淡にして豫算案の内容を見るだけの親切なきか孰れかによるものと見るを至當とする。乍併事如何に些細なりとも理に於て不法であり勢に於て逆ふものとすれば、吾人は都市改良の立場より其非を鳴らして府當局者の反省を促かし、斯かる立案の徹回を希望せざるを得ないのである。本年は物價騰貴と社會の事情一般に發達した爲めに各府縣共に其豫算の膨脹を來たし當局者は昨年度の豫算案に些小の修正を加へて之を提出すると言ふ月並式にゆかない事情にあるは吾人も大に諒とするところであるけれ共、税法の適用を誤る時は其弊の恐るべきものあるは亦大に警戒を要する点である。近來世人を驚したる動力課税の如き又造船課税の如き孰れも其適用を誤れる課税法の好實例である。幸にして動力課税は閣議其不法を認めて成立はせざりしも、造船税は内務省に於て或る程度まで認めるとか認めぬとか言ふとに彷徨して居る。固より遞信省その他に於ては之を非認せんとして居るけれ共、事地方廳の課税なるが故に或は地方局にて地方の事情と時日に制限を附して輕少なる程度にのみ之

を許すのではないかと噂されてゐる。

我大阪府の建物建築稅も正さに上述の二稅と其性質を一にして更にそれ以上に弊害を釀成すべき傾向を有して居るのである。抑我國の大都市は現代文明の進運に取殘されて今は世界文明の程度よりも數百年後れ、吾人の世界的活動には常に甚大なる障碍を與へつゝあるような事情である故に其改良即ち文明的設備の建設には全力を擧げて之に從事せねばならぬのである。近時輿論を動かし漸次其實現の運びに移りかけた都市計畫の事業は即ち其文明的設備の建設を言ふのである。都市の文明的設備とは何であるかと言ふに、其方面實に多種多樣一語に之を言ひ盡すとは出來ないのであるが其根本は市街系統の改正と建築の改善で其他の設備は凡て此兩者を援護する手段及內容なのである。而して此兩者は實際人体の骨骼と肉体との關係の如く全く相俟て、始めて都市を形成するのであるから、市街系統が如何に完全に改正されても其實質的內容たる建築が貧弱ならば其都市の實際的價値は發揮出來ぬのである故に、都市の發達には市街系統の改正(市區改正)は基礎的條件であるとは言へ、其建築の改善されざる以上其都市の眞實の價値ある發達とは言ひ得ないのである。今茲には今後都市の建築としては如何なるものを要求すべきやに就ては論ずることを止め、唯單に文明都市として我大阪市は其建築を大々的に普遍的に改善せねばならぬ時機に到達して居ることを前提に本問題に入ることとする。

建築は官公廳の建物を除けば主として個人經濟を基礎とするが故に、其改善を促かすには國法行政命令其他一般の公私の制裁が最も必要なのであつて、單に箇人經濟の立場己に委任すべきものではないのである。固より現時の都市經濟の原則は我國古來の木造脆弱の低抗力少き又恒久性なき建築をば漸次都市の中樞區域より除去せしめねば已まぬのであるけれ共、都市の一樣なる又適當な發展の爲には嚴然たる國法と合理的の行政命令は最も必要なる條件でなくてはならぬのである。不幸にして我國には未だ建築

に對して國法の制定なく甚しく遺憾を感ずるのであるが、本期議會には恐らく其根本法は提出せらるゝであろふと思はれる。若し其法律が制定さるゝならば、我大阪府も其法の適用により都市改善の機運は相當に促進し得られることと信ずる。然るに現行營業稅法は其課稅の方法として營業所の時價を標準とし其營業者に一定の賦課をなし事實建築改善の機運を仰制し來りし甚しき矛盾あり吾人は之を營業稅の惡稅たる所以の一つに數へ來りて其徹廢を絶叫し今や其課稅法は收益課稅を最も合理的なりとして認めらるゝ時代に到達せしに何ぞ圖らん今回我大阪府は建築改善の機運を更に抑制せんとする地方稅を創設せんとするに際會し吾人は偖りに其方針の現代文明の趨勢と相反するに驚かざるを得ないのである。

此回の建築稅は財產稅としての意味ならば多少理解し得られぬことはないのであるが、事實は全くそれを裏切り稅率は小なれ共借家人に轉嫁すべき意味を有し、又一方建築改善の機運を促進する爲めに相當の保護を加へねばならぬ時代に其反對の態度を示すは實に由々しき問題である。吾人は從來大に主張せんとして今日迄其時機を待ちし事こそあれそは改善されたる建築に對して其地方廳は十分の奬勵又は保護をなすべきものであると言ふ主張なのである。此主張は歐米の都市にて二三實行し來りし例あれ共吾人の唱へんとする意味に於ては未だ實行しては居ないやうである。我國都市の如き不完全な古代建築をその儘踏襲し來りし處にては、其改善を促進するする爲單に取締規則によるのみでは到底不可能であるから、當局者は其全力を盡して其促進に適當なる保護政策を採るべきではないかと思ふのである。保護政策と言へばとて造船奬勵法の如き直接の保護を意味するのではなく地方廳として穩當な手段を期望するのである。即ち其手段としては先づ第一に家屋稅の割引又は幾年かの免除を始め水道料金の割引優秀建築の彰表火災保險會社團をして相當の奬勵金を提出せしむること等數へ來れば其方法の少からざ

ると考へられる。或は永久的の堅固なる建築をなすを以て不久の土木と見做したり虚飾的誇張主義の態度と見做し成金税の如く其課税をなすに於ては、吾人は大に其不可なる、所以を説明しなくてはならぬのであるがそは多少問題外に亘る嫌あるのと又餘りに明白なる道理なるとにより此處にはそれを述べぬこととする。乍併今後我國の都市の建築が改善さるゝことに依つて、受くる市民全体の利益と其幸福は、其建築を直接利用する者と共に益々大きくなるのであつて建物一箇一箇の改善と雖も常に都市全体に其利益を波及しつゝあることを知らねばならぬのである。唯都市の体裁とか面目とか言ふ表面的の問題に止まらず其實質を向上し、即て都市全体の災害を輕減し衛生狀態を改善するのであるし、とて見れば現行營業税が家屋賃貸價格に課税するさへ文明逆轉の嫌あるのに、其外に小額乍ら又一時税なればとて此回大阪府が建築税を新設するのは理に於て全く間違つて居るのである。

世界の大勢は都市建築の新設に際して其建物の目的によりては市債の中より低利にて其資金の大部の前貸しをなすを原則とする時代になつて居るのみならず、建築の質權が甚だ自由に行はれて其新築を容易ならしめ以て都市經濟の發展に裨益するを一般の風潮とするのである。爲政家宜しく此世界的文明の進路を咀嚼して我國の行詰れる現狀拘泥の弊風を一掃し、大々的善政の方針によりて都市建築改善の促進を考慮すべきである。

（丁）

附記

本稿は大阪府今年度豫算案中に建物建築税なる新項目あるを發見して大に驚き其不合理なるを論ぜんため成りたる草案なり。府當局者は其後非を悟りてか該項目を徹回せしを以て本稿は亦一度筐底に收められたるものなり。乍併將來或は再び斯種の税目に關する新要求出でなんことを憂へ、茲に特に請ふて本號に發表することゝせり（編輯員）

* * * * * * * * *

神戸市に於ては時報に記載せる如く今回都市研究會創立せられ其第一回講演會を本月(日曜日)午後一時より中山手教會堂に於て開催せられぬ。都市問題の前途は今や全國識者の特に注目を措かざる處なれば本協會は特に傍聽筆記を徴して諸名士の所論を紹介せんと欲するものなり。而して本誌編輯上の都合より講演者諸氏の御校閲を乞ふの暇なかりしは甚だ遺憾とする所なり。特に講演者諸氏の御寛恕を願はざるを得ざるもの也。(編輯員)

◆都市の心理的基礎

神學士 賀川豊彦氏演

都市を構成せる根本的基礎は富と人なり。近世文明の諸都市は大いに機械力を利用して發達せり。而も其根元は人間の努力によりて導かれ都市は大なる富の蓄積する處となれり。都市に集中する人間の增加は、最近に於て殊に著しき諸現象を發生せり。十九世紀の初めに於ては世界の諸國の二十萬以上の都市は總計二十五位に過ぎざりき、然るに今日は如何、總計一百五十を越へんとする勢なり。英都倫敦市の如き人口七百五十萬と注せらる。米の紐育市の如きは五百二十萬に達し、巴里、市俄古、伯林、東京、維那諸市も二百萬を越へ巴里市の如きは二百九十萬を算するに非ずや。

西暦一三六四年、始めて『バークレー』氏により紡績機械發明せられし以來、産業の革命は起りぬ、一八一五年『スチーブンソン』の蒸氣機關完成せられてより機械工業勃興し始め、やがて一八二二年頃より都市の狀況は一變するに至

れり。則ち新しき人間の心理活動して民衆は都市に集中する樣になれ來れり。所謂群衆心理是也。斯く都市に人口の集中起れる結果、社會の經濟組織に大變動起り、從來都市の土地は多數の市民によりて分有せられたるが、殆んど小數の大地主によりて領有せられる事となれり。且つ地價大いに暴騰して經濟組織は全く一變せられたり。現在歐洲諸都市の地價總計二千四百億弗と注せられ、我日本の二十二倍を有する米國の地價總計二千三百億弗と稱せらる。斯く急激なる都市人口の集中增加より都市の住宅は勢不足を告げざるべからず、現に東京の如きは六千人の住家不足しつゝあり、故に家屋問題は各都市に於て起らざるを得ざるに至れり。

從來都市の住宅は其半分以上を市民が各自に所有し居たりき。伯林の如きも百五十年以前は市民の半數以上は夫々自己の家を所有し居たり然るに今日は市民總數の二パーセント或は三パーセントが都市住宅の大半を占有し、他は殆んど借家住居をなしつゝある也。斯くの如く人口の過集と住宅の不足は竟に如何なる都市にも貧民窟なるものを發生するに至り、近代文明の諸都市は細民住宅問題に就て調査研究を斷行せざるを得ぬ有樣となれり。

今其歷史的發達の經路を觀るに一八四八年頃各工場に於て其工業の發展に應じて多數職工の住宅を建設したる結果怖るべき事件突發したり。それは狹隘なる敷地に不完全なる住宅を急造して多數職工を過住せしめしために死亡率增加し來れる新現象を發見せる也。茲に於て人口の過集と住宅との關係に就いて調査を開始せざるを得ぬ事となりぬ。

紐育市にては一八七〇年より一九一〇年に至る間に人口百二十パーセント增加せり、而して市民の自殺率は亦急增して六十パーセントに達せり、蓋し都市は犯罪の巢窟といふべく、住民の過集は愈々犯罪の增加を促せる如く、近代文明の怖るべき方面を擴大し來れるを觀るべき也例へば當神戶市に於ても、予が自身に調査せる所に據れば、市と市外との犯罪の數は市に於て

約三十三倍に上れるを觀て一般を知るべき也。紐育市に於ては斯かる現象に驚き調査研究の結果之れが救濟に努力し、一九一〇年以後に於ては貧民窟の死亡率減退し最近大いに良好となれり。實に『都會は惡魔を作り神は田舍を作る』の諺は眞理なるべしと想はざるを得ざる也。我日本に於ては都市の死亡率更らに下らず、神戸市に在りては山の手は小率なれども、下町の工場地域に於ては却つて年々增加しつゝある傾向あり。不幸我國には現在正確なる統計なきが故に其率を知る能はざるは甚遺憾なり。予が自身の調査によれば山の手に於て千人に付き七人の死亡率に對し、下町の最も甚しき町内に於て千人につき四十一人を算するを觀て怖るべき事實を想像し得らるゝ也　近時流行しつゝある天然痘の如き、昨年晩秋の砌より發生したるものにして、しかも貧民窟より發生せる也。これ大いに研究を要する問題にあらずや、予等は市民の保健の上より視るも、心理の上より觀るも、此等の貧民窟を都市の中心地より移動せしむるの必要を感ずるものなり。之等の貧民窟は始めより市の中心にありしに非ず、神戸市の膨脹せる結果取り遺されたるもの也。市は其發展の情況によりて之等の貧民窟を處理すべきものならずや

都市に人口の過集せる結果市民の一部に過住の現象を發生せるは近代都市の弊にして、伯林紐育、倫敦等の大都市は皆其弊に困しみつゝあり。乍去多年調査努力の効果現はれ來り過住の弊は尙根絶せざれども皆健康の都市となれり。我國に於ける過住の現狀は最も甚し、貧民窟に在りては二帖敷に九人住めるものあり、所謂壽司詰を實行しつゝある也、斯くして若し傳染病の發生を觀んか、怖るべき結果は當然なる慘害を逞ふすること想像に難からず。故に都市の改善の諸問題中人口過住と住宅は特に考慮せざるべからざる重要問題なる也。

扨て茲に予は都市の心理的基礎について觀察を拂はんと欲するものなり。都市に人口の過集し來れる原因は前述の如き徑路を歷たれども都市の面白味は人間の群衆せるに在り。都會の興

味は群衆心理の諸現象に在り。然らば人口の群衆幾何あらば都市を形成すべきか、先づ二百戸集中すれば人口約千人を收容し初めて都市の單位を形成する如し。二百軒長屋を新設せる事例甚だ多し、戸數二百を算すれば必ず米屋、酒屋及風呂屋各一軒の必要を見る如し。而して所謂Local Colour（地方色）は民家二百戸集合して始めて著しく現はるゝ樣也。然らば都市の單位は二百戸を以てするが妥當なるべし。而して都會の最も適當なる人口の數字は三萬内外なるが如し。

由來都會成立の原因は主として天然的素因に據れるが故に天然的の條件都合よくば何處迄も發展するの性質あり、乍去人工的都市に在りては兎角人口集合せず、古羅馬時代に在りては盛んに人工的都市を造りたり、帝政時代の如き盛んに自己の名譽の爲めに機會を捉へては都市を新造せり。乍併斯かる人工的都市は什うしても自然的發達の都市の樣に人口增加せず、大程三萬より四萬位を極度とせり。蓋し群衆心理上より觀察すれば此の位が一番住み心地善きが爲なるが如し。然るに機械文明の到來せる以來は全く不自然なる都市の膨脹を現出して殆んど止まる所なきが如し。今日の大都市にして二百萬を越ゆるものに在りては全く不自然の絶頂にして不健全極まるものゝ如し。佛國の如きは『巴里にして陷落せば、則ち佛國の滅亡なり』と稱せらるゝ程に危險性を蓄積せる也。我國に於ても東京に暴動起らば直ちに全國に波及して其影響甚大なり、則ち群衆の過住は頗る危險性を帶ぶるものといふべし。斯くて近時大いに研究せられつゝある理想都市が人口三四萬位の標準を以て建設せられつゝあるは大なる理由ある所以なる也。

都市に集中し來る群衆は要するに人間の集合体なれば動物的本能の慾望よりして時に强烈なる刺撃を要求するものなり。蓋し田舍には何等の刺撃なし、茲に於て刺撃を要求する人間は必ず都會に憧がれて集まり來る、既に群集其者は大なる刺撃に相違なきも一度集合したる都市の

人間は時々強烈なる刺撃を欲するが自然なる也今其三四に就きて觀察せん。

都市に存在する刺撃の一は市場也。市場とは時に市民の衆合して物品の賣買をなす處なり。故に市民の集合に都合よき所に設けらる、神戸にても數個所に市場なるものありたりき、近時更らに春日通、新川、八幡筋、有馬筋並びに湧泉寺に新設せられたるが、住民少なき山の手に一つもなくして貧民窟の附近に設けられつゝあるは此間の消息を語るもの也。則ち市場は群集心理の基礎を有するものにして都市に缺くべからざるものゝ一なり、尤も最近新設せられたるものは物價騰貴に關聯する廉賣政策の下に開始せるものなれども大いに利用せられつゝあるは都市の必須なるものゝ一なる事を立證しつゝあるもの也。

公園は亦都市の重要なる刺撃物なり、我國に於ける公園は殆んど箱庭的のものにして、云ふに足らずと雖、東京の群衆といへば直ちに日比谷公園を聯想し、神戸に事起れば則ち新開地を想起する位に密接なる關係あり、然るに我國諸都市の公園は群衆を收容するの餘裕あるものなし。市俄古市は有名なる不良少年の多き都會なりき、然るに一九一二年延長二里の公園を『ミシガン』湖畔に設けたる結果、之等不良少年約六割を減小せしむる事を得たり、これ彼等の强烈なる刺撃を放散するに都合よかりしと群衆心理の淘汰功を奏せるが爲めにして大に注意すべき事例ならずや。神戸の公園は皆山上に設けあるのみならず數多の建造物を羅列して群衆の集合に不便尠からず、下町に於ける數多の兒童は皆街上に遊べり。斯の如くんば如何にして彼等の慾求を緩和せんとするも豈得べけんや。近時紐育市に在りては或時間を定めて町内の兒童に街路を開放する事を始めたり。則ち車馬の通行を停止するの繩張をなし、彼等に自由なる遊戲をなさしめ父母家族之れに加はり『ピアノ』『オルガン』等を引出して彼等に優雅なる趣味を與へ町内を一つの臨時公園となしつゝあり。彼等は此の遊戲を Black party と稱す。亦以て

擧ぶべき處たからずや。今日神戸市數萬の兒童は全く其運動場を有せざる也。豈兒童のみならんや、予は神戸市に存在する數多の空地を市が買收して數箇の公園を急造するの必要を感ずるもの也。大阪市の如きも公園の最も不足せる都會也。統計上より觀れば大阪市の兒童は身長最も高きに係らず虚弱なるもの多し。されば大阪市教育會の要求によりて四箇所に公園を新設せしも尚到底滿足なる効果を擧ぐる能はざる如し

劇場も亦都市に必要なる刺撃の對照物也。都市の住民は日常單調なる生活に從事せるが爲めに時に享樂を要求す。近時盛んに酒場の流行を觀る其實例なり。乍併五色の酒の刺撃は大なる犯罪を齎らすの憂多し、されば民衆的享樂の刺撃としては祭禮、演劇の流行は大いに歡迎すべきものなりき。諾威の首都『クリスチャニア』にては年々大祭ありて都市を擧げて大騒ぎをなす當日は仮裝するものあり、狂態を演ずるものあり或は音樂隊を繰り出して興を添ふるものあり市中は盛んに美裝を凝らして終日享樂を共にす寔に都市群衆心理の Dramatic exhaust（劇的鬱散）は至極妙なるものなるべし。米國に於ける毎年七月の bonfire（祝火）の如きは一年中の大祭なるが毎年七百人以上の死傷者を出す程の大騒をなしつゝあれども都市としては最も強き刺撃として市民の最大なる享樂日なり。

曾て伊太利の詩人の言へる事あり、『民衆的藝術の刺撃は甚だ有用なるものにして強烈なる藝術的刺撃の興行されつゝある間は犯罪の數及酒の量は半減さるゝものの也』と、此事實は紐育市『ブルックリン』區の娯樂地に於て大動寫眞興行の影響が頗る興味ある結果を齎らせるを看ても察すべき也。されば予は都市に大なる劇場を要求す。民衆的享樂をなし得べき大劇場を建設するの必要を切に感ず。乍併其利用法を誤れば却つて大なる惡影響を齎らすべし。神戸市が湊川新開地を開托したる主意は大いに善し、されど娯樂地と公園と遊廓とをして相隣せしむるは考へ物ならずや。東京の淺草、大阪の千日前京都の京極等亦大同小異の現狀なり。故に劇場

の所在地に關しては大いに研究を要すべからずや。

遊廓と都市との關係亦一考を要す、福原遊廓が市の重要なる地點に蟠まれるは神戸市の一大缺點なり。殊に兵庫方面の工場地域に往來する數萬の職工が毎夕歸宅すべき道筋に衝れるは不都合至極といふべし。予は信ず神戸に於ける犯罪は福原を中心とする一哩の圓弧中に釀成せられつゝあるべしと。予は一日も早く福原遊廓の移轉を斷行するの必要を認むるもの也。

斯くの如く都市の民衆に各種の刺撃を必要とするが爲めに先進國に有りては夫々の工夫を拂ひつゝあり、殊に時間的刺撃は最も重要なるものゝ一として認めらる。春は花に醉ひ、秋は月に嘯くは我國に於ても古來最も喜ばれつゝある刺撃也。米國に在りては時間的、音樂的刺撃を必要とし都市は必ず音樂隊を組織しあり。年々五萬弗の經費を支出しつゝあるを觀ても其一般を識るべき也。我國に於ても年中行事の三大節を初め都市民衆の享樂を共にする祭日の如きは大いに時間的刺撃を利用するの風習を養成し度きもの也。

予は進んで都會の街區と心理との關係を論せんと欲す。我國の都市は殆んど直線の街路の組合せに成り、碁盤目に造られたり。今歐米諸市の街區を通覽するに、三種の別ある如し。其一は井（coordrant system）式にして、其二は米（diagonal system）式なり、其三は＊（radiate system）式也。而して最も面白きは此三者を更らに組み合せたるもの也。我國に對角線式の街區甚だ稀なれども歐米にありては其例多く、街衢に變化を與へ甚だ興味あり。放射式のものに有りては必ず之れに圓弧的街路を交へて趣味ある都市を形成す、歐洲の都市に其例甚だ多し。由來人間は單調に飽くものなり、單調なる生活に刺撃を要求する如く、單調なる街區亦時に變化あるを必要とす。故に直線式街區の特長は整然として一糸亂れざる點に存すれども人間をして長く行歩に堪へざらしむ。米國に延長五十哩に亘る道路あり。行人爲に早く倦疲せざるを得

ざるに至る。聞く騎兵隊にありては遠乗に際しては必ず時々輪乗りをなして乗馬の疲労を慰むとか馬も動物也。長途坦々氣先づ勞るゝが爲めなる也。殊に吾々人間は兩眼を前方に保有す、斯く二つの視線を有するが爲めに吾人は二箇の焦點を有する曲線を愛するの自然なるを認めざるを得ず。されば街衢の如きも隋圓形、双曲線或は抛物線形等の曲線孤を利用するが人間の視覺に對して面白き効果あるものゝ如し。斯くの如き孤線の街路は歐洲の都市に其例多く行人をして特種の快感を覺ゑしむ。殊に双曲線及抛物線的街路が趣味多き如し。神戸市に在りては元町の多き稍之れに近き一例なれども折線の連續するに過ぎず。斯種の街路は其前方に絶えず商舗の異なりたる外觀を連續して遠望するが故に行人を樂まむものなり、予は扇港と稱せらるゝ神戸市に斯の種の街路を完全に改造するを望み且つ對角線的街路を附加するを欲し、將來の神戸に二箇以上の中心地區を設くるを希望して止まざるもの也。

街路に關する研究に就いて我國人は全く無關心なる如し。是れ我國都市に群衆心理の缺乏しつゝある反證にして都市の膨脹發展に伴ひて各種の設備を疎にせる所以なるべし。街路に人道の設けすらなき也。交通機關の如きも必要に迫られて使用し始めたれ共今日は全く行詰りつゝあり。都市の膨脹に應じて更らに都市を縦貫すべき急速力交通機關を要せずや。我國の都市は其一端より他端に達するに一時間以上を費さゞるべからず。市内電車の速力の如きは話にならず、將來は自動車を利用すべき也。今日多くの市民は自動車を大いに咀ひつゝあり、されど今日の街區は全く自動車の運行を許さゞるが爲めにして自動車其ものゝ罪にあらず、其使用法を知らざる也。將來は此の重要なる交通機關を大ひに利用し活用すべき大街路を縦貫するの必要あるなり。

予は更らに都市の建築につき一言したし。建築は單に吾々人間の雨露を凌ぎ住むが爲めのみに造らるゝものに非ず、建築は一ッの思想なり

埃及建築には埃及人の屈線的思想を体現せり、希臘の建築は屈線と高雅なる曲率を有する民衆思想を表現す。羅馬の圓宇(ドーム)式建築、中世紀寺院の峨峙式尖塔や、回教寺院の特色ある百合花形の塔屋の如き夫々に國民思想上の建築なりき。然るに十六世紀に入りて、斯種の建築は跡を潜め單に華美壯麗なる建築のみを建設して喜び建築的思想は墮落せり。近世建築は今一度思想建築に立返らざるべからざるものなるべし。

日本に於ける建築も中世以後は鎌倉足利時代の禪宗的思想に風靡せられて、あまりに滑稽的趣味に陷り過たる嫌あり。此等の古建築の思想と新時代建築との調和を如何にすべきかは將來の重要なる問題なるべし。予は我國古建築に掬すべき特長あるを認む、殊に美しき曲線の輪劃は我國婦人の頭髪を聯想せしむるものあり。古風なる島田髷、丸髷等に現はれし曲線美は亦古建築の唐破風、切妻等の重要部に体現せりと觀察す。之等の美しき曲線は將來の都市の建築に現はるべきものなりと信じて疑はず。由來我國の都市の建築は自己本位の垣を結びて群衆心理を無視せるの傾あり。殊に近代の住宅建築に甚しきを觀る。彼等は恰も籠の鳥の如し、故に垣塀を周らして狹く陰氣に暮らすの愚を敢ねてしつゝあり。都市建築は開放的ならざるべからず。群衆享樂の心理を開發せざるべからず。ジョンラスキン氏も言へり『建築は決して自己の滿足を得れば足れりとすべからず、自家の裝飾にしても親族友人に樂を分つべきものならざるべからず。されば須らく其外塀の如きは之を撤廢して自己の樂を分つべき也、團結共同和衷の精神に基き建築の外觀に相當の注意を拂ふべきもの也』と寔に都市の建築に於て群衆諧樂の精神を涵養すべきを切に望まざるべからず。

以上述べたる如く都市は一つの心理的團結也。群衆心理の結晶体なり。而して國家の文化は都市によりて代表せらるゝものなるが爲めに都市と國家との關係は偉大なる意義を有す。巴里市の興亡が佛國の盛衰に關係する如く、伊太利に於ける『フロレンス』『ウエニス』『ミラン』等の都

市が『ハンタ』同盟を結んで自由文明の先驅なりし如く、大なる都會は國家の重鎭たるべく先驅たるべきものなり。海の貿易と富の文明とを領有する神戸市が此の世界改造の新時代に偉大なる發展を遂げんこと吾々市民の熱望する處なるべし、今や世界の文明は大いに整理を要するの時なり。新しき自由、新しき文明、新しき時代思潮に向つて我神戸市が美しき且大なる貢獻をなさゞるべからざる事を切言す。（了）

□都市の衛生に就て

醫學博士　天兒民惠　氏演

予は茲に簡單に申述べんとす。遺憾ながら我日本には歐米諸都市に比すべき文明的都市一つもなき現狀なれども群集の數の上に於て大都市と解譯すべきものとして御話申さんとす。

都市の衛生上に最も必要なるは、いふまでもなく上水道及下水道の設備なり。御承知の如く我日本の諸都市は夙に上水道の必要を感じ、夫々相當の設備を完成し得たり。神戸市に在りても既に無比の良水を得て衛生上寔に幸福を齎しつゝあり。乍去下水道の設備に在りては各都市とも全く閑却しつゝあり。下水に關しては今日大井博士の專門的御講演あるべきもの現在我國大都市の下水は下水の形をなさず、唯汚水雨水の排泄をなすに過ぎず、大小便處理の如きは全く下水を離れて解決せざるべからざる有樣なり尤も今日の都市の家屋の大部分は舊來の儘にして更らに新設備を施すべき餘地なく、文明的下水は到底完成する能はざる狀態なり。

曩に神戸市に於ては市尿問題起り委員會を組織して屎尿を市營にするの調査を開始せり。元

來自分の放出したるものは自分にて處理すべきもの也、市民が日々の排泄物は市民に於て處分すべき筈ながら、六十萬の神戸市民は悉く私有地を有する譯でなく、又到底各自にて處分する能はず、故に市當局者を煩はさざるべからず。御承知の如く糞尿の汲取は從來權兵衛田吾作の好意に任せたる也、それを改めて市當局者に御願ひするは甚だ不合理なる譯なれども致し方なき次第にしてかゝる時代遲れは恐縮千萬なり。兎も角下水道が完備する迄は過渡時代として止むを得ざる處なるべし。

次に都市の衛生上に注意すべきは塵芥の掃除なりとす。我國の都市は市中の掃除法甚だ幼稚にして小數なる掃除人夫が收集し來るものを埋沒或は燒却しつゝあるに過ぎず、歐米諸都市に於ては之等の塵芥を叮嚀に種別して夫々廢物を有價物に轉換しつゝあり。菜物の切端の如きは之を集めて立派に食料品になせり。斯くて相當の經費を產出しつゝあり、又其多くの殘留物は埋立地に運入れ相當の田園になしつゝあり。斯かる方法は我國に於ても實行し得らるべきものにして將來實際に工夫せざるべからず。

次に街路の問題を擧げん。元來都市の道路は田舍の道路と異なり、都市としての要求あり。我國諸都市の街路は田舍道と大差なし、泥濘靴を沒する如きは甚しからずや。都市の街路は平坦にして足當り柔かきを要す、且つ安價なる耐久性材料を選ばざるべからず。日本の都市は全く斯かる要求を無視しつゝあり、道路の補裝工事に相當の工費を投じたる街路全く稀有にして神戸にては僅かに元町及停車場前の廣場位に過ぎず、之等すら雨天の日は泥濘を蓄へつゝある也。都市の道路は元來人道と車道とを區別すべきもの也。然るに我國諸都市の街路に此區別を施したるもの甚だ少なし。歐米には主要道路には皆人と馬車との往來を別々にしつゝあり。獨逸の『ミュンヘン』市の如きは中央を公園式遊歩路とし其左右に夫々自動車、馬車、自動車及人道を設けたる八條の平行路を並べ敷けり、甚だ雄麗なる街路に相違なけれども我國の都市の

街路はせめて人車の區分丈なりとも區別したきものならずや。且つ泥濘を避くるために補裝工事を施したし、足に柔きは木道なれど經費も高く長持せず多くは『アスファルト』を使用せり。足觸りよろしく音立たず塵少なく經費も安價なれば盛んに使用せらる。衛生上より見るも第一等の材料なるべし。

街路の掃除に關しては我國諸都市は其方法立ち居らず、歐米諸都市は必ず市所屬の掃除隊ありて、夜半十二時過より掃除を始め奇麗に掃除したる後に水道の栓を抜きて洗ひ、更らに之を拭ひ取る故翌朝迄に鏡の如く清掃せらる、されば戸外を歩行するも靴は汚れず。我國の『アスファルト』敷道路は掃除せざれば損失も早く甚しきは上層に泥土の薄層を重ぬるものあり、僅かに街路の各商舗が日夕手を加ふるに過ぎず、甚しからずや。市に掃除隊を設くること道路の改善と相俟つて必要なる事なる也。

街路に關しては尚交通頻繁なる地点には避難所を要すべし。歐米都市に於ては交通上の安全地を設けて行人の避難所とせり、又我國諸都市は夜燈暗くして交通上の危險甚だ多し、外人にして初めて我國都市に入るものは暗黒市の感にうたるゝ由也、所詮市民各戸の軒燈に過ぎずして市より設備せらるゝ街燈云ふに足らざればなるべし。

次に都市の家屋に就きて一言せんか。

我國の家屋は木造本位の舊慣を脫せざれば燐寸箱を並べたる如く、火災震災其他の災害に何等の抵抗力なし。殊に最近の怖るべき爆彈投下の襲來に對しては全く草原も啻ならず。一朝事在るの際には穴居時代の昔に立返るの外なからんとす。世上識者は熟慮斷行して文明的家屋を都市に新造するの心掛ありて然るべき也。

家屋の問題は茲に止まらず衛生上不問に附すべからざるは、貧民長屋の改善改築の問題也、又勞働者に對する衛生的家屋の設備問題也。更らに社會的考慮の上より見れば彼等の避難所、娯樂所、保護救濟所、貧民に對する施療院、治療所の建設、に關しては特に研究を拂はざるべ

からず。

貧民の施療に就いては我國に於て濟生會の努力しつゝある所なれども云ふに足らず、歐米諸國にては殆んど完全に行届けるが如く、醫道大家の治療は却つて貧民に多く加へられつゝある奇現象を觀る也。寔に完備せる施療病院は都市に須要缺ぐべからざるものゝ一なる也。

近時歐米諸國の先覺者は年々の統計に於て生産率と死亡率との比が著しく逆進せる傾向あるを憂へ、人類の幸福を增進する爲に兒童保護の問題を高唱しつゝあり。出産の逆比は兒童の夭折に因るとせられ、乳兒幼童の保護方法、慈善團体の組織、林間學校の新設、施療病院の增設等の調査研究を怠らざる有樣なり。從つて兒童に關する特種の設備を完備するに努力しつゝあり。又結核療養所の新設、精神病院の計畫、應急治療所の特設、患者輸送機關の工夫に多大の費用を抛ち、都市民の健康を增進するの目的に向つて奮闘しつゝあり、其中央醫務所に於ては各種病院の消息に通じ空室の有無の如き間斷なく取調べ以て救治方法に便宜を計りつゝある也之等の外文盲院、消毒所、公設浴場の設置を計畫するあり、衛生博覽會の經營、常設展覽會の開設に關しても都市民の衛生思想を開發せしむる爲めに必要なりとし、あらゆる努力を惜しまざる如きは寔に學ぶべき都市の諸設備諸問題にして我國諸都市の改造改善に方りて衛生上忽せにする能はざる事項ならずや。

予は尙都市に關する衛生上の諸要求につき述べたき事項あれども既に時間の餘裕なきを以て更に他日を期して諸君と相見ゆるの機會を俟つべし。（了）

□バヴアリヤの首府□

ミユンヘンはバヴアリヤの首都である。其處には他の歐洲都市の到底及びもつかぬ快樂の巷がある。其住心地のよいこと其文明的都市の氣分を發揮して居る事とは斯の市の特徵である。バヴアリヤ王家は代々奢侈的な思い切つた事をしたので隨分重い負擔を國民に負はしたけれども都市で到底企て得ない高尙で奇麗な遺産を殘したのである。



女流の住宅觀

足立電氣商會主
足立彌太郎氏夫人　足立民子談

◆家の中で一番大切な處は

私は、家の中で一番大切な處は、臺所だらうと存じます。こゝは、人間の最も必要な食物を調理する處ですから、云はゞ健全なる体質を作る源泉とも云ふべき處でございます。若し此處が、不健全不潔で有つて、そこで調理するものが不潔であつたなら、それを食べる人々の健康は寔に寒心すべき結果になることは申す迄もありません。ところが、從來の習慣として、臺所と云へば、恰も繼子の如く取扱はれて、可成立派な邸宅を新築して、座敷には莫大な費用を惜まないやうな場合にも、臺所は家の一部にお申譯に付けると云つたやうな有様でありましたが近頃になつて、やつと、臺所の重要なることを唱へ、其設備にも相應に苦心をする傾向が、漸く盛んになつて參つたやうです。これは大變によい事だと私は思ひます。

臺所の問題として、まづ最初に考へることは廣い方がよいか、狹い方がよいか、立つて働く方が便利か、板敷きにして座つて居ても用事が出來るやうにする方が便利かといふことでありませう。これはよく、主婦や女中達の間に起る問題でありますが、兩者それ〳〵長短があることゝ思ひます。

大阪流のシックイの臺所は、立働きには寔に

便利でございます。第一動作が輕々として働きよく、夏はきれいに水を流して掃除さへして置けば、清潔でもあり、涼しくもあります。それに着物の汚れも板場よりはずつと少なうございますが、一方には、いろいろ不便利な點もあります。まづいちいち下駄を穿かなければなりませんそれが爲めに、主婦が一寸女中の手傳ひを仕樣と思つても、下駄を穿いて下まで降りるのが面倒なところから、遂女中任せになつて仕舞ひます。此女中任せといふことは、兎角よいことのないもので、煮物がこげついたり、お汁の味が惡かつたりして、折角おいしくして食べやうと思つたものも、まづくなると云つた調子で、其度毎に不快な思ひをし、又、それだけ時間と勞力と金錢の不經濟なことも免れません。朝から晩まで働いて居る處が、石や土間であれば、下が冷へる爲めに、長いうちには病氣をするやうなこともあります。器物を一寸落しても直ぐ割れるといふことも、板敷きよりは、タタキの方が多いのは申す迄もありません。タタキには、斯樣な特長と短所とがあります。一方板敷きの方はどうかと云ひますと、主婦が女中の手傳を仕樣と思へば、直ぐ上草履のまゝで行かれるといふ便利もあり、何かを置くのにも調寶でありますし、寒中に立ち通しで居ても腰が冷へて困るといふ程のこともありません。併し、働くのに立つたり座つたりして居ては、無駄な時間を費やさなければならず、着物の裾や袖を引き摺つて居るので、着物が汚れるばかりでなく、其爲めに物に袖の端がふれて粗忽をしたりといふこともよくあります。が、まあ概して、板間の方は便利がよいと思ひますが、もつと理想的に云へば、兩方の長短を合はしたものなら結構だと思ひます。例へば、下は全部比較的清潔な石やタタキにして、其上に板を置くやうにすれば、掃除の時には板を上げて下を水できれいに流し、板は日光に干してよく拭き込むやうにすれば、清潔でもあり、便利でもありませう私も、只今、工場と住宅とを新築中でございますから、此事に就いては、あれかこれかと考へ

て居ります。それから、臺所の廣さといふことは、第一に、其家の人數に依らなければならないと思ひます。二人や三人の家族でしたら、流し場と煮炊きをする丈の廣さであれば充分でありませうが、七八人の家族で、來客も相應にあるといふやうな家でしたら、少なくも三人位は立つて働ける丈の廣さは欲しいと思ひます。それに應じて、配膳棚、戸棚なども、比較的便利な物が欲しうございます。

大阪の貸家には、奥行半間、長さ一間と云つたやうな、大きい戸棚が臺所に附いて居りますが、こんな大きいものは、臺所には必要はないと思ひます。臺所用としては、奥行きの淺い、棚の澤山ある戸棚がよいと存じます。奥行が半間もありますと、奥の方は暗うて何があるのかさつぱり判りません。掃除をするにしても、そんな奥までは手が届きませんから、どうしても不潔になり易く、食物などをいれて置く場合には、不衛生でもあり氣持ちも惡うございます。棚が少ないと、器物などは自然澤山重ねるやうになりますから、其爲めにこわしたり、出し入れにも余計な手數を要することになります。私は、凡て棚は、物を一列に列べるのがよいと思ひます。食物や食器類に限らず、夜具も、押入の中に棚を澤山作つて置いて、布團を一枚づゝいれるやうにしたなら、出し入れにも都合がよく、澤山重ねた爲めに、一番下になつたものが綿がかたまるといふやうなこともなく、どんなにいゝでせう。流し元の棚でも、一つの棚に鍋や鉢を幾つも〳〵も重ねて置くのは、危險でもあります。凡て、臺所といふものは、便利で衛生的であれば申分がありません、衛生的といふことは、明るくて日當りがよく、それに風通しがよいければ此上のことはありませんが、それ程でなくとも、明るい点といふこと丈は缺かし度くないと思ひます。東南向きで窓が澤山あるといふやうな處でしたら、寔に結構でせう。そして、流しは其窓の下にでも置くやうにしたなら、いつも明るくてよく乾干して、器物もいつも清潔でどんなによい氣持でせう。私が自身で設計をして建てる場合には、斯の點に最も意を注ぐつもりでございます。

◆御化粧室といふものは

原　きく子　談

私の專門は女髪結でございますから、其方に就いて申し上げます。

私は商賣柄、上流の方々のお邸に參りますので立派な御普請だと思ふやうなお邸も澤山拜見いたしますが、其割に、お化粧室や洗面所の、大變によく出來て居ると思ふやうな御普請を見かけません。それに就いて、平素私が考へて居ることがございます。それは、今のお家庭にはお風呂場に、洗面所をかねた、髪洗ひ場の必要なことでムいます。昔は、髪を洗うことがありませんでしたから、髪洗ひ場の必要はありませんでしたが、此節は、御主人もお頭をお洗ひになりますし、奥樣方も少なくも月に一回はお髪をお洗ひになることは、どこのお宅でも變りのないことであらうと思ひます。それにお子樣でもあるお家ですと、お子樣方も、男のお子樣でもお嬢さまでも、お頭はお洗ひになることゝ存じます。

お風呂にはいつた時に、お風呂場の中でお洗ひになる方が多うございますが、あの低ひの處へ頭を下げて洗うといふことは、非常に工合の悪いものでございます。それも、殿方なれば手早く濟みませうが、御婦人のおぐし洗ひは、早くて三十分はかゝります。其間坐つて頭を下げて居りますと、のぼせて、洗つた後に頭痛がしたり氣分が惡くて困ることがよくあります。不便はそればかりではありません。御婦人のおぐし洗ひにお手傳ひを致しませうと思つても、お風呂場で洗ふ場合には、手傳ふ人も裸体にならなければなりませんし、着物を着て上に坐つて

居て洗ひますと、洗ふ人も手傳ふ人も着物がすつかりぬれて仕舞ひます。こういふ不便なことのないやうにと、たまには洗面所を作つて、そこでおぐし洗ひをなさる方もありますが、その洗面所が、又小さくてとてもお役に立たないといふのが多うございます。それで、私は、手前の家に理想に近い髪洗ひ場を作りまして、こゝでお客樣方のおぐしを洗つてお上げして居りますが、皆樣も大變に都合かよいとお喜びになります。これは別に六ケしいことはありません、一寸手をおかけになりさへすれば、どんなお家庭でも容易に出來ると存じますそれは、お風呂場の中なり、又は其他便利のよい處に、お臺所の流しのやうなものを作ることでございます。其大きさは、高さ、二尺二三寸位にして、間口二尺五六寸、奥行一尺六寸、深さ三寸五分位の角を少し丸めた大きい流しを作りまして、そこで御主人や奥樣方が、お顔をお洗ひになつたりお頭をお洗ひなさいましたら、大變に御便利でせうと存じます。此流しは、私共のは、外側を木にして、中に赤銅を張りましたが、こんなことをするよりは、大理石なり、白い人造石か瀬戸にした方がきれいで宜しいでせうと存じます場所はなるべく明るい處にして、其右手の方に半間位の空處を作つて置きますと、お手傳ひの人がそこでする事が出來ます。上の方か横かに一寸した棚を付けて、お化粧品などをのせるやうにします。水道の栓やお湯の出る栓は、少し上の方につけて置きますと、お頭に水をかける時などは重寶でございます。高さは、お家で一番お脊の高い方の都合のよいやうにして、低い方は臺をなさるやうにした方が樂でございます此高さが寔に都合よく參りませんもので、大低高かつたり、低かつたりするものでございますが、まづ、下から、曲尺で二尺二三寸といふ處が頃合かと思ひます。

それから、お化粧室に就いて一寸申し上げます、どこのお家でもお化粧室といふものは三疊か四疊半位が普通でムいまする。何も道具の置いてない處でしたら此位でも狹くはありません

が、鏡臺の二つも置いたり籠笥などをお置きになりますと、やはり手狹で、お髪上げの時などは思ふやうに手が働ないことがあります。私の考へますには、疊敷は其位で結構ですが、どこかに一ケ所少し引込んだ場所を拵らへて、こまこましたものはそこへ置くやうにしたら宜からうと存じます。一間か半間位の淺い押入でもあれば此上のことはありません。何の室でも凡て明るいといふことは必要なことでございます。殊にお化粧室は明るくなければ美しいお化粧は出來ません。南向きの前に椽側を控へ、硝子障子をはめた部室なら申分がありませんが、それ程でなくとも、明りをいれる窓は是非欲しいものでございます。夜分の化粧には、瓦斯の光よりは電氣の方がよいものでございます。電氣も中央に大きいもの一箇よりは、小さいのを二箇部室の中程に灯けますと、丁度よいかげんの明るみを得られます。

◆東山八景◆

見渡せば東山の春の景色や、祇園ばやしに吹く嵐は、山布の晴嵐と疑はれ、河原おもての眞砂の色は、江天の暮雪も斯くやあらん　面白の花の都や、地主の櫻にしくはなし、鴨川の流の末に行く船は、遠浦の歸帆か、冴わたる清水寺の鐘の聲、遠寺の晩鐘のひゞき、それ白河の洲崎に翅の散亂すは、平沙の落雁とも謂ふべし、さて靈山の月影は洞庭の秋の野、これにはよも勝らじ、扨また漁村の夕照は釣垂れて總角にあそぶものを



現代社會觀（二）

會員　茅海生

冠婚葬禮は社會の大儀である。されば其形式慣習は社會民衆の決して苟もせざる處にして一朝一夕に變遷推移すべきものでない。されど其國を異にし其俗を異にせば其禮儀は千差萬別必ずしも相等しからず。甲の壯重嚴肅とする處は乙の輕視指笑する處にして丙の華美艷麗は丁の滑稽罵倒する處なるやもしれず、此地の歡樂的表現は彼地の哀愁的形式となれるものがある。去りながら人世の大儀禮の形式表現が簡素質實の時代に在りては人類の至情の流露横溢するものあるが爲めに東西其規を一にするもの決して尠なからず、時代の長陵久しきに及んでは一歩の差より千里の隔を生ずるの徑路は世界風俗史の面白く語る處である。されば同じ國土、同じ國民にして時代の變轉推移の跡を觀れば亦顧る千態萬狀の別を示す斷くて世界の社界風俗は縱に國土の類別を異にし横に時代の色彩を分ち得べきものである樣である。

我國葬祭の儀禮は古來數多の變遷を經過して明治時代に入り大正の時代となつた。明治初年の社會的革命は主として政治的革命に在つたために社會的儀禮は舊風を根本的に破壞するに至らず、泰西文明の餘風は國粹の遺風と混亂して國民生活は所謂二重生活の時代を現出して今日尚融和の途がない樣である。

されど舊風と稱し國粹と唱へらるゝ社會的風習の大半は今尚ほ大陸文明の摸法的餘韻を藏して幾多の形式を遺せるが融合と稱せられる舊慣は必ずしも統一せられたるに非ずして混和の狀態を遺せるに似たれば我國民は三重四重の生活を味ひつゝあるといふも妨げはあるまい。其最も甚しきものを葬儀の形式に觀られる樣である。

神佛儒耶の四大思想の産出せる形式は多少の變化を加へられしと雖も尚夫々の形式を守つて對立しつゝあつた。就中佛教に在りては宗派と教門との類別により更らに細格を異にし封建時代の數百年間に我國社界の上下を風靡しつゝありたれば今に餘習混亂して之れが統一融合は百年河清の歎を發せしむるの概がある。

去りながら微妙至極なるは時代の力である。新陳代謝の自然的推移の陶汰作用は遂に新たなる流を現代に湧出し來た。繁忙激烈なる現代の都市生活は寛に舊慣に囚はれし市人をして混亂の解決に一刀を加へしむるに至つた。想へ大名屋敷と寺院と町家とよりなりたる江戸時代の社會風俗は武士の登城と婦人の佛參と町人の御用聞きとに年中行事は盡くされたといへやう。大名の行列と婚葬の行列と遊山の行列とは都市生活の三大行列であつたのである。

時代は一變せられ社會生活は急轉した、官民生活の都市は四民平等の社會風俗を打出し格式は破れ舊慣は壞れ屋敷は崩れ寺院は荒れ、洋服は活歩し人車は走り馬車驀き街路の景色は全く一變せざるを得ぬ。しかも葬儀の途中行列は尚よく四十餘年の明治時代を平然と活歩しつゝあつた。されど遂に時代の要求は此の行列を不要視するに到り「途中葬列を廢す」るの決斷は都市の一角より猛然として現はれて來た。

蓋し現代都市生活の必然的要求は最も主要視せられたる形式をも破壞し始めた。かくてこそ社會的革新の實は擧げられ得らるゝのである。破壞は建設の初めであり、破壞は建設の門戸である。さらば建設すべく新形式の前途に向つて多大の注意を怠るべからざるを思ふ。實に舊骸を捨つるに勇なるの市民は更らに舊倍の努力を拂ふて新製の格式を揚立すべきであるまいか。

◆葬式の沿革と途中行列廢止

在東京　青谷生

茲數年前から途中行列廢止の葬式が流行し出した、其の可否に就ては識者の間にも種々議論があつて、解釋のしやうに依つては、寔に善い方法とも言へるし、甚だ惡い遣方だとも貶し得られる、又一口に行列廢止といつても、寺院なり齋場なりに於ける儀禮の厚薄輕重等にも因ることだから一概に之れが是非善惡を斷定する譯にはゆくまい、要するに解釋問題であり事實問題である。

さて理窟は兎に角として、一体行列廢止などとは誰れから始まつたことか、斯んな新熟語は何時頃から出來たのかと調べて見ると、起原は未だ極めて最近のことで、僅々七八年にしかならぬ。工學士男爵大藏公望氏の先代は故陸軍中

將大藏平三といふ古い軍人で、日露戰役の勳功に依つて、特に華族に列せられた人であるが、此の人が明治四十四年八月逝去して、嚴肅なる理想的葬儀を青山齋場に營んだ時、新聞紙に掲載された黑枠付の死亡廣告に「遺言に依り途中行列を廢止し」云々の文字を掲たのが抑々の始めで、實に我國の葬儀史——とも云ふがあらば——に一新記錄を作つたものである。

之れより先き同年五月陸軍中將谷干城子の薨去された時は自邸に於て遺骸に對する告別式を行つたゞけで、別に本葬儀といふものを行はなかつたし、猶其れよりズツト以前、彼の中江兆民居士の病歿した當時、門人等相集ひ墓前で告別式のみを擧げた事は今猶ほ人の記憶することである。谷子は極端なる虛禮排斥論者で、生前常に家人を警むるに虛禮、華美、奢侈等の避くべきを以てし、兆民居士は自己の哲學的見地から無神無靈魂を唱道して居たから何れも其の遺族や門生等が故人の遺志を奉じて、特に葬儀なるものを執行しなかつたのであらう。

大藏男の行列廢止も、動機は谷子等の告別式に胚胎し、唯之を穩健に行つたのであらうが其の意の存する處を忖度すれば、費用の節約、時間の經濟、會葬者の勞を減少する事、交通の支障を防止し得る事などであらう。斯ういふ風に行列廢止は喪主の側にも會葬者の側にも共に都合よく、而も儀式は式場で壯嚴に行ひ得るので何等死者の靈を辱しむるにあらずして、寧ろ葬儀本來の目的に副ふ譯であるから、一たび大藏男爵家が「行列廢止」の記錄を作つてからは、其の神葬たると佛式たるとを問はず、各階級を通じて忽ちに之れに倣ふもの續出し、遂に今日の如き流行を見るに至つたのである。

然るに一利は一害の伴ふ處、何事にも利弊は免れぬものとみへ、近來人情輕薄に流れ、風紀頽廢して死者に對する取扱ひ振りの如きも漸次冷淡となつて來たので、斯の傾向に反感を持つものも出來、今日では又特別に葬列を賑やかにするものも出で、縱令途中の行列は廢しても、寄贈の花環や生造花を辭退するものは追々と減

少する傾きがある、最近大浦兼武氏の葬儀を執行するに際し、同男爵家では故人生前の思想を尊重して、行列を廢止せず喜んで寄贈の花環や生造花を受納して華やかに靈前を飾り、葬列四町餘の長きに達したのは確かに好例證である。

芽出度い結婚式が時世の推移と共に漸く改善されゆくを見ば、悲しき葬儀も時代と共にいろいろに其の形式を改むるは當然であつて過去に於ける送葬に幾度の變遷ありしが如く將來に於ても亦其の進歩に連れ時代に適合すべき形式に改められるゝのであらう、元來原始時代には葬式といふものは無かつたらしい、古書に徵するに我國上古の土民が屍體を路傍や山村や野原に放棄した例が却々多い、甚だしきは病人を棄てゝ終に餓死せしめたことや、病める小兒を捨てゝ犬や鳥の餌食にしたやうな例も枚擧に遑の無い位である（嵯峨天皇の弘仁四年の大政官符、清和天皇貞觀九年の官符に據る）降て宇多天皇の寛平八年閏正月十七日及び醍醐天皇の延長八年二月十三日には左右看督（カドノカサ）、近衛府、檢非違使若くは左京職等に命じて、其の未だ死せざるものは施藥院、東西悲田院等に收容せしめたとある處から見ても死人病者を放棄するの弊風は容易に絶へ無かつたものと見へる、增穗殘口の著「神路手引草」に據ると、紀州熊野の浦人は死骸を海に投じ『鯛に成つて御入來（おいれ）』（熊野神社の神饌に供へられし身の浮むことを意味す）といつて水葬にした例があるが、此の事は近く德川幕府の中葉までも行はれたさうである。

併し乍ら流石に上流の間には太古より送葬の儀禮が備つてあつたと見へ、故事記日本紀等の古い國史には伊裝册尊の送葬のことが記されてあり、之れに次では素盞嗚尊が「枕を植ゑて以て顯見蒼生の奥津棄尸（死人）將臥之具（棺名をいふ）」と敎へたことや、其子大國主尊の妻須世理姫が喪具を持ちて哭きつゝ夫のもとに尋ねて行つたことや、武烈天皇の朝鮪（シビ）の臣（オミ）を葬る時、死者の爲めに柩に從つたことなどが窺ひ得られる。

其後孝德天皇大化二年の詔及び文武天皇の大

寶令に始めて貴賤の等級に依て葬儀の制を設け喪官、喪具、賻物、會葬、葬地等の諸規則を定められたのであるが、儀式が鄭重に過ぎて却つて奢侈に流れる傾きがある處から桓武天皇延暦十一年には詔して斯の弊を戒め、醍醐天皇の延喜式にも厚葬を禁じて居る。後世に至つても矢張り人多く豪奢を尚び虚禮の風益々募る處より德川家康を始め各藩の諸侯も屢々之を禁じたことがある、此外上代の葬儀に殉死の有つたことや、垂仁天皇の二十八年に土偶を以て之れに代へたこと杯は廣く世人に知らるゝ事である。

而して我國の葬儀には神、儒、佛の三通りがあつたが明治維新後基督教の葬儀が行はるゝやうになり更に其後黒住教以下最近獨立せる天理教に至るまで各々葬祭の儀禮を定めて、神葬は維新後神道本局に於て管長子爵稻葉正邦の著はした「葬儀式」神宮教院御巫清直の編述に係る「喪儀類證」等に則つて居るが、注意すべきは國葬の必ず神葬であることである、明治十六年七月執行された贈正一位岩倉具視の國葬以後、同十八年一月の有栖川宮熾仁親王、同二十四年二月の公爵三條實美、同二十八年十月の北白川宮能久親王、翌二十九年の公爵毛利元德、同四十二年十月の公爵伊藤博文等の國葬は皆神道大社教の本儀に據つて行はれたのである。

儒教の葬式はもと支那周代の禮に基いたもので、我國にては後光明天皇の慶安四年四月土佐藩の儒臣野中兼山が其母を葬つたのが最初で、之れに次ぎ後西院天皇の明暦二年三月二日幕府の儒者林春齋が其母の喪に、父羅山と謀つて儒法に依り葬つて以來之れに倣ふもの多く殊に水戸藩には一時却々の隆盛を極めたものである。

佛葬が印度から來たのは言ふまでも無いが我國に行はるゝに至つて幾多の變遷をなし、其の式も多種多樣に分れ、各宗派に依り夫々多少の相違がある、元來印度には古昔四種の葬法があつた、遺骸を江河に投じて魚鼈に食はしむるを水葬といひ、薪を積みて燒くを火葬と云ひ、土中に埋むで朽ちしむるを土葬と云ひ、寒林に露して禽獸の餌となすを林葬と云ふ（親民要覽、

法葬珠林の二書に據る）とあるが、佛敎は斯の四種中火葬を本儀として居るのである、我國では聖德太子の葬儀を以て佛式の權輿として居るが、爾來上皇室より下庶人に至るまで、佛敎を尊崇すると益々深く佛敎寺院は如何なる山間僻地にも建立せられ、寺院ある處墓地あらざることなく、葬儀は殆んど佛敎僧侶の占有となつて居る。

近頃基督敎に依りて葬儀を營むものも無いでは無いが、未だ信者が少ないので、佛敎の葬式からみれば其の數實に九牛の一毛といつてもよい位である、併し、今日喪中の表として黑色の布を門戸に揭げ、黑紗を帽子又は上衣の左腕に纏ひ其の名刺や書狀用紙や新聞廣告に黑枠を附するのは皆歐米の風を採つたもので基督敎の感化亦甚だ尠くない。斯くの如く葬儀の沿革を取調べて見ると却々際限の無いことであるから、葬禮濟んでの醫者話しは先づ之れ位で切り上げて以下東京に於ける墓地及び葬儀組合のことを簡單に記述しやう。

東京の代表的墓地といつたら何と云つても青山を推さねばなるまい、谷中の如きは地坪に於ても青山の半分も無いのだから、此處では主として青山を標準として記すのである、青山墓地は約十萬坪の地域を有する東京市の所有地で、休憩茶屋十二戶の合資組織に係る典範會社が管理して居る、土地が東京市のものであるにも拘はらず墓地の賣買が行はれ居るのは如何いふ譯かといふに、恰かも電話の賣買の樣に、實際は土地其物の賣買では無くて其の使用權の賣買である。此の賣買價格は一坪百圓以上を唱へて居るが、それでも容易に手に入らず、今の處殆んど空地が無い有樣であるから、今後は益々埋葬の區域を狹められる譯で、東京の住民として無關心では居られない實に重大な問題である、尤も無緣墓地もあり整理さへすれば未だ暫らくは使用されるが早晩行き詰るは必定である。墓地賣買にも弊害があり、齋場も大都市に在るものとしては規模も小さく、到底理想的の葬式を營むことが出來ないから、斯は宜敷く大阪のやうに

市の直営とする必要があらうと思ふ。

夫れから東京葬儀組合に名を連ねて居る所謂葬式屋なるものは市内に二百四十戸もあつて、不幸なる喪家の悲みに乗じて隨分暴利を貪つて居る、其の一例を擧ぐれば靈柩車一輛の一回借賃は馬車屋から直接借り入れる直段が二頭輓き八圓五十錢、一頭輓き七圓であるに拘はらず葬儀屋は普通十七八圓から甚だしきは二十五圓も取るといふ有様で、彼等の内幕は實に混沌たるものがある。

◆念佛賣つてかねの一聲◆

昔都の町に餘宗交ぜずに、一町殘らず法華の宿札を出だして、朝暮題目を唱ふ音、耳喧噪き中に、淨土宗たゞ一人ありしが、大鉦打鳴らして懸念佛申すを、法華の方よりこれを嫌ひ、種々勸めて有難き事ども聞かせけるになか〳〵思ひ付く志も無し。各々腹立して、町内にこればかり置く事家持なれば是非もなし。貸家ならば置くまじきものをと、自由になり難き事を悔み何れも内談して、此者貸しければ銀子取らせて同じ宗旨にせむと潜に此段を聞かせければ慾にて同心致せり。講中喜び銀子三十枚集めてこれを遣はしければ、いよ〳〵珠數を切つて町並になりける。折ふし七月十三日此親ひに題目踊をはじめて、其者の門に人の山更なり、其後は夫婦ながら御影講にも、寺參詣して人々の法義喜びしが、明年の春になりては彼岸の入より又念佛を申し扣鉦に驚き、町中立合ひこれはいかなる事ぞといへば、亭主澁面作つて最早題目嫌厭になつて以前の念佛申し彌陀を賴むといふ。扨も我儘なる申分とかく右の銀子を戻せといへば、返すべき仔細無し、法華にならば銀子合力申すとの事なれば、約束通り一度はなりけれども、俄に嫌ひになり淨土願ふなり、死ぬるまでの手形はいたさず某が心のまゝとなほ貴念佛を申す所悪しとて此義御前に申し上ぐれば、兩方召し出だされ御聞き遊ばされ、無用の法華に勸め事と思し召され此銀子は返すべし請取るべし。然れども親代より今に淨土を法華になしければ、其の間の勤め怠るべし、右の念佛を勘定して町中より申して返し其後銀子請取り申すべしと、仰せ付けられ罷り立つて宿に歸り、色々内談致せども町中念佛申す事を迷惑致し、銀損にして濟ましけるとなり

（西鶴——本朝櫻陰比事）



戰後に於ける倫敦の住宅問題（下）

ビルデイングニウス所載

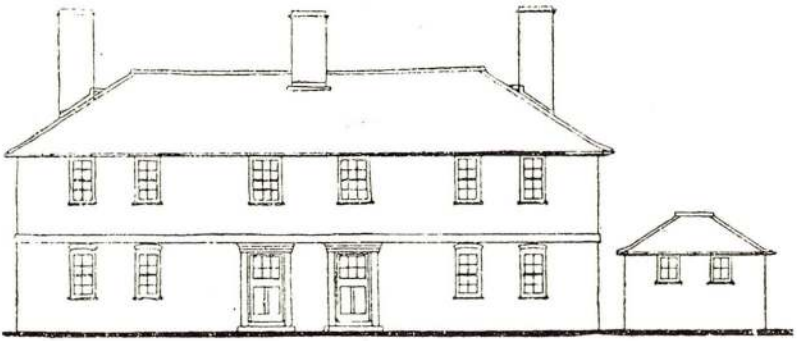
會員　M　I　生　譯

此連中の重要なる事は我國に於ける職工住宅の九十六パーセント以上が個人經營の方法で供給されてゐるといふ事實が立派に證明してゐる。此等の住宅の提供者は比較的少額な資本しか持つて居らぬのだから、彼等の企圖を遂行する爲めに、大程は借金をするに確實な出資者を賴りにしてゐる。だから彼等は先以て資本の融通を確實にして於いてからでなければ、決して其仕事を成就することは出來ない。則ち彼等は持つて居る爲めに住宅を造るのではなくて賣る爲めの目的である、且つ彼の資本が小さいから彼等の計畫を遂行する爲めに豫約賣買の方法を執つてゐる。從つて個人計畫の問題は單に個人をし

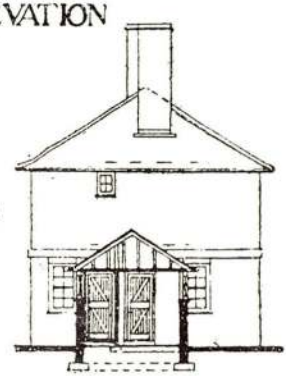
口個人の計畫

從來住居供給の大部分は個人の計畫で提供されて居た。此問題に連關して既に數多の經營團があるとはいひながら、大程個人家屋の建設をやるための土地の經營を行ひ、或は其土地に實際に住宅を建築してゐるのである。此等の計畫は多くの場合に同一の個人が劃策するのだけれども、明かに二つに區別せられてゐる。其一つは澤山に土地の買收及經營を行るのであつて、時とすると此等の土地を小さく分割して建築請負者に貸付け、其等の連中は亦其土地經營者の手足となつて財政を助け得るといふ方法もある今一つは實際に家屋を建設する提供者である。

(一)　圖計設宅住工職「ナトツレゲ」

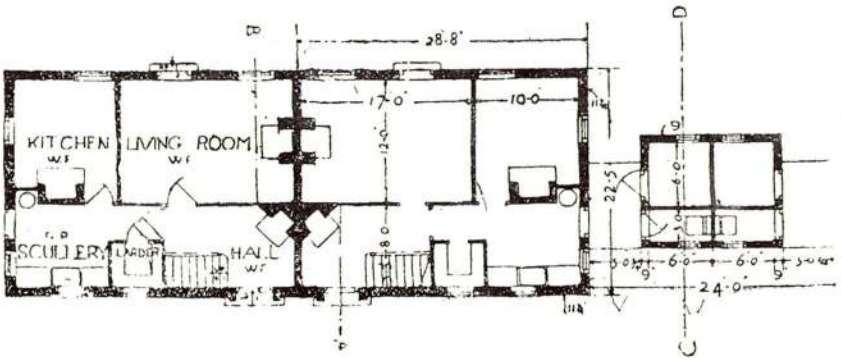


FRONT ELEVATION



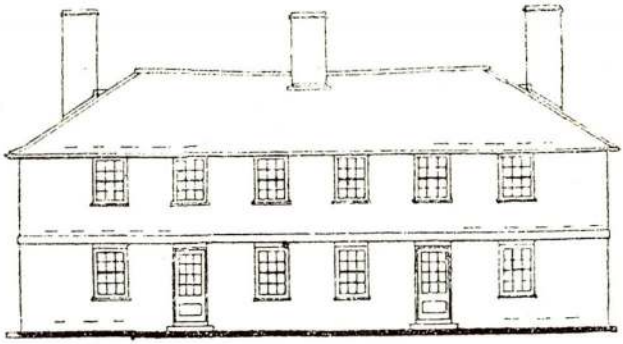
END ELEVATION C.D

GROUND PLAN

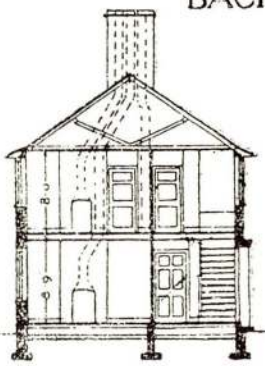


て夫々住宅を造らせるといふ丈では解決は付かぬ。什うしても此等個人の提供者をしてその計畫を續行せしむる爲めに彼等が造つた家屋に相場を立てゝやる事が必要である。此相場を適當に保たしむる買主は廣くいへば二種に區別される。則ちその家屋の所有者となる買手と今一つは更らに大きな範圍の投資をする處の買主である。工費の格が少しでも增加すれば兎も角家屋

（二）　圖計設宅住工職「ナトッレケ」

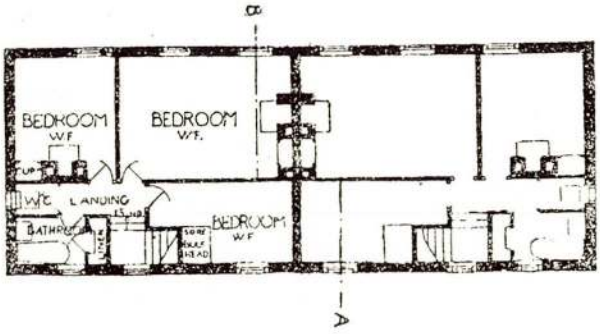


BACK ELEVATION



SECTION A.B

FIRST FLOOR PLAN



の相場に必然的に影響する、又時々人氣を煽る投資があれば双方の買主に影響して家屋を造る個人の計畫をもつと困難ならしむるに相違ない

口建物會社

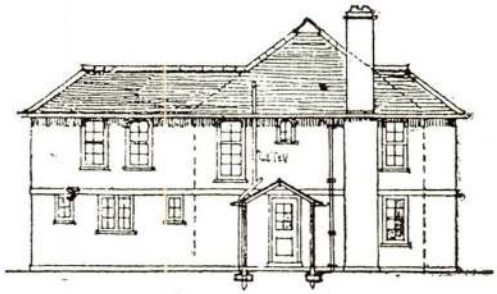
建物會社といふのは過去には無かつた、が要するに住宅供給の問題に直接連關して起つて來たのである。此等の會社は非常に大切であつて澤山の住宅團を購入したり投資をしたりする買手を助けてゐるし。又斯くして澤山の提供者が其計畫を續行するの力になつてゐる。今此等建物會社の最近の成績を擧げて見ると、次の樣である。

抵當の增加高		
年	全國	倫敦
一九一〇	九、三九〇、七〇〇磅	二、五六五、四三七磅
一九一一	九、〇〇四、〇九三	一、九一二、〇七九
一九一二	八、四三八、二五六	一、七四六、八六八
一九一三	九、二四四、五五〇	二、〇七五、八〇三
一九一四	八、八七四、六一八	一、九六七、二八〇
一九一五	六、六二三、一八四	一、三八〇、一四〇
一九一六	五、〇〇二、五〇五	一、〇四〇、一一九

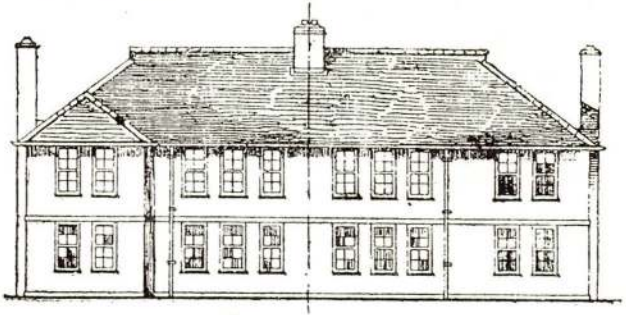
大戰以前に於ては全國の年額九百萬磅を越へて居たし、倫敦丈で二百萬磅以上に登つて居た此の增加額の割合の中で職工住宅に關する額は解らないが、倫敦の建物會社の償却高と地方のとを比較すると、前者に於ては小口の抵當が非常に增加してゐる。則ち五百磅以下の抵當額の割合を倫敦の主要な七會社に就いて檢べて見ると、全額の五十パーセントから八十五パーセントに達してゐる。一八九九年の小住宅保護條令(The Small Dwellings Acquisition Act)に依つて各地方の當局者は小住宅所有者が、各四百磅の時價を確得せむる樣にし、資本の增加を謀つたのである。倫敦では此の條令の影響がなかつた。倫敦市廳の一九一六年の貸付小計を見ると十七個の住宅の買收に僅かに二千五百五磅に過ぎないし府廳では一九一四年に二千三百二十五磅に過ぎなかつた。

附錄第四章には一九〇二年以降一九一六年に至る倫敦及其近郊に於ける住宅供給狀態の增減量を載せてゐる。一九一一年以降は大倫敦全部

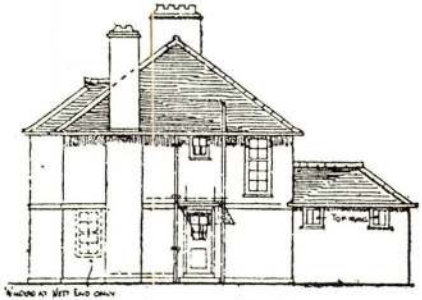
（三）　宅師醫の計設宅住「ナトッレグ」



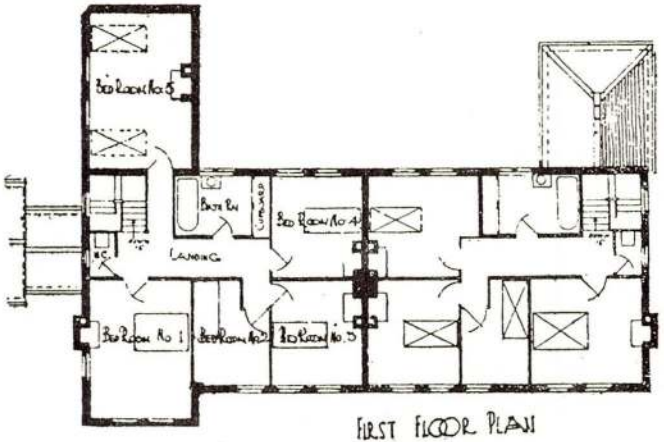
END. ELEVATION (WEST)



FRONT ELEVATION

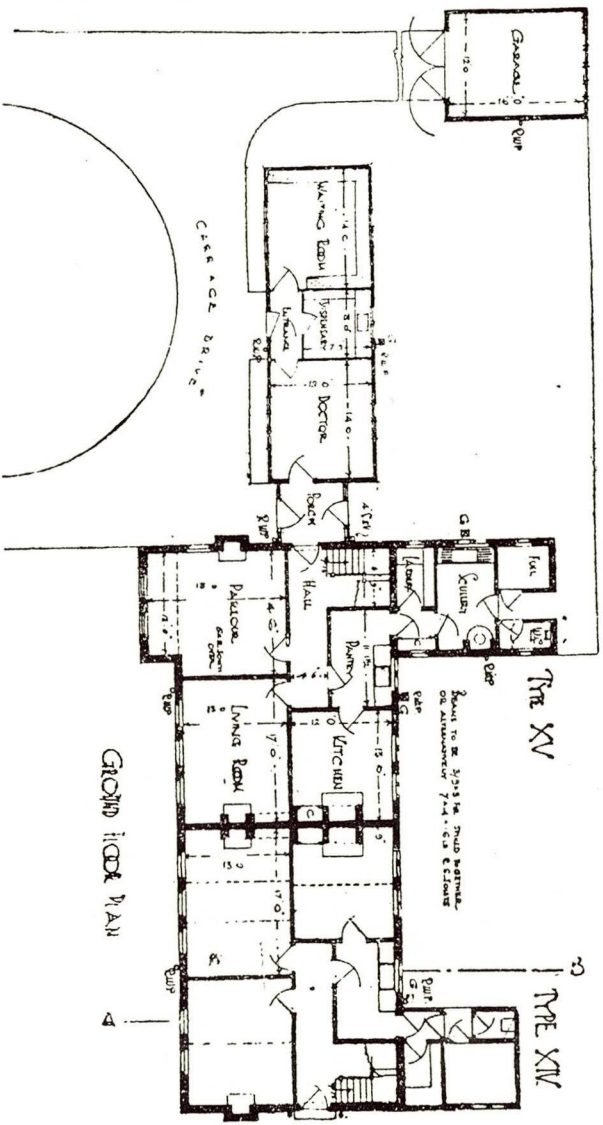


END ELEVATION (EAST)



FIRST FLOOR PLAN

（四）　宅師醫の計設宅住「ナトッレゲ」



に關しての數字を示されてゐる一九〇二―七年間には倫敦に於て設備された住宅は非常の量を示してゐるが此數年間に於ける倫敦近郊の狀況と比較するとまだ少ない方である。しかも一九〇八年からは却つて減少し取毀住宅の量に劣つてゐる。後者は總体に增加して近年殊に甚しい大倫敦に關して住宅供給高の最大量は一九〇三年の約六萬四千室が第一位である。尙精査して見れば約七萬からの室數を擧げることが出來やう、一九〇二―一一年間（大約近年の國勢調査

期間に相當するが）に於ては、大倫敦に於て約四萬二千室と注されてゐるが、全部を精算すれば五萬五千に上るであらう。取毀の部を除去すれば夫々三萬六千室及四萬九千室になる。一九〇一―一一年の十年間には人口の各年平均の增加數は六萬七千人であるが、其約四分の三は實に勞働階級の約五萬人が增加してゐることになつてゐる。此期間に於ける住宅の供給は其要求高より增加してゐる。從つて此十年間に空家の數は非常に增加した。一九〇二―一九一六年の十五年間に於ける大倫敦全部の平均住宅供給數は約二萬七千室であるが、精算すれば三萬七千室に達して居やう。此の期間に就いては稍要求數より供給數が減じてゐる。それは今日の空家の狀態を觀て推測に難からぬ事である。乍然此の期間の初期は在つては或部分ではとにかく不足を訴へて居た位であるのである。

□戰後の住宅問題

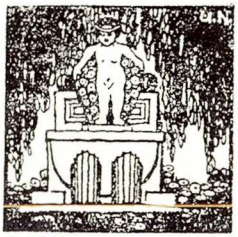
勞働階級住宅問題委員會は勞働階級に對する住宅供給に關して戰後七年間經綸事業として、每年約五十萬磅の豫算を要求してゐる。則ち全額三百五十萬磅になるが、其目的は住宅の供給と不衞生的地域の整理に在る、委員會は貸金の割合に就いて監督官廳の許可を乞ふた、それは一八九〇年の條令の下に、建設した總ての建物の建設費の豫算年額缺損の七割五分を其完成後少なくとも七年間市に貸下げを許可して貰いたいといふのであつて、將來其建物の時價と其總計の負債との差額に基いて出額の根底を定めて貰いたいといふのである。これは市が戰後七年間に過去約三十年間の努力と殆んど同額の費目を使ふといふのである。其市の享くる經費總額は一九一八年三月末迄の精算壹百拾四萬六千百六十四圓と、住居條令に基く家屋及土地に關して貳百三拾五萬三千七百拾七圓と、合計三百四拾九萬九千八百八拾壹圓になる。茲に記憶して於いて貰いたいのは壹百拾四萬六千百六拾四圓といふ借金費目は吾々の租稅に負擔すべきものであつて、貳百三拾五萬三千七百拾七圓の借金費目或は其六割七分は住宅の貸付料から割り出す

筈で稅に關係ないといふ點である。そして市の政策では之等の建物は獨立經營にしなければならぬといふ方針であり、凡ての建物を一括して豫算を立てゝゐるが斯の目的は成功をしてゐるそれから開戰以後戰亂中の貸付料金の額は、必然的に增加した借用金と建築材料の高價と、利率の膨脹とに平均せぬ事は考へられる。然らば此度の大戰によつて今や最も重大なる時機に到着したのである。是非とも此際住居問題に關する負擔を免れるため堅實なる經濟政策を樹立すべき時機である。政府は既に戰後の住居問題に關して其政策を宣言した以上は、財政上に如何に影響するかを考へない譯には行かないと同時に、同じ理由の下に三百五十萬圓の決定額の稅率が結局如何に敦倫に影響するかを豫見するとは不可能であるに相違あるまい。(完)

譯者曰く茲に揭げてある住宅設計圖は レイモンド・アンウイン氏指揮の下に數名の建築家が計畫した勞働者住宅で後者は醫師の住宅である

◆住宅の欠乏◆

住宅問題が今日の樣に盛んに論ぜらるゝ抑々の原因は住宅の欠乏といふ事にある。語を換へて曰へば住宅建設に要する資本を得る道が無いからである。資本に不足すると曰ふのは金融市場に資本が不足するといふ事でない、資本家の手には相當分資本は有るが住宅に投資するといふ事をいんで問題にしない爲である、更に適切に曰へば小住宅に對する投資は算盤上引合はないから小住宅の建築其事は國民經濟上必要な事業かも知れないが寧ろ奢侈的な自働車などを作つて一儲けする方が勝ちだといふ事になるのである



京都古建築觀（六）

特別替助員　伊藤清造

七、淨瑠璃寺

概說＝山城國相樂郡當尾村大字門前にある眞言宗の名刹である。その創建に就ては不明であるが京華要誌には天元年中に多田滿仲が造營したと誌してゐるが、中興は永承年中で僧の義明であると傳へて居る、別に小田原寺法雲院又は本堂に九体の佛像を安置するによつて此の堂を九体堂と稱し、寺號を九体寺と稱してゐる。

建築　京都を中心として榮へた藤氏の權勢と其感化する處とは、到底、京畿の一小地方のみでは止らなかつた。海河山丘千里を距つた奥の國に、平泉の文化を大成したのは、其最も著しい事件であつた。殆んど天才鬼智的な偉人でない限りは、到底其根本に於て、時代の思潮に影響されない譯には行かない。あの榮へに榮へ、奢りに奢つた藤氏全盛の絢爛、奈何に當時の人心に普遍してゐたであらうか、斯ういふ事證は最も多く京都や奈良の地方に殘されてゐる。碧瓦朱楹に飾られた大極殿、長蛇のやうに走つた步廊と白虎蒼龍の樓と、白砂の清らかな南庭に散り掛る櫻を踏みつ外けつ、そゞろ步いた公達の優雅な夢は、遺憾ない程に吾人の胸底に響かすものがある。京都の近傍に於ける藤氏の遺物は此の間に多少の連鎖を有つてゐる。

九體堂

阿彌陀堂であつて、九体の阿彌陀座像を安置した十一間四面の細長い單層寄せ棟造りである永承二年のもので、阿彌陀堂（平等院、鳳凰堂）に先つこと五年である。明治三十年逸早く特別保護建造物に指定せられ、同三十三年十二月には修繕の工を竣つたのである。

前に向拜を付け、戸は唐戸を用ひてゐる。軒は二軒であつて飛擔棰は少しの反轉がある。内部は、全部化粧屋根裏を見せ、三斗で支承して、合掌で棟に接してゐる。須彌壇には、鎌倉期の劍頭を巴の複合絞で裝飾してゐる。向拜の手法は、特に新しく德川時代追加のものであるとは明であるが、是がある爲に、全体の美觀の上にも著しい害を爲してゐる。屋蓋は、四住の注い勾配である爲、特に安定の快感を與へてゐる。堂は少し長すぎるようであるが、柳の緑の萌ゆる頃、丹塗りの堂の扉を開いて、傑作阿彌陀座像の尊嚴な九体を仰視したとき、吾人は云ひ知れぬ情趣を唆られるのである。春の柔い光りが柳とはいず、甍といはず、柱といはず一樣に輝いた時、深い暗い堂の内部の陰影は、吾人に深刻な藤氏一樣の神祕的瞑想を以つて迫らずには止まない底の趣がある。

三重塔

阿彌陀堂と同じく藤原期の遺物として、明治三十年に特建の指定を受け、同三十七年六月に修繕されてゐる。斯の塔は、治承二年に京都から移建したものである。

方三間丹塗の檜皮葺であつて、巾四尺の廻椽を附けてゐる、塔の平面は十尺であつて、海住山寺五重塔よりは一尺大である。組物は三手先きであつて、支輪小天井を有つてゐる。

古池の水は蒼々として深甚なる神祕を語り、新柳の緑は洋々として千古の幻影を誘つてゐる邊、輕い緩い檜皮葺の三層の塔婆は、輕微な快調を以て吾人に迫つてゐる。一体に三重なり五重なりの塔婆建築は、夫れ自身が既に充分美的價値のある形式であるが、其上に、少しでも比例が好いとか、勾配が緩いとか急だとか、いつた條件に依つて、非常に鋭敏に吾人の感覺を載

すものである。アノ律的な各層の軒と、アノ強い individualistic な九輪と既に何等の調和であらう。大体に於て、調和は、靜的な美を表現してゐる。我邦の建築物が縦へ奈何なる形式を有つてをつても、到底靜的美觀の一刻を無視し能はないのは其調和に於て奈何に完全な形式を採つてゐるかを證したものである。斯の靜的美の中に強い處があり、鋭い處があり、靜中動を生せんとするの一場を演出するのは、他の點に於て individual, contrast characteristic Rersonerity 等の總てが、深い底に根差してゐるが爲であらう。我九体寺の三重塔等は吾人に斯の事實を教へてゐる。

八、寶塔寺

概說——山城國紀伊郡深草村にある法華日蓮宗の寺である。其創始は、延慶年間（其元年は西紀千三百八年に當る）日像上人が開基したものであるが、天正年中に日銀が中興したので、堂塔は更に輪煥の美を加へたと稱してゐる。

此邊一体は、非常に幽邃閑雅な處であつて、詩趣津々として盡きないものがある。彼の文屋の康秀が

草深き霞の谷に影かくし
　てる日のくれしけふにやはあらぬ

と詠じたのは、深草の御門の御國忌の日であつて、こゝは其古跡である。寺域には日像、日銀の墓碑があつて、信仰の煙は絶へることがない

建築

此處に在る建築で、建築史的價値のあるものは、足利期の遺物と信じられてゐる處の多寶塔と總門の二つのみである。

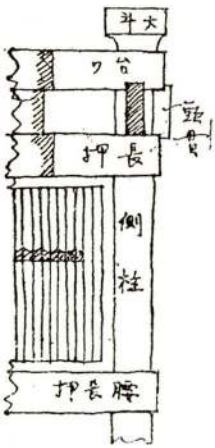
足利時代の京都は、一方には國内兵亂の亂雜な狀態を有しながら、一方には、室町御所とか花御所とか謂つて榮華を誇り、金閣や銀閣に依つて所謂足利趣味を大成し、東山美術の範を成した時代であるが、時代一帶に漲つた氣分は、果して奈何なるものであつたらうか、法觀寺五重塔を見たり、興福寺の五重塔を見て、足利時代の時代思潮を云々したり、又は、金閣や銀閣

の華麗を以て評語したり、妙喜庵や東求堂の沈靜を以つて足利の夫れとするならば、吾人は決して底の底に潜んだ足利期の上下思潮の眞諦には到底觸れることは出來得ないのである。

六波羅密寺の本堂や、此の寶塔寺の建築が、斯の間の消息を奈何なる程度まで傳へてゐるであらうか、吾人は大達眼を以て三考四考すべきであると思ふ。

多寶塔

明治三十九年に特別保護建造物に編入されてゐる方三間龜腹の上に立ち濡椽を有してゐる。全体は丹塗りで、初層は三手先組物を有してゐるが、支輪軒小天井を備へてゐる。棰は二軒で



隅には鬼斗が使つてある。一間は唐戸を用ひ左右の手は腰長押上に連子格子の窓を開けてゐる

長押から大斗に接する迄には、頭貫と臺輪があるが、この場合の普通の手法としては、勿論頭貫の鼻は側柱より外へ出てゐるべきではない唐様の手法では、こゝに繰形を用ゆべきであるが、要するに、斯の多寶塔は唐様の手法に繰形のないものともいふべきである。

上層は、龜腹を以て初層を接合し、其平面は圓形であることは、多寶塔の形式として少しも違ふ處がない、組物は四手先で、支輪軒天井を備へてゐる。而して、屋蓋には九輪を載せてゐる。

或る秋の夕暮であつた、靜に靜に暮れて行く夕陽の弱い光りは、斯の古ぼけた多寶塔に投げられて、哀音悲聲を漏してゐる。緩く動いた微風にさへもちら〳〵と一片二片散り掛る黄葉に不安定な塔と大袈裟な九輪の對照は、miserable の感を強ふせずには止まない。

藤氏に次いだ平氏の榮華に疲勞し飽和した人心が奈何に賴朝の事業を喜むだとはいへ、アノ

殺伐な武斷的な辛辣な政治に誰が謳歌するであらう。北條氏の執權のとき、會々元の襲來を防いだのは賴朝の功を沒すべからざるものがあるとはいへ、又南北朝に次いでの戰國時代に影響する所は決して尠少ではなかつた。日が出ても日が暮れても、兵を練り馬を養ふことより他に知らなかつた戰國の將士と、月が照つたといふては眺め、花が咲いたといつては踊つてゐた足利氏の暗將や、浮世を超越顏に東山の別墅に隱居してゐた君子の下に、奈何に苦むだ、奈何に疲れた國民が居たであらうか。悲である慘である、斯の時代精神それが足利の庇護を受けて發達した東山美術の底の底に根差して居つたことを懷ふならば、奈何に足利期の美術が miserable の表現に富むでゐるかを感得することが出來るのである。斯の点に對しては、流石飛鳥奈良の時代精神は光つたものであつた。德川期の美術と其時代精神とが、奈何なる連鎖を有つてゐたかを思つたとき、斯の足利時代思潮の體現としての多寶塔は、文明史上に大なる光輝を放つてゐる。

初層と上層の軒の線には何等の交涉もなく、極めて頓狂的であり且つ濡椽の出と軒の出とも何等交涉共鳴する處もなく、九輪は殆んど魔の樣な力を以つて屋蓋を壓倒してゐるような斯の塔の姿態は、是れ丈けで既に足利時代の精神を具象化したものではないか。

木割は、全体に通じて著しく纖少であつて、臺輪の上に載せられた本墓股は弱々しいものであるのが、反つてよく他との調和を保つてゐる。斯の墓股等は、全く裝飾的のもので、構造上何等の必要もなく、單に張り付けてあるのみである。又、科拱に就ても同樣であつて、時代技巧の約束は遺憾なく發揮されてゐる。軒の支輪の曲線は、後世のような俗惡なものでない迄も、天平期のものに比ぶれば、實につまらぬものである。

總門

切妻丹塗りの四脚門であつて、明治三十九年に特建に編入されてゐる。支柱は太い圓柱で冠

木を支承し、扣柱は面を取つた角柱で二た軒を支へてゐる、門には唐戸を用ひてゐる、舟肘木で桁を支へ、虹梁の上には唐様双斗が載せられてゐる。冠木の上には、大斗を載せ其上に虹梁を互し、大瓶束で出三斗を支へて棟を支承してゐるが、其構造は却々巧に出來てゐる、飛擔棰木には反轉が付けられてゐる。

切妻といふ形式は最古の形式である。南洋方面の未開の人種が用ひてゐるのも切妻であり、我邦の古くに用ひられた事も、神明造りや大社造りで明な事である。而して、勿論最も簡單な形式である。藤原時代の寢殿造りに於て、此の切妻の屋蓋は最下級の業位を表識したものであつた。

一体、切妻の屋蓋は、瀟洒な感じを與へる点に於て最も便利である。即ち簡單で利のある方法である。美しい曲線と簡單な構造とは、充分に瀟洒な要素を成してゐる。古くは法隆寺東院伽藍の傳法堂（天平）も、海龍王寺の西金堂も（天平）平等院鳳凰堂の翼廊（藤原）も東福寺の月下門（鎌倉）も、皆斯の點に關して秀た例であらう。

斯の總門は屋蓋が極めて緩い勾配で、棰には輕い反轉があり瀟洒な物淋しい美しさを有つてゐて、東福寺月下門の如くに詩的な優美はなく、建仁寺勅使門の如くに強い力のある壯美はなく柔かい中に淋しみを含むだ憂に沈む佳人の趣がある。

◘建築美と天然美◘

公園又は名所舊蹟などは、徒らに天然の美のみを恣にするよりは、點々たる茶亭や、輕快なるパンガロー、さては莊重なる鐘樓、塔婆の尖頭が見ゆるあたりは、天然の美を更に醇化するものである。天然の美と人工の巧致相合して、渾一融和せんとする處に得も云はれぬ美觀を感ずるのは、古來人の皆一致する處である。



△地理概要
△森林管理の沿革
△林野面積及林況
△林木の分布
△森林の施業
△斫伐事業
△阿里山の事業
△同經營の沿革
△同山の森林
△阿里山の木材
△同伐木造材及集材
△同山の鐵道
△嘉義貯木池
△八仙山の事業
△同山の概說
△同作業の計畫
△同伐木造材及運材
△同土中貯木池
△濁水溪の事業
△同山の概說
△同山の森林
△同山の材木
△同山の作業計畫
△同伐木造材及運材
△眞山貯木池

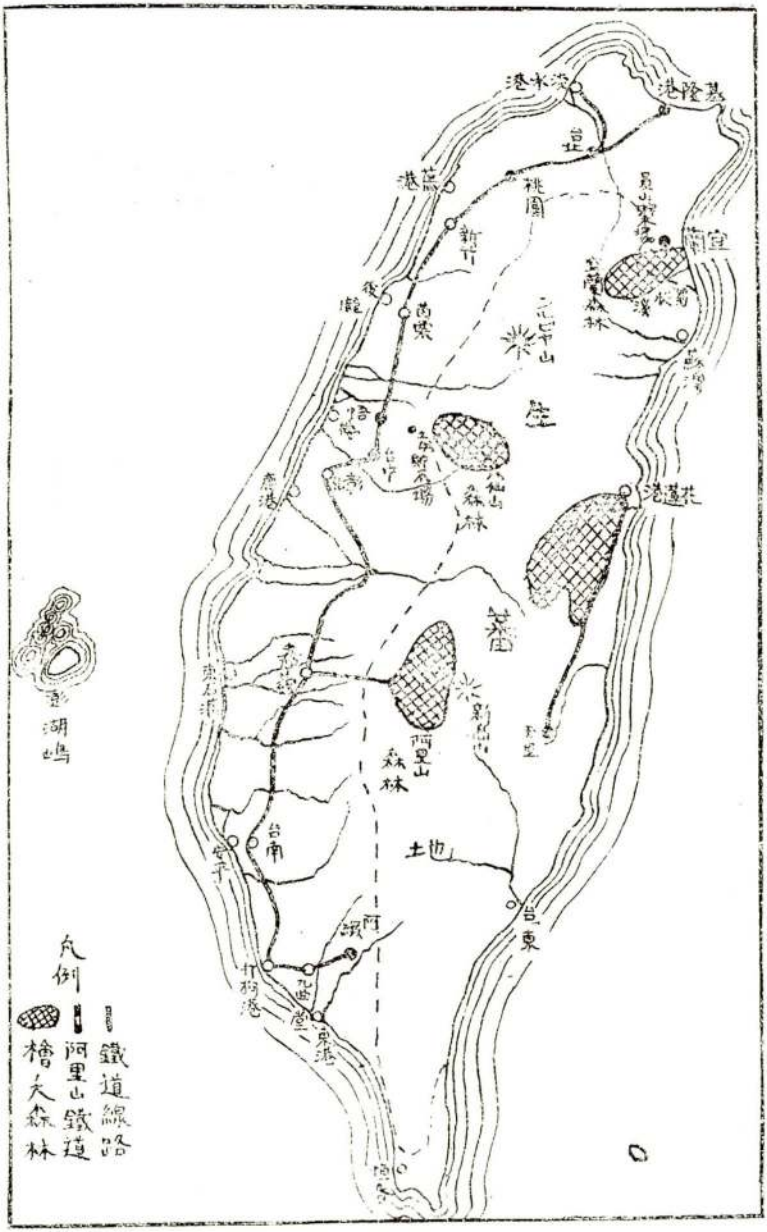
■臺灣營林局事業に就いて（一）

會員　谷民藏

地理概要

沖繩縣八重山群島の西南二十餘里斜に支那大陸と相對して、我が邦土の南端を彊れるものは實に臺灣島である。南はバーシ海峽を介して比律賓群島を距ること九十餘里にあり、東方一帶は涯りなき太平洋の波濤岸を洗ふに任せ、北緯二十三度半の北回歸線に跨りて、地形南北に長く東西に狹く全體恰かも木の葉を伏せたるが如く、其の面積三百六十二萬六千八百六十町歩にして人口凡そ內外人三百六十四萬を擁す。

抑も本島の中軸をなせる臺灣山系は東北端三貂角の海岸より起り中央より稍々東に偏して南方に貫き遂に恒春半島の尖端に終る、山嶽到る處嶮峻にして殊に北部及中部に在りては高山奇


基隆港
淡水港
基
港
桃園
新竹
苗栗
後龍
宜蘭
蘇澳
花蓮港
台中
彰化
南投
雲林
嘉義
台南
高雄
屏東
台東
阿里山森林
八仙山森林
太平山森林
玉山
澎湖嶋
凡例
鐵道線路
阿里山鐵道
檜木森林

峰重疊相連り或は新高の峻嶺となり大底山となり合歡山となり雪高翁山となり大霸尖山となる蓋し海拔五千尺以上の高さを有するものゝ如きは數ふるに遑あらず、其の一萬尺を超ふるもの實に二十有餘座を算す此の山系の自ら本島を東西の二方に分離し西方に於ては一望數十里の沃野を形成して米、茶、甘蔗等の重要農産物を產し東方には別に海岸山脈の並走するあり中央山脈との中間に狹長なる縱谷野を形成してゐる。

更に氣象の關係を略叙すれば本島は回歸線直下にあるを以て一般溫度高く嚴冬二月の平均溫度尙攝氏十四五度にして盛夏七八月の候には平均二十七八度に上り年雨雪量も亦澎湖島を除けば一千七百粍乃至三千五百粍を示すも此の溫度は斷へず變化し頗る不規則なり且雨量も一日にして九百粍以上に達する所あれば之に反し年に依りて四箇月間に亘り降雨皆無なりし所あり又北部と南部とは其の季常に相反し冬季北部は雨季なるに南部は乾燥して降雨あること極めて稀なり風は又四季を通じて其の力強きも殊に七八月の交は暴風の襲來頻繁にして附近海上の航海は勿論陸上に於ても年々多大の災害を被りつゝあり蓋し暴風の來るや雨必ず之に伴ふを以て一層其の威力を逞ふし甚しきは一秒時五六十『メートル』に達したることありといふ。

二十有餘座を算する一萬尺以上の高山の頂には『ピヤクシン』『シヤクナゲ』『トヾマツ』等の寒帶林木が時として梢に雪を著けたるを見るべく冬知らぬ海岸地帶より一千尺以下の低地に於ては『ヘゴ』類『コンロン』林投等の熱帶性林木が常磐の色を爭へるを見るべし而して淸政府時代より支那移住民は平地より次第に山脚山腹地に進み濫伐濫墾其の極に達し苟くも開墾に適する所は其の蹂躙する所となりて著しく地力に變化を與へ山嶽地方には原始的なる蕃族の棲息するありて自大固守す此の間にありて二十年來母國人の來り住むもの亦漸く多きに至れり、斯くて山野百里風土氣候は寒溫暖熱四帶を萃め文物の程度は上下三千年を羅布す。直接に間接に天然と人事との綜合に支配し產出せらるべき森林の狀

況が極めて腹雜多樣なるは又多言を要せざる處である。

森林管理の沿革

本島は清朝の末葉支那移民の增加に伴ひ到る處森林の濫伐濫墾を蒙りたるのみならず夙に行はれたる製腦事業及對蕃政策上の必要より漸く深山幽谷の伐木開墾放牧等と亦熾んに行はれたるを以て漸次森林の荒廢を誘致し千古斧鉞を加へざりし天與の美林も終に禿山赭峰と化し僅かに獰猛なる化外民の蟠踞に依りて土人の容易に窺ふことを得ざりし峻嶺險崖の地を餘すに過ぎず憶ふに當時に於ける清朝の方針は森林官有の主義なりしが如きも而も開墾には所謂『墾照』若くは『丈單』なるものを付與して之を認容するの己むなきに至り造林の如き林地更新の企劃は固より之を遂行するの遑なく拱手放任したりしものゝ如し領臺當時に於ける本島の森林は斯の如生蕃人の棲息交通する地域を除くの外眼眸の觸るゝところ荒廢赤裸眞に其の極に達せるを以て森林を治むべきやにありしや勿論である、即ち二十八年十二月先づ苗圃を臺北に創設し、以て森林施業上の調査機關たらしめたり、是本島に於ける森林苗圃の濫觴である。之と相前後して日令第二十六號官有林野取締規則を發布して森林の業主權を確認すると共に林木の伐採及開墾を取締り次て二十九年九月勅令第三百十一號官有森林原野及產物特別處分令を發布して林野の貸下豫約賣拂及林產物賣拂の制を定め三十四年九月律令第十號臺灣保安林取締規則を發布し森林の保護國土の保安を維持せむことを期し三十六年六月法律第五號粗製樟腦、樟腦油專賣法を發布して從來頗る放縱なりし製腦事業を整理すると同時に林木の亂伐亂消を防制し三十八年九月府令第七十二號蕃地取締規則を發布して伐木其の他の事業の爲めに蕃地內に出入し若くは居住する者を許否し四十三年十月律令第七號林野調查規則を發布して全島に亘る森林原野の基礎的調查を爲し次で漸次組織的に林業の經營を爲さんことを期した。又官民有林野調查の結果同規則第六條に依り業主權の國庫に

歸屬したるものゝ土民の收益に委せんとする保管林は各廳を通じ二十六萬九千九百二十六町歩を有す之より先き三十六年阿里山調査の議を決し一面鹿島組に依る濁大山、土倉氏に依る『ガットン』山伐木事業の起るあり三十九年殖産局に林務課を新設して官民有地の造林及藤田組に依りて著手したる伐木事業を監視督勵し來つたが四十一年藤田組の阿里山經營を中止するや之が官營を企圖し遂に四十三年四月阿里山作業所の設置を見たる等本島林業は著々として振起するの動機を作すに至つた。以上は實に本島に於ける森林の經營及管理に關する沿革的經過の大要である之を概言すれば百事創業の時代に屬し土匪の戡定、生蕃の剿滅等尚未だ其の效果を收むること能はざりしを以て官民共に秩序的に森林の經營を爲すが如きは固より容易の業にあらざりしも今や本島統治上に於ける二大障碍の根原とも稱すべき土匪の討伐は早く既に三十五年に鎭定して爾來全然暴擧の跡を根絶するに至り蕃族廓清の大業も亦終局を告ぐるに至りたるを以て猝かに諸制を革むると共に森林經營の方針も亦正に必然の機運に促され大正四年七月勅令第百三十一號營林局官制の發布せらるゝありて茲に國有林野の管理及施業を管掌する特殊官廳の設置を見たるを以て殖産局に於ける民有林野の指導監督と相俟て著々其の步武を進めんとするに至つた乃ち營林局は從來阿里山作業所に於て施行し來りたる伐木事業を恢弘し相踵で八仙山及濁水溪流域森林の伐採に著手し更に進んで官民林の造林を大成せむとするの運に至れる等將來益々多事ならんとするものあれば以下項を追て本島森林の概況を叙し之に伴ふ營林局事業の要領を紹介せんとするのである。

林野面積及林況

本島に於ける林野の面積を擧げて見ると、大正四年三月三十一日現在『保安林六九、五七四町步』『其の他の林野』二、七九〇、三一〇町步』計二、八五九、八〇〇町步。之を土地全面積に對比するときは其の七十八%に當る素より本面積は不毛地及河川區域を包合する大体數な

るも現在に於ては之を以て林野の概數とした。之を樺太に於ける土地全面積に對する林野の割合九十二%に比すれば遙に及ばざるも舊日本に於ける四十八%朝鮮に於ける六十八%に比すれば林野面積の割合に廣汎なるを知られる又之を行政區域内及蕃地に分つと

本島行政區域内	一、〇九二(千町歩)
本島蕃地區域内	一、七六九(仝　〃)
計	二、八六一(千町歩)

次に最近行政區域内に屬する林野調査の結果に依れば

山林	八〇二、五五〇(町　歩)
原野	一六二、五七〇(仝　〃)
計	九六五、〇五〇(仝　〃)

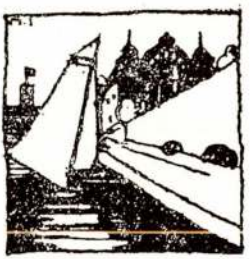
既に述ぶるが如く臺灣は北緯二十三度半の北回歸線に跨りて位置し其の中央を南北に走る中央山脈は海抜一萬三千餘尺の高度に達し且之に深く刻入せる溪谷によりて極めて複雜なる地形を呈する從て熱帶より寒帶に至る各種の林木を生じ其の種類頗る多數であるが、即ち今日調査濟の植物は三千百有餘種を算し就中林木に屬するもの約五百種に上る。而して是等の林木は強力なる海風溫暖なる海潮の影響に加ふるに古來山地に占據せる蕃人に依る人爲的林相の變化の爲めに極めて複雜なる分布をなし蕞爾たる一孤島なれども容易に其の全般を觀察窺知すること能はざるものありとす、今本島の林況を概覽するに西部海岸には帶狀をなして海岸性林木の叢林を存し之に續く平地は殆んど凡て農耕地であり部落の周圍を繞る莿竹林の外森林として見るべきものは往々丘岡に於て本島人の造林に係る相思樹林あるのみ次に山脚底所より漸次山腹方面に及ぶも亦古來支那民族の濫伐燒棄する所となり一望の平野にあらざれば野火の跡地に生せる楓樹の疎林又桂竹の叢林あるに過ぎず斯くて山腹以上に於て初めて常綠濶葉樹林を現出するに至り次第に移化して溫帶の森林及び所々に紅檜扁柏、栂等の優超なる森林を現出するに至る、中央山脈の東面即ち東部臺灣にありては領臺前に於ける支那民族の拓殖西部の如く進まず平地

は所謂平地蕃人の選食的の農耕を營むものあるに過ぎざりしを以て山脚に接して尙廣大なる天然平地林の存在するものがある從て山地は平地に接する迄鬱茂たる樹林を以て掩はるゝを常とす然れども近年急速なる臺東移民の發展に伴ひ此の鬱茂たる平地林は漸く伐盡せられんとし山地も亦與山居住の蕃人の漸次移住して此處に開墾を始め爲めに所々に斑狀を呈して未立木地の存在を認め年と共に其擴張せらるゝ傾向を示すに至つた斯くの如く平地に面せる山腹以上は東西兩面共に鬱蒼たる森林を有すれども必ずしも同一の林相は中央山脈一帶を被覆する者と速了してはならぬ足一度山地蕃人の占據せる繩張內に入らんか永年連續して蕃的燒畑耕作を營める結果大面積の自然林を滅失して茫漠たる草地と化せるを見るべく殊に中央山脈を圍繞せる高山蕃人の居住地方の如きは到る處急斜地に於て農耕を連續し來りたる爲めに表土流失して痍惡となり『ハンノキ』の外成立せざる所あり或は一望皆是れ草野にして森林と稱すべきものは海拔八九千尺以上の高地に斑狀を呈するもの又は溪間に散在せる疎林を見るに過ぎざる所尠くない蓋し本島に於ける特異なる森林の狀態なりと云ふべきである只だ南部の山地より恒春半島の方面に至りては山岳地の幅員狹くして蕃人は平地に接して居住するが故に山腹以上は一帶に樹林地をなせるを常とす蕃人に依て森林の滅失したるもの以上の如く大なりと雖亦彼等は農耕に必要なる土地を開墾するに止まり文明人の如く林木を伐出利用するの能力更になきのみならず一面に於て彼等が生業の主なる狩獵をなさんが爲めに却て森林を保護するの念を有するが故に彼等の開墾地及開墾跡地は直に鬱蒼たる森林に接するを常とす即ち大体より見るときは山岳地は蕃人の開墾地又は開墾跡地にあらざる大部分は之を樹林地と見るも大差なきの觀あり而して之等樹林地の內特に著しきものを擧ぐれば南部には大武山より恒春半島の脊梁をなせる中央山脈一帶の大森林あり中部の西面に於ては阿里山より新高山西北面に連る針葉樹及濶葉樹の森林及之

に相對する巒大山の森林あり臺中廳下には八仙山を以て代表せらるゝ所の大甲大安、諸溪の源流地方に亘れる森林あり北部に於ては鹿場大山より西方加里山一帶に連れる森林の外大嵙崁溪の源頭『クル』『バボークル』『ララー』插天一帶の諸山を覆へる森林あり更に東面にありては『タピラ』馬太鞍『マリバシ』『チヤカン』諸溪の流域を包容して木瓜溪々至る一面は古來斧鉞の入らざる深林地と稱せられ又南湖大山より棲蘭山の間に擴布せる宜蘭濁水溪両岸の森林は久しく世に知られたる所である。（未完）

木材の構造美

我邦の建築は木材の構造物として、二千年間漸次に變轉して來たもので。日本風の建築の美は全然木材美であり、木材構造美である。若し其材料をコンクリート又は煉瓦とする。其組立の上に木材架設の方式を採りて、木材美を發現せんとするならば不合理の甚しきものと云はれはならぬ。斯の意味に於て、我邦建築の將來は、全然古來の傳統を切斷して、新にコンクリートや、煉瓦を以て主材としたる構造法に、其美を發見するの手段を採るより外に途はない。



回想錄（下）

會員　野人生

四

堺君は記錄の三枚目の頁を裏返してどん〳〵讀んで行く。

カ「建築學會は建築界に對して利益な事をして居ないと思ふ。」

ハ「モット廣告を取つたら如何だらう。」

カ「學會の体面を保つ上からは高尚なものも入れると全時に平易な一般向のものにも愼重に考へて貰いたいと思ふ。」

イ「學會を二部制に改めて協會及び學會とし、協會は一般向、學會は專門向といつた具合に分けてもよかろうじあないか。」

浮島君は鴨居の額から眼を移して主人公夫妻の顏を暫らく見比べて居たが此時亦喋り出した。

『僕等にいはせると實際今の學會は中途半端な處で仕事して居るとしか思はれんのだよ。學會は要するに學會ぢあないか、尤も我建築界には學會より外に有力な團体がないのだから學會則建築界といふ解釋からして學會でいろ〳〵な仕事に手を出して居るのも過渡時代としては止むを得ないのかもしれないが、併し建築界は決して學會のみで成り立つて居るのではなかろうぢあないか、學會が學會としてなすべき仕事が澤山あるに係はらず、一種變手古な体度で建築界を指導して居るのに慊焉らぬといふ考を持つて居る者が關西に多かつたのさ。』

堺君は斯の說明を聞いて居たが、

『併し私には學會の一種變手古な態度といふのが呑込めませんな、學會の目的は建築學會の定款にも擧げてある通り「建築ニ關スル學術技藝ノ攻究發達ヲ圖ルヲ以テ」目的として居るでせうが、そこで學術に關する種々の研究、技藝に關する色々な指導に就いて割合に多方面に努力して居る今の學會の態度に決して疾ましい處はないでせうが』

『君はさう云ふが今の學會は果して其目的に向つて眞面目な努力をして居るだろうかしら、僕等の眼から觀ると必然なすべき仕事を疎かにして學會としては什うかと思はれる仕事にあまりに手を廣げ過ぎて一つも滿足な結果を得られない樣な事

になつて居らぬだろうか、例へば學術に關する通俗講演會が此頃毎年開催される樣だが外に向つての仕事なのだか内に向つての仕事なのだかさつぱり解らない樣だよ。學會として或大切な問題を提へて討論會をするといふ場合に之を外に開放して講演會とする樣な態度に決して奬勵出來ない事と思ふれ又外に向つて大いに戰ふべき講演會に樂屈でする樣な議論を堂々と臆面もなく發表するといふのも考へ物だね』

木津君は堺君と浮島君と盛んに話合つて居る間に何事か要君に相談をして居つたが此時口を入れた。

『つまり今の學會の態度には判然たる色彩のないといふ觀察は尤もだと僕も思ふ。物には表裏といふ事があるぜ、よいかれ處が學會でやる講演會に今浮島君のいふ通り表裏顚到な樣な事が屢々行はれるといふのはつまり變手古な態度だろうぜ。』

堺君は折角の記錄の讀み掛りにこんな風に議論が出て來たので聊か閉口した樣な顔をしたが、

『併し兎に角建築界の唯一の機關である學會が多方面に活動するのですから、たまには今話の樣な場合もあるでせうが、それは其時のやり方が悪いのであつて學會の仕事其物が不徹底とは云へないでせう。』

『處がれ、今云ふ樣な結果を産むといふのは、根本に於て不徹底な体度がある爲ではあるまいか、若し學會が其目的を遂行する爲めに其記錄の意見にある通り學會を二部制にして確然と仕事を分類したら立派に徹底的態度を持する事が出來るに相違ないといふ議論は必ずしも僕等許りの觀察ではあるまいと思ふ。そこで今池君の意見では學會を二部に制して別に協會といふ樣な團体を造つて社會的方面の活動を分擔したら、學會も結局大いに混亂から救はれるに相違ないといふのさ。』

と浮島君は喋り出すと止め度がない樣子だから、堺君は『〳〵先が讀みたくなつたので議論はこの位にして先の頁を繰り初める。

要君はいつの間にか茶の間に引き上げて夕飯の仕度に取掛つたらしい、浮島君は暮れかゝる夕日の影を明障子に眺めたが、一度据ゑた腰は中々持上げさうにない。

五

ア「從來の學會は學問的には結構かもしれないが、モ少しくだけた方面を開拓する必要は有りはすまいか。」

キ「しかし學會としては止むを得ないだろう。」

カ「とにかくモ少し實際的にやる事には異議はないね。」

ア「報告的のものを月々に割つて出されるのは第一保存上にも面倒で困る。」

キ「準員の三十錢も正員の權衡上止むを得ないかしれないが、夫ならば他の雜誌を買つた方がよいといふ連中も隨分ある」

キ「地方に居れば正員も準員も何の區別も無いじやないか。」

ハ「此際案を具する必要があるな」

カ「僕等は極端にいへば名簿を貰ふのが便利だから入つてゐるといふ樣なものだ」

ハ「とにかく支部を置いて貰ふ事をこゝに集つた者だけでも決

議して置かうじやないか、いよ〳〵置くとなつても東京の方に打合せなければならぬからナ。」

イ「是非支部を置く事がよいといふ諸君の御意見が決すれば何等かの方法で月々日を決めて簡單に集つたら如何だろう。」

ハ「大体雜誌費報酬費が莫迦に多い様だナ。」

イ「毎月出すのは建築世界とか何とかいつた類を、リファインした様なものを出して、まとめた報告は時々材料の有り次第出したら如何だ。」

ハ「報酬などは或る範圍に限つたらモット小額ですみはすまいか。」

キ「クラブの様なものが早く欲しいな」

カ「大体地方の正員としては一圓が高いぢあないか。」

オ「ソンナ事をいふと怒る連中があるかもしれないよ。」

ハ「チットは怒らした方がよかろう。」

堺君は茲迄立續けに讀んで來た、浮島君の口を封ずる様な利巧な讀み方をしたのでさすがに浮島君も一寸口が出せなかつたのである、處が片書きに『カ』とあるので一寸聞いて見たくなつた。

「茲に初めて出てくる「オ」とは誰ですか。」

「それは一番遲く來た北山君だ、木津君と間違うので幹事が勝手にさうしたのだろう」

と浮島君は說明したが、木津君は思ひ出したといふ顔付で「北山君は有名なる「セッカチ」で當日も一番早く來て居る筈であつたのが遲れたから不審に思つて居たが後で其理由が解つた。といふのは北山が市内電車の立派な「パス」を所有して居つたからといふ譯でもなかろうが郊外電車の開札口を一寸首を下げて入ろうとした。處が車掌が切符はといふので、ハッと氣が付いて探つて見ると財布がない。北山君の事だから止むなく家迄引返したものゝ途中でもう今日の會へ行くのはいやになつたといふ事だ。委君は例の財布がチャント机の上にあるのに驚いて早速弟さんに持たして跡を追はせた。北山君は財布が弟さんと一所に會場へ向つたと知つてどうしても缺席する譯には行かなくなつた、氣の毒なのは弟さんで郊外電車から先の會場迄の道筋が判らんので大分手間取つて居たのを漸く途中で兄さんから追付かれて責任を果すことは果したが、其儘引返して歸られたさうだ。』

『それで北山は當日「ショゲ」て居たのかい。』

『斯の記錄にはさつぱり浮島さんの御意見がありませんな。』

『僕は當日皆の意見を謹聽して居たのだからあまり喋らなかつたのさも少し先きに行くとあるだろう。』

堺君は亦讀み初めた。

イ「大阪附近を界して支部といふものを置くとなるとあちらでもこちらでも支部を置きたいといふ傾向が出來はしないか。」

オ「それは別に心配する迄もないじやないか、其時機に入ればドン〳〵造るさ」

カ「木葉會でやつて居るやうな仕事を學會で實費でやる事にしたら便利だろう。」

オ「木葉會では大分儲けた事があるよ。」

イ「學會が年に一萬三千以上も費用をつかふならば專任のモットしつかりした專門家を常置したら如何だろう。」

オ「それはチトまだ早いだろう。」

ハ「支部を置くとしてソンナねらい經費を要する仕事でも無からうじやないか。」

ま「事務所等は誰れか個人の家に置いたらよかろう」

カ「とにかく正員にたいする原稿料を廢したらよほど餘裕が出て來る筈じやないか。」

ウ「學會としては目的はどこに有るだろうか、勿論定款に歷然と擧げては有るだろうが、モット深いものでは無かろうか、學會と大學があまりに接近し過ぎて居りはしまいか、勿論結構な事には相違ないが、それが一面には兎角の批評も出て來る元ではなかろうか。」

「漸く浮島さんの御意見が出て來ましたね。」

六

浮島君は床の間の大幅に眼をつけて、

「向洋とは誰だい」

と訊いてゐる。木津君は身をひねつて床の間を見た。其處には妻君の手生の松がキチンと挿されてある。大幅の詩は南洲會心の作と傳へらるゝものである。

幾歷辛酸志始堅。　丈夫玉碎羞瓦全。

吾家遺法人知否。　不爲兒孫買美田。

落款に『向洋』とある、浮島君の質問は筆者の誰だかを訊いたのだが墨痕淋漓として澄渕たる雄健な書に感心した丈であつて詩は讀めたか讀んでも解つたのか其邊は判らない。

『今豫備になつて居る○○將軍だよ』

堺君はもう僅かになつた記錄の殘りを默讀して居る萬年筆の走り書の大分汚れてゐる原稿用紙には斯ふ書いてある。

ウ「地方にして起る問題は雜誌の問題が主だからね」

カ「建築學會の仕事としてモット一般社會に建築趣味普及の方法を講ずる必要があるだろう。」

カ「たとへば社會的の建築問題で絶好の題目をとらへ一般正員の意見を徵し一まとめにして一般社會の相當階級に配布するも一つの方法じやないか。」

ウ「容物の割に學會が大きくなり過ぎてゐる樣だ。」

ハ「常識から推しても大阪に支部を置く事は誰しも異議はないね。」

ウ「大体役員を京濱在住者に限るが不都合だよ。」

ハ「イヤ實際には左樣でないと不便で仕方が無いのだろう。』

キ「だから大阪の樣なところに支部を置いてそこに一部の役員を置けば常に學會に對する發言權が地方にも存する譯となるじやないか。」

ウ「講演會大會等が時々地方で行はれる事が理想だね。」

イ「此間正員の試驗問題が有つた樣だがアレはドンナものだろう、今日の學會の狀態から推して何の價値もない樣に思ふ。それよりは先決問題として建築學會の正員を社會が相當のものとして認めらるゝ樣に進める事が先づ必要ではなかろう

か。」

カ「アレは從來の推選正員が無くなる譯かれ。」

キ「少々其邊が不明だよ」

ハ「僕は正員增加の防禦策かと思つて居た」

キ「キット博士の總長推選と論文提出の區別と同じ意味になるさ。」

ハ「地方からの推選は推選者が出掛けて說明でもしなければ隨分不利益に終つた例も有るさうだ、最初の時には美事に否決され翌年某大家を煩はして今度は早速及第したといふ樣な例もあるからな」

記錄はこれでお畢いになつてゐる。堺君は聊か調子拔けの氣味で暫らく終りの頁を見詰めて居たが

『浮島さん。これ丈ですか大切の記錄は。』

浮島君は木津君と顏見合はしてハヽヽヽと笑つた。

『それ丈だよ』

『何だか龍頭蛇尾の感がありますれ。』

『龍頭蛇尾より牛のよだれの樣ぢや。』

木津君は堺君の怪嫌な顏を見て居たが

『記錄は其丈しか書いてないがれ、議論はまだ却々續いて居たよ、併し要するにそれ丈の記錄に云ふた丈の大樣は盡して居るから幹事が切り上げたものに相違ない。』

『それで結局の議論は什うなつたのです。これで見ると御互ひに學會の批評やら不平やらを並べたに過ぎない樣ですが大阪に支部を置くといふ決議は出來たのですか』

『大体に於てそれを見れば皆の意見は一致して居る事は解るだろう。そこで此の大切の記錄を淸書して學會の雜誌へ投書しやうといふ決議が出來てれ、萬事幹事に一任する事になつたのさ』と木津君はニコ〳〵しながら答へた。

七

堺君は不思議さうに

『へゝ、此の記錄を學會の雜誌へ投書しやうとしたのですか。』

『そうだよ、大いに關西の連中の氣焰を雜誌へ載せて貰おうといふのだ。』

と浮島君も口を入れる

『それで學會で此の原稿を雜誌に載せてくれると思つたのですか。』

『さあそこは解らんさ、或は沒書されるかもしれんさ、しかし載せてくれるか什うするか遂つて見なければ判らんぢやないか。そこでとにかく送る事にしたのよ』

堺君は愈變な顏を上げて

『それで支部設置の問題は什うなつたのです』

『支部の問題は尙ほ關西の建築家の意見を叩いて更らに會合をしやうといふことになつたのさ』

『すると何んですか貴君方の決議としては支部設置に異議のない以上は益々俱体的手段を講じやうとしたのですれ』

『さうさ、一切を擧げて幹事に一任した以上は幹事の骨折で更らに二回三回と會合を重ねて行つて、目的を貫徹しやうとし

たのさ。』

と浮島君は桐の火鉢を双手で撫でながら喋つてゐる。堺君はそこで斯ふいう質問を發した。

『それなら建築學會の支部を關西に設置するといふ方針丈は略確定した譯ですな、それで什ういふ譯で建築協會に豹變したのですか』

木津君は『豹變』の言葉を聽いて耳を立てた。

『豹變といふと穩かでないよ。學會を二部制にしたいといふ意見はあつたらあないか、支部を置くといふ意見は一つの手段であつて却つて目的は協會的の會合を成立せしめやうとするに在つたと見る事も出來るぢやないか、どつちにした處で西方面の建築家が何とか活動を初めたいといふ衷心の希望から鹿ヶ谷會議を開いた以上は目的は建築界の向上發展に貢獻しやうといふ處に在ると考へても差支へないだろう。だから支部でも協會でも吾々の眞の目的に協ふ會合なら差支へなかつたのさ』

浮島君は後を引受けて悠ふいふた。

『つまり大体支部設置の方針で進んだ處が形勢が變つて來て、むしろ一足飛びに協會を創立する方が吾々の目的を貫徹するに便利であると氣が付いて大勢は協會の設立に推移したが、此の間に於ける吾々は學會と協會と性質の異同、目的の差別、内容の輕重、活動の範圍から建築と社會との關係、建築家の地位と任務など各方面の事柄を最も眞面目に熟議したものだ今から想ふと支部設置の問題が着々俱体的に進行したら却つて行詰つたものとなつてしまつたかとも思ふれ』

『して見ると大体支部設置の方針で初めたのが實際に行當つて見ると協會的内容を便宜としたといふのですな』

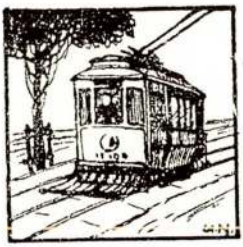
堺君は悠う念を推して置いて更に

『さうすれば將來學會の支部を設置するを便宜とする時運が迫つて來たら今度は支部設置も出來る譯ですな』

『さうさ。そして東京方面にも時機到來の曉には協會の支部も出來やうぢやないか』

と浮島君は有るか無しかの鬚をひねつて微笑した。折から妻君は夕飯の膳を運んで來た、今夜も大分に遲くまで話が續きさうである。（了）

♣　♣　♣　♣



時報

◎市區改正委員任命

豫て其筋に於て詮衡中なりし市區改正委員は大阪、京都、神戸、横濱、名古屋五大都市に關して二月六日付左の通り夫れ夫れ任命の發表ありたり。

京都市區改正委員會委員

内務省地方局長	添田敬一郎
内務省警保局長	川村竹治
内務省土木局長	堀田貢
内務省衛生局長	杉山四五郎
内務書記官	池田宏
鐵道院副總裁	石丸重美
工學博士	高橋其三
宮内事務官	松本修
大阪税關長	林田一郎
陸軍歩兵大佐	岡本英太郎
農商務省商工局長	中川健藏
遞信省通信局長	柴田彌兵衛
京都府會議員	西村金三郎
京都市會議員	伊藤平三
京都市會議員	俵儀三郎
京都市會議員	田島錦治
法學博士	市村光惠
京都市會議員	太田重太郎
法學博士	今井德之助
京都市會議員	緒方正規
醫學博士	近藤虎五郎
工學博士	佐野利器
工學博士	

京都市區改正委員會臨時委員

京都府會議員　田中祐四郎
京都府會議員　原田重光
京都府會議員　小松美一郎
工學博士　田邊朔郎
醫學博士　戸田正三
京都市區改正委員會幹事　內貴甚三郎
京都府內務部長　上田萬平
京都市區改正委員會技師　大木外次郎

大阪市區改正委員會委員

內務省地方局長　添田敬一郎
內務省警保局長　川村竹治
內務省土木局長　堀田貢
內務省衛生局長　杉山四五郎
內務書記官　池田宏
鐵道院副總裁　工學博士　石丸重美
大阪稅關長　松本修
陸軍騎兵大佐　高洲一萬太郎
海軍少將　布目滿造
農商務省　農商工局長　岡本英太郎
遞信省通商局長　中川健藏
大阪市會議員　巖又兵衛
大阪市會議員　種谷喜兵衛
大阪市會議員　酒井猪太郎
大阪市會議員　佐々木辰之進
大阪市會議員　中井隼太
大阪市會議員　本田友衛
大阪市會議員　沼田嘉一郎
大阪市會議員　和田榮太郎
大阪市會議員　增田種松
大阪市會議員　二川茂助
醫學博士　緒方正規
工學博士　近藤虎五郎
工學博士　佐野利器

大阪市區改正委員會臨時委員

大阪府會議員　上道菊治
大阪府會議員　湯淺豊次郎
大阪府會議員　藤坂虎次郎
法學博士　岡實
醫學博士　片岡安
大阪市區改正委員會幹事　佐多愛彥
大阪府內務部長　柴田善三郎

橫濱市區改正委員會委員

內務省地方局長　添田敬一郎

內務省警保局長　川村竹治
內務省土木局長　堀田貢
內務省衛生局長　杉山四五郎
內務書記官　池田宏
鐵道院理事　木下淑夫
橫濱稅關長　鈴木繁
大藏省參事官　黑田英雄
海軍大佐　金丸清緝
農商務省山林局長　鶴見左吉雄
遞信省電氣局長　肥後八次
遞信省通信局長　中川健藏
橫濱市會議員　鯨部朝之助
橫濱市會議員　戶井嘉作
橫濱市會議員　上朗清水
橫濱市會議員　三宅磐
橫濱市會議員　赤尾彥作
橫濱市會議員　佐藤政五郎
橫濱市會議員　天野祐義
橫濱市會議員　箕輪半藏
醫學博士　緒方正規
工學博士　近藤虎五郎
工學博士　佐野利器

橫濱市區改正委員會臨時委員

神奈川縣會議員　井上保次郎
神奈川縣會議員　菅沼芳太郎
神奈川縣會議員　大谷嘉兵衛
神奈川縣會議員　若尾幾造
神奈川縣會議員　中村房次郎

橫濱市區改正委員會幹事
神奈川縣內務部長　渡部忠壽
橫濱市區改正委員會技師　高松信明

神戶市區改正委員會委員

內務省地方局長　添田敬一郎
內務省警保局長　川村竹治
內務省土木局長　堀田貢
內務省衛生局長　杉山四五郎
內務書記官　池田宏
鐵道院理事　野村彌三郎
神戶稅關長　川崎軍治
大藏書記官　天宅敬吉
海軍大佐　金丸清緝
農商務省山林局長　鶴見左右吉
遞信省電氣局長　肥後八次
遞信省通信局長　中川健藏
神戶市會議員　太田保太郎
神戶市會議員　勝田銀次郎

神戸市會議員　人見米次郎
神戸市會議員　望月榮作
神戸市會議員　丹下眞太郎
神戸市會議員　岸本孝太郎
神戸市會議員　中山理
神戸市會議員　西村德三郎
醫學博士　緒方正規
工學博士　近藤虎五郎
工學博士　佐野利器

神戸市區改正委員會臨時委員

兵庫縣會議員　仮塚重雄
兵庫縣會議員　白石米太郎
兵庫縣會議員　玉置福藏
兵庫縣會議員　田村新吉
工學博士　武笠清太郎
山本治郎平

神戸市區改正委員會幹事
兵庫縣內務部長　阿部龜彦
神戸市區改正委員會技師
船松茂次

名古屋市區改正委員會委員

內務省醫保局長　川村竹治
內務省土木局長　堀田貫
內務省衛生局長　杉山四五郎
內務書記官　池田宏
宮內書記官　杉琢磨
鐵道院理事　木下淑夫
名古屋稅務監督局長　磯野定次郎
大藏書記官　勝正憲
陸軍步兵中佐　岡野耕一
海軍大佐　金丸清緝
農商務省山林局長　鶴見左吉雄
遞信省電氣局長　肥後八次
遞信省通信局長　中川健藏
名古屋市會議員　鈴木摠兵衛
名古屋市會議員　磯貝浩
名古屋市會議員　大岩勇夫
名古屋市會議員　加藤重三郎
名古屋市會議員　三輪吾兵衛
名古屋市會議員　下出民義
名古屋市會議員　大喜多寅之助
名古屋市會議員　長谷川糾七
醫學博士　緒方正規
工學博士　近藤虎五郎
工學博士　佐野利器

名古屋市區改正委員會臨時委員

愛知縣會議員　鈴村岩次郎
愛知縣會議員　青山鉞四郎
愛知縣會議員　高田逸藏
工學博士　武田五一
勳四等　三輪市太郎
醫學博士　山崎正薫
藍川清成
伊藤光彦
名古屋市區改正委員會幹事

愛知縣內務部長　堀田義次郎
名古屋市區改正委員會技師
吉田俊三

而して各都市とも其委員會の委員長は內務次官なること、各都市それぞれの市長及直接監督官廳たる府縣知事の委員として發言の權あるは法令によりて既定のことと思はれる。

◆神戸市に於ける都市研究會

神戸市に於ても都市計畫に關する輿論勃興して遂に都市研究會創立せらるゝに至り左の趣意書を發表し次いで大正八年二月九日其第一回講演會を中山手青年敎會堂に開催し左の諸氏の熱心なる講演ありたり。

一開會の辭　酒井浩洋氏
一都市の心理的基礎　神學士　賀川豊彥氏
一都市の衛生　醫學博士　天兒民惠氏
一都市と住居問題　神戸高等商業學校敎授　阪西由藏氏
一都市の下水道に就て　工學博士　大井清一氏
一都市計畫に就いて　工學博士　直木倫太郎氏

尙當日法學博士佐藤丑次郎氏の「海と陸」なる講演ある筈なりしも都合ありて出演せられざりき、尙同會趣意書全文左の如し。

●都市研究會設立趣意書

同志相圖り、茲に、都市研究會を設立せむとす。本會は、其名の如く、各國都市の研究を爲し、所謂其長を採りて短を補ひ、各自が居住せ

る都市を愈々善美ならしめん爲の目的を遂げんとてなり。而して、此事たるや、特に我神戸市の現狀に於て最も切要のことたるを感ず。神戸市が開港以來五十年間の發達は、今更謂ふ迄もなし。然れども、此發達は、多くは天惠とも稱すべき關係に在りて、例へば良好なる港灣を有せしこと。開國政策の遂行に便宜を得たること帝國の進歩が年々に著しきこと等の爲自然的に發達したるものにて、市民として此間に奈何なる努力を爲したるやと云はゞ、斯く天惠の裕かなるに反し、人爲的努力の極めて稀少なりしを感ずべし。近頃の築港完成を以て、僅に微少なから人爲的加工の跡を認むべきも、是すら、實に姑息にして、時代は寧ろ是等加工の幼稚を嘲りつゝ進み行くが如し。然るに、最早、神戸市民も爾く晏如たるべきに非ず。從來の如き經營にては、時代に追隨することを得ず。時代に追隨することを得ざる結果は、今日日本一東洋一の貿易港と稱するも、自然其地位を他に奪はるゝの時機來るべし。大阪港の發展の如きは、其暗示の一を爲すものなり。

海上の設備の不完全なると共に、陸上設備の不完全なることも亦甚し。歐米の都市民は、常に其都市民たることを誇りとして、其都市の經營に專念し、利益と享樂と修練の爲に遺算莫からんことを期せり。都市は、市民に依りて常に改善せられ。市民は其改善の跡を省みつゝ唯一の慰安と希望を市の發達に寄せつゝあるなり。然るに、神戸市の如き、敎育機關、交通機關、衛生機關、自治機關、享樂機關、互助機關の凡てが舊來の儘にして、戰後の新時代に接到せんとするが如き、餘りに無謀のことゝ謂はざるべからず。我等同志は、必ず新時代に適應すべき神戸市の改造を遂行せんことに努力せんとするものなり。

然れども、斯くの如き改善には一定の方針なかるべからず。又、經濟方面の關係を顧慮せざるべからず。又、市民の殆んど全般が其目的と其利害關係を諒知せざる可らず。即ち、一人一個の叫びにては、何等の効無し。市民の輿論、

市民が共同の意思を確立すること先決問題也。是れ、同志が先づ團体組織の必要を感ずる所以にして、斯の團体は勿論政派の關係或は個人的某々者の勢力に屬すといふが如き性質のものにあらず。市民多數の意思に依り又市民多數の意思を適當に代表せんことを本位とするものなり

恰も好し、政府に於ても、此際都市計畫法案の提出を見んとするあり。民間に於ても、相當研究機關を設けて、之に策應すべきは、時宜に適せる一事業なりと信ず。又、我等同志の多くが神戸市の住民たるに於て、本會は中心を神戸市に置くも、他の大小都市に在りても、神戸市民の神戸市改善を思ふが如く、又其居住都市の改善を念ふの人少からざらん。斯くの如きは、相互に提携研究して、各自都市の改善に努力し以て、一縣一國の都市改良に資せんことを欲す冀くは、大方の有志斯の擧を賛して其志を一にせられんことを。（大正八年一月發起人）

□□日高氏の近信□□

本會理事日高胖氏より會員小笠原氏宛の近信ありたれば同氏の許可を得て茲に記載す

（前略）panish Inf ulenza も日本及支那にも波及し貴地方大に荒され候趣驚入候當地は一時は甚しく一日二千名以上の死亡者有之日本人も大分多くやられ候由なれど幸小生等は下火と相成候時に參り仕合に候然し今日も全く閉息したる譯に無之小生も一時やられ三四日間程臥床致候へ共幸に頗る輕症にて直ちに全快仕候中條君は最初自身感染し次に同行の德大寺君に傳染し其后又御孃さんにもうつり大に困難せられ候尤も孰れも輕症にて大した事無く相濟み候は幸に有之候當地本年は昨年に反對に時候割合に暖く生等に取りては誠に仕合せに御座候然し氣温の變化甚しきには實に困り餘程用心せざれば感冒に罹り易く候普通室内は非常に暖くなしある故下着の厚き物を用ゆる時は汗出候夫故當地の人は寒中も薄着にて洋服地の如きも日本にて見る如き厚手の物は無之候只屋外に出る時丈けは極めて厚き地合のover coat を使用致候。

當地の建築物も五六年前位迄に出來居り候物は種々の點に改良進歩せることを見出候得共夫れより以前の者は九年前に見たものと餘り變り無く即最近の五六年間に急激なる進歩をなしたる譯にて特に室内裝飾及其他の美術的作物、服裝の色合、拵合等の Taste は最近に於て一大向上進歩の跡を認め得られ候。

建築の style としては當時盛んに流行せる物は Italian Renaissance, English Georgean, 及 American Colonial に御座候何れも其滋味のある點に於て夫々一致居候、又總ゆる物は最初より古味を附ける事も流行の一つに候或る建築家の話中に old one is never old と云ふ事を申居候誠に其通りに候へども是は小生等の既に〳〵試みつゝある事に候。

日本式も或る種の建築家仲間には可成り研究せられつつあり候。

日中の室内にて電燈を用ゆる事を平氣にやり居り候事は御承知の通りにて是は當地の如き三四十階の建物の林立たる塲所にては止むを得ぬ事ながら近來は day light を可成多く得らるゝ樣 planning に特に意を用ゐ居候是も建築上の一大進歩に候最近に出來上り當地の最も Substancial の office building として一般に認められつゝある Equitable Building の如きは其一例に御座候此他機械的設備等の點に就き申上度事は多く有之候へども後便に讓り可申候

村上氏始め其他の課員諸君並に建築協會の會員諸君へも大兄より宜しく御鳳聲願上候匆々

於紐育、十二月二十五日

日高胖

小笠原銷樣（下略）



會報

會誌

一、本會雜誌は第二輯より『日本建築協會雜誌』と改題し、一月下旬第一號を刊行し得たれども改題に關する手續事務等のため發刊期日遲延し、從つて會員並びに各贊助員諸君へ配送の本誌は例月より遲延するの止むなかりしは寔に遺憾とする處なりし。

一、本誌は從來『關西建築協會雜誌』と名付けられ居りしため主として關西方面の時事に就きて論議せしものゝ如く解釋されし向も尠なからざりしも、本誌の眞價を知悉せられし各府縣知名有力者並びに各學會、協會各學校及各新聞社諸方は本誌の改題に對し至極滿足の意を表せられしことを信じて疑はず、本會の深謝する處なり。

一、本誌購讀者諸賢の範圍は殆んど全國に遍く近時益申込者增加し來れるは寔に欣喜に禁へず、殊に都市問題の研究者は特に愛讀の榮を賜はり本誌の將來をして益向上發展の域に指導せらるゝ事感謝措く能はざる處なり。

一、本會雜誌第二輯表紙懸賞應募圖案は全部本月上旬を期し展覽するの豫定なりしも都合ありて別項の如く來月上旬に延期せしは遺憾とする處なり。

交換雜誌

建築雜誌　第三十三輯第三百八十五號（建築學會）
建築世界　第十三卷第二號（建築世界社）
住宅　第四卷第二號（住宅改良會）
鐵道協會雜誌　第二十卷第一號（鐵道協會）
工業之友　第百四十二號（工手學校）
內外土木建築時報　第十二卷第二月號（內外土木建築時報社）
工業之大日本　第十六卷第二號（工業之大日本社）

寄贈雜誌

工業評論　通俗衛生
オートモビル（第六號）　木材新聞



終身賛助員　川島甚兵衛氏

噫、川島甚兵衛氏

氏は、曩に、痾を養ふて褥中の人たりき。而して、天其壽を藉さず、英明有爲の資質と、前途幾多の春秋を齎して、大正八年一月　日終に永眠せられぬ。噫、痛惜何んぞ禁へむ。

氏や其家門實に本邦織物業者の巨擘たり曾て先考の遺業を享け、帝室技藝員として門地頗る榮ゆ。先に本會の創設に方りてや終身賛助員として本會の爲に寄與する鮮鮮からず。斯くて、本會の事業漸く暢展の時期に入り、氏の献替に俟つ處篤きものありしが、今や幽明其境を異にす、哀愁轉だ禁じ能はざるなり。本會は、今茲に氏の貢献を不朽に紀念すると共に、謹で深厚なる哀悼の意を表明す。

早瀬塗料商報　ペイント商報
大工業第二卷第二號　造船鐵工時報

新入會員

一、左の諸氏は第二十回例會の決議に基き今回會員として入會せられたり。

生野彌三郎　池谷仙太郎
長谷川五一　原科準平
西田儀太郎　德政金吾
大原芳知　大原忠隆
岡本新次郎　岡村德一郎
片山萬治　呼子正
吉田直次郎　津田堅
內藤栞　中川廣
黑木源次郎　植竹春重
八尾德太郎　山脇友三郎
權藤要吉　古川豊
平塚鎗吉　小林麟太郎
笹川愼一　佐藤節雄
瀨戸強三郎　森上活行

一、左の諸氏は第二十回例會の決議に基き今回會員として普通贊助員より資格轉換入會せられたり。

井上貢　伊藤幸太郎
井上與左衛門　伊東宗太郎
竹平孫一　長田岩次郎
永野房吉　久係田繁亮
藤野師樓　藤井令三
安部萬助　境正一
阪井米吉　鈴木與五郎

一、左の諸氏は普通贊助員として入會を申込まれたるに付理事會の決議により今回入會を承諾せり。

肥塚房春　山之內啓七
辰巳常彦　磯田竹次
小林秀吉　三宅保太郎
安積久助　上谷敏夫
井下清　吉本新之助

職員移動

一、本會書記岡部顯則氏辭任せしにより山崎萬壽夫氏後任として就職せり。

一、尙編輯補として江村郊郁氏本誌編輯事務を執る事となれり。

會合

特別理事會

日時　大正八年一月
會場　大阪倶樂部
出席　片岡、野村、池田、瀨戸、波江、松井、內藤

記事

一、本夕は內務省技師笠原敏郎氏來阪せられたるを迎へ、且つ同窓者諸氏の來會を促して時事の諸問題につき隔意な

き意見の交換をなせり。

一、散會後理事會を開き、編輯庶務の事項に關して協議する處ありたり。

理事會、附　五日會

日時　大正八年二月五日午後五時—十時

會場　大阪ホテル

出席　片岡、野村、瀬戸、波江、

記事

一、本夕は建築業協會關西支部の招待會に應じ、晩餐を共にし食後建築界の將來につき意見を交換して興味ある會合なりき。

一、當夜出席の會員左の如し。

渡邊節、木子七郎、葛野壯一郎、松井貴太郎

一、右散會後午後九時より別室にて理事會を開き協議する所ありたり。

イ、新入會員詮衡の件

ロ、新名譽賛助員推選の件

ハ、第一部委員會より現行大阪建築取締規則改正案に關し二月例會に諮ること。

ニ、本會幹事書記として山崎萬壽夫氏を囑託すること。

第二十回例會

日時　大正八年二月十七日午後五時半—九時

會場　中央電氣倶樂部

出席　設樂、瀬戸、葛野、波江、田中(豊)、廣瀬、池田、小笠原、小林、小川　浦、須川、谷、村野、宮飼、池田、能村、小寺、山本、吉井、清水、内藤(益)、新海、伊藤、今林、牛村、吉木、山口、園部、高橋、金子、石田、濱田、河盛、池山(宮)青田、淺井、谷本、土居原、島本、大橋、鷲尾、小谷(書記)山崎(書記)江村(編補)

記事

一、今回は殊の外多數の出席を得て議事に就き一層熱心なる意見を交へられたるは篤く感謝する處なり。

一、定刻に到るや、當日は片岡理事長上京中のことゝて池田理事座長席に着き、先づ開會を宣す。

一、次いで、波江主記諸般の報告を爲し、了つて、波江主記は一月例會に於て詮衡せる新入會員中當夜出席せる諸氏を紹介し、更に山崎書記及江村編輯補を紹介せり。

一、座長は、新入會希望者四拾弐名の詮衡に移るべき旨を告げ例に依り、理事者に於て其紹介者及概歴を朗讀し、一人毎に其可否を決せしが、田中君の動議に依り、當夜出席者に配付せる新入會希望者氏名表を各自に對する投票を看做し、理事者は其各員の概歴及紹介者を順次朗讀し、其否とする者のみに對して「否」の符合を附することゝ成り、採票の結果別項の通り孰も入會を承諾することゝなれり。此の間、池田理事に代りて波江主記座長席に着く。

一、座長は、今回の入會員に限り特に入會金を弐圓として徴收することを諮り、滿場一致を以て可決す。

一、六大都市知名有力者を名譽賛助員に推薦せんことを報告し、座長は先づ其各位に就き投票に藉りて其諾否を決せむとせしが田中君の動議に依り、敬意を表する爲投票を須ひず全會一致を以て之を是認せり。

一、八時休憩を宣す。休憩中前記新入會希望者に對する採票の結果を調査す。

八時二十分再會、座長より投票調査の結果一人毎に其可否票數を述べ、別項の如く孰も入會の承認ありたることを報告す。

一、右了りて、座長は、在組育本會理事日高君より小笠原君に宛てたる書翰の一部を朗讀して之が報告を爲せり。

次に、座長は、曩に大阪市より當協會に依囑されたる理想的住宅設計の報酬として金三百圓の寄贈ありたるに付其壹百圓を該設計擔當者に贈り、貳百圓を本會の經常費に收入すべき事を諮り、滿場異議なく之を可決せり。

一、更に、曩定の提案たる現行大阪附建築取締規則の改正案に就て研究せむことを諮り、尚、該案所管委員長野村君よりの傳言ありたる全君の意見を報告す。

設樂君より、既に當局が制定せる『建築法案』を議會に提出されたるときは其修正等の奈何に由りて地方の建築法令に影響すべきものあるを以て、夫れまで審議を延期せむとの動議を提出せり。

右に對し、池田君は、今該改正案を審議するとも、到底短時日にて之を能し得べきにあらず、二箇月も三箇月も掛つて審議する間に於て、終に其目的を喪ふの結果を來すなかを保せず、且つ、何れ公共機關等に諮問あるものゝ察せらるゝが故に、夫れまで審議を延期することを可とするの理由を以て右動議に賛成せり。

田中君、右提案の趣旨に就て理事者に質問を爲し、此際、延期期間の不明なるが如き延期を爲すよりも、寧ろ今に於て審議し置くの可なるべきを主張し、石田君亦之に賛す。

瀬戸君、議會に建築法案の提出ありたるまでを條件として延期説を賛成し、設樂君亦之に賛同す。

池田君、瀬戸君の延期理由と同樣の意味を以て自己の延期説を維持することを述ぶ。

座長は、折衷案を提出して、延期に就ては、議會閉會後なる四月の例會迄とし、繼續審議することゝせば來る三月の例會に於て審議に着手しては奈何と諮る。

田中君、右後説に賛成す。廣瀬君、今一回や二回延期するよりは此際進むで研究せむことを主張す。

池田君、『建築法案』が議會を通過せざる場合を條件として研究せむとの意味に於て其延期説の理由を更正す。

田中君、此際審議に向つて進行し、改正と云ふよりは寧ろ立派なる條例案を制定せむことの研究を望む。

池田君、田中君の説は第一部委員會に於て取扱ふべきものなりと駁す。茲に於て、瀬戸君は第一部委員會甲、乙両部の權限に就て説明し、右田中君動議の趣旨は例會に於て取扱ふべきものにあらざることを陳ず。

座長、延期説は要するに三月と四月との相違までにして先づ、其各説に就て採決することを宣し、採決の結果來る四月まで延期のことに決す。

一、座長は、右にて一先づ當例會の豫定議案を附議し了れるが、尚、會員諸君にして何か提議され度きものあらば提出させられ度き旨を述ぶ。

一、茲に於て、設築君、建築期間短縮の一方法として、其使用材料を凡そ一定し、價格等の影響に困りて工事施行上に支障を來すことを防ぎ、斯くて工事を迅速に施行し得るよう研究するの要あり、斯の事は既に建築材料委員會に於て攻究すべきこなり居るも、其委員長を缺げる共に未だ何等の攻究を遂げられし事なし、委員中に材料供給者をも入れて、卑近なる問題より研究し行くことを希望する旨を述ぶ。

座長、建築業協會に於ても、全様に材料を各一定すべき事を研究しつゝあり、然るに、本會の第七部委員會にては未だ委員長も無き現狀に付早速互選されては奈何と諮る。

石田君、第七部委員少數に付委員を增加したる上委員長を互選することの適當なる旨を述ぶ。

茲に於て、座長は其增加の決議を望み、滿場之を議題することに異議なく、仍て採決の結果、第七部委員を增加することに決す。

一、座長は、他に重要なる事項ありや否やを諮り、別段左したる提案もなく、仍て、閉會を宣す、時に九時十五分。

編輯だより

▲本誌は第二輯第一號より思出多き『關西』の二字を保留し『日本建築協會雜誌』となりました、それ丈本誌の任務は重く益着實なる努力を要する事であります。

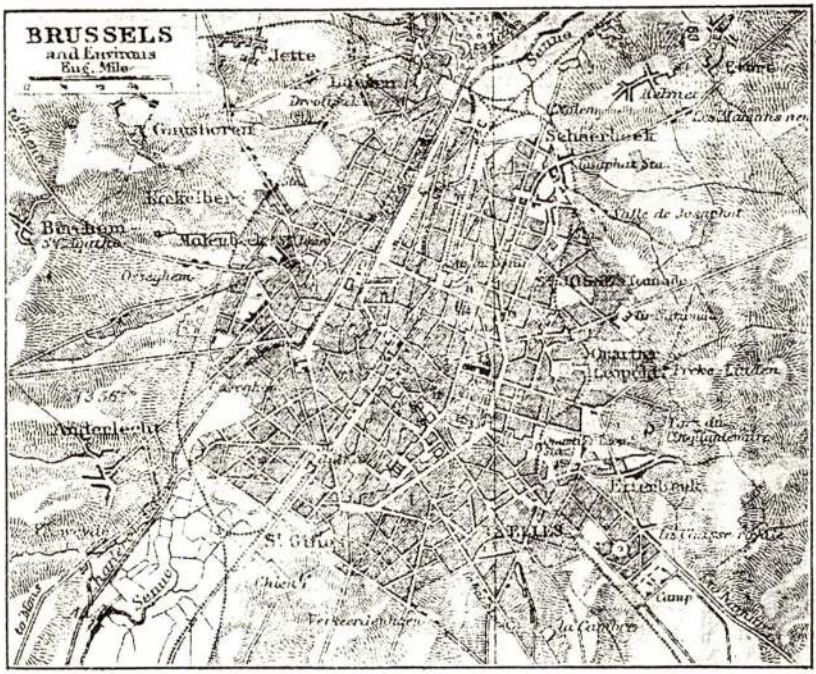
▲本誌は關西を中心として活動して居りますが、讀者の範圍は非常に廣く、愈眞價を認められて來ましたのは寔に光榮とする處であります。

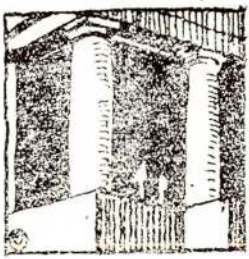
▲工學博士直木倫太郎氏の『大阪港の將來』は編輯上の都合から大變遲れましたのは誠に申譯がありませんが博士が、特に築港地圖並びに寫眞を貸與せられ本誌を飾りましたのは難有き仕合せであります。

▲本誌〆切は毎月五日と致しました、進んで御寄稿を下さる諸賢には御申越次第本誌原稿用紙を發送致しまするから、奮つて御投稿相成る樣願ひます。

▲本誌購讀御希望の諸賢は本會事務所宛御申越を願ひます、又購讀料金御發送の節は振替口座大阪三九九七五番宛に願ひます。

ブリュッセル市
建築條例
（下）





ブリュッセル市建築條例（下）

第十章　中　庭

第五十三條　總テ住居ニハ中庭ヲ有スベキモノトス其廣狹ハ場合ニ應ジ市參事會及助役ニ依テ決定セラルト雖其建物ノ在ル土地ノ面積ノ八分ノ一ヨリ少カラザルベシ

本規則施行前現存セル建物ヲ改築又ハ模樣替ヲ爲ス場合ニハ此命令ニ準據スルヲ得ザルコトヲ承認セラル

市參事會ハ特別ノ場合ニハ地積ノ八分ノ一以下ノ中庭ヲ認可スルコトヲ得

第十一章　屋根葺覆材料

第五十四條　總テ公道ニ沿フ建物ハ石盤瓦又ハ金屬ヲ以テ葺クベシ

瓦ノ色ハ市參事會及助役ノ同意ヲ得タルモノタルベシ

「マンサールド」ノ傾斜面ハ瓦ヲ以テ葺クコトヲ禁ズ

葭又ハ其他ノ可燃質物ヲ以テ葺クコトヲ禁ズ

「マンサールド」屋根ノ初メノ勾配ハ水平トノ夾角七十度以上ニ超ユルコトヲ得ズ

此斜面ニハ充分ナル員數ニ於テ屋根職ノ足代又ハ梯子ノ支持方ヲ安全ニスル爲メ金屬製ノ鉤ヲ取付クベシ此等ノ鉤ハ屋根葺工事中取付ケ置クベシ

第十二章　樋

第五十五條　新古ヲ問ハズ總テ公道ニ沿フ建物ハ雨水ヲ受クルニ充分ナル寸法ノ金屬製樋ヲ取設クベシ

第五十六條　若シ雨水ヲ建物ノ內部ニ引入レザルトキハ歩道ノ下ニ之ヲ吐出セシムル樣金屬製ノ管ニヨリ垂直ニ地面ニ導クベシ

此等ノ管ハ建物前面ノ壁面ラニ取付街規線ヨリ十二仙米突以上突出セシムベカラズ又此等ハ下部歩道面ヨリ上二米突二十五仙ノ處迄鐵製タルベシ

第十三章　煖爐、吹子場、竈竈

第五十七條　煖爐、吹子場、竈竈等ハ火災ノ危險ニ對シ充分ノ注意ヲ以テ簡易ニ掃除シ得ル樣構造シ持主ハ斷ヘズ之ヲ完全ナル狀態ニ維持スルモノトス

第五十八條　竈底又ハ煖爐灰止石ノ下ハ甲乙梁ノ構造ヲナスベキモノトス

竈底又ハ灰止石ヲ木ノ床板、根太又梁

ノ上ニ据ルコトヲ禁ズ

第五十九條　總テ煖爐ハ厚ミ少クモ十仙米突以上ナル石或ハ煉瓦ノ迫持ノ上ニ据付クベシ

第六十條　木ヲ用ヒタル間仕切壁ニ煖爐ノ上ハ飾リ又ハ烟管ヲ取付クルコトヲ得ズ

第六十一條　煖爐ノ烟管ハ總テ木製ノ物体ヨリ充分ノ距離ヲ保チ且火災ノ虞ナキ樣注意ヲ以テ構造スベシ（千八百六十八年四月二十七日發布ノ火災豫防法參照）

第六十二條　屋根上ニ出ル煖爐ノ胴反烟管ノ高サハ町ニ面スル建物又ハ後部ニアル建物トヲ問ハズ屋根ノ斜面ノ下端ニアルトキハ（寸法ハ最モ低キ方ノ側ニ於テ測リ）少クトモ二米突二十仙其他ノ點ヨリ出ルトキハ一米突ノ高サヲ有スルモノトス

附屬家ノ烟突ハ本館後面ノ壁ニ沿ヒ之ヲ設ケ其建物ノ蛇腹ヨリ少クトモ二米突上ニ吐口ヲ置クベシ

總テ烟管ノ上部ニハ簡易ニ塗スルコトヲ得ル樣設備スベシ

第六十三條　煖爐ノ煙管又ハ如何ナル性質タルヲ問ハズ他ノ煙又ハ蒸汽ヲ導ク管ノ吐口ヲ公道上ニ設クベカラズ

第六十四條　公道ニ面スル壁中ニ煖爐ノ烟管ヲ設クルニハ其壁厚少クモ三十八仙米ニテ其烟管ヲ取付クル部分ノ窓間ノ壁ハ九十仙米突以上ノ巾ヲ有シ且烟管ト壁ノ外面ノ間ニ十八仙米ノ石又ハ煉瓦ノ厚ヲ有スルニアラザレバ之ヲ實行スルコトヲ許サズ

共界壁ニ於テハ煖爐灰止所近ニアル梁ハ壁厚ノ半以上壁ニ積込ムコトヲ得ズ

共界壁ノ中ニ新ニ煖爐又ハ火床ヲ設クルモノハ其隣家ノ梁ヲ切縮ムル義務アルモノトス（民法六百五十七條）

第六十六條　桶職工場ノ煖爐ハ少クトモ其巾一米突二十仙ヲ要ス而シテ此煖爐ヲ設ケアル工場ハ同時ニ材木又ハ其他ノ可燃質物ノ置場トスルコトヲ禁ズ

第六十七條　旅舘、旅籠屋、珈琲店又ハ居酒屋等ハ市役所係員ガ其主ナル集會所並ニ秣及寢藁舍等ヲ檢査シタル上ニアラザレバ開業スルコトヲ得ズ

第六十八條　吹子場、窯、竈ハ全部石、煉瓦又ハ瓦或ハ鐵製タルベシ、窯ハ地下及地階ノ外設クルコトヲ得ズ吹子場竈ハ地階以上ニ設クルトキハ公共安全ノ爲市參事會及助役ニ於テ命スル條件ヲ遵守スルニアラザレバ設クルコトヲ得ズ

何人ト雖吹子場、窯又ハ竈ヲ共界壁又ハ普通ノ壁ノ際ニ設ケントスルモノ又ハ此壁ニ面シ厩場ノ置場、或ハ酸化性ノ材料ノ貯藏ヲ設ケントスルモノハ少クモ十仙米突ノ空虛ヲ其壁面ト設ケントスル構造物トノ間ニ存スベシ（民法六百七十四條）

此空虛ハ空氣ノ自由ニ流通シ又接近セル壁ノ加熱ヲ防ク爲兩端又ハ上部ニ於テ閉塞スベカラズ

第六十九條　市參事會及助役ハ竈、吹子場、製造所及蒸汽機關ノ煙突及其他總ノ工場或ハ特ニ前以テ許可ヲ受クベキ性質ノ各種ノ操業場ノ高サヲ決定ス

市參事會及助役ハ其豫定セル時期ニ於テ吹子場、窯及竈等ヲ臨檢セシム持主ハ火災ヲ豫防スルニ必要ナリト認メラレタル修繕ヲ實行スベキモ

ノトス

第十四章　特別構造物
—認許

第七十條　何人ト雖前以テ特ニ市參事會ヨリ認許書ヲ得ルニアラザレバ左ノ事ヲ爲スヲ得ズ

(イ)糞尿溜、肥料、腐敗物ノ溜桝ヲ公道ヨリ如何ナル距離ニアルニ拘ラズ又其地所ノ外構ニ依テ圍繞セラレ居ルト否トヲ問ハズ之ヲ新設、修繕、取毀人ハ廢止スル事

(ロ)下水、下水ノ支管或ハ上水管ヲ公道内又ハ私有地ノ内部ニ於ケルトヲ問ハズ之ヲ新設、改設又ハ變更、修繕或ハ廢止スルコト

第七十一條　認許ノ出願ハ持主ニ於テ月日ヲ記入シ姓名ヲ署シ市參事會及助役ニ呈出スベシ

第七十二條　總ノ認許出願ニハ左記ノ圖面二通宛ヲ添フベシ

(ア)第七十條(イ)項ニ關スル工事ニ於テハ

一、施行ノル工事ノ平面圖

二、糞尿溜、肥料溜等ノ位置ノ外其附近ニアル井戸、用水溜等ノ位置ヲ示ス地圖

(イ)同條(ロ)項ニ關スル工事ニ付テハ

一、下水、下水ノ支管及上水管ノ平面及斷面圖

二、下水及其支管通風ノ方法及此等ガ一般ノ疎通法ト如何ナル關係ナルヤヲ示ス斷面圖

第七十三條　此等ノ平面、斷面等ノ圖ハ持主ニ依テ月日ヲ記入シ署名シタルモノニテ寫布上ニ一米突ニ付二仙米突ノ尺度ヲ以テ精確ニ墨汁ヲ以テ引キ着色書入等ヲ施スモノトス

修繕或ハ模様替ノ工事ナルトキハ保存スル部分ハ墨、取毀ノ部分ハ黄、改築スル部分ハ赤ヲ以テ引キ或ハ着色スベシ

願書受付ノ際ハ二通共捺印シ若シ變更アル場合ニハ之ヲ更正シタル上一通ハ綴込ニ綴リ一通ハ之ニヨリ精細ニ準據シテ施工スル爲關係者ニ返付スルモノトス

第十五章　下水—支管

第七十四條　新築建物ノ地下室ノ床ハ汚水及時ニシテハ排泄物ヲ流下セシムル管ヲ布設スルニ差支ナキ高サニ設クベシ而シテ此支管ヲ其處ニ公設下水スル場合ニハ其中ニ流通スル物ノ水準ニ相當セル點ニ於テ之ヲ接續スベシ

第七十五條　道路ニ汚水及排泄物流下スル公設下水ノ布設アル場合ニハ之ニ接シ建物ヲ有スル土地ノ所有者ハ汚水排泄物ヲ此下水ニ流下スル管ヲ設クベキモノトス

各家屋單ニ公設下水ニ連絡ヲ付クベシ

第七十六條　市參事會ハ其必要ト認ムル條件ノ特別命令ヲ下ダシ公設下水ニ工業ヨリ生ズル惡水並ニ蒸汽及攝氏三十度以上ノ溫度ヲ有スル水ヲ流下スル支管ヲ設クルコトヲ許可スルコトヲ得

第七十七條　私設ノ支管ハ藥引陶製又ハ酸化セザル鑄鐵製ノ鍔付ノ管ヲ用ヒ硬キ地盤又ハ管ガ常ニ濕潤ノ敷ニ不陸ヲ生セズ定置セラル、樣厚二十仙米突ノ混凝土ヲ打チ其ニ設クベシ

繼手ハ内部ニ喰ミ出ス事ナク且漏水ノ恐レナキヲ要ス

支管ハ直線ニ布設シ其公設下水トノ取合ノ點ハ檢査スルニ便利ナル構造タルベシ

其傾斜ハ一割ニシテ最少限ハ一米突ニ付三仙米トス

其水上ミノ一端ハ普通地下室ノ床ノ水準ヨリ少クモ二十仙米突以下ニアルベシ

下水管及壁ヲ橫斷スル場合ニハ之ニ迫リテ掛クルカ又ハ丈夫ナル楣ヲ渡シ其下端ト管ノ間ニハ建物沈下ノ場合ニ於ケル準備トシテ七十五密米突ノ空虛ヲ存スベシ

下水管ニハ其用途ニ應ジ充分ナル斷面積ヲ付スモノトス其直經ハ十仙米突以下トスルコトヲ得ズ

第七十八條 場合ニヨリテ私設支管ヲ地下室ノ床面以下ニ布設スルコト能ハザルトキハ之ヲ壓ノ上ニ置クカ又ハ管一本毎ニ二本宛ノ鉤リヲ以テ之ヲ鉤ルコトヲ得

第七十九條 私設支管ハ上部ニアル諸管ハ勿論總テ建物ノ下或ハ中庭ノ地盤以下ニアル部分トモ空氣ノ流通ヲ完全ナラシムル爲其兩端ニ於テ換氣管ヲ備フベキモノトス

私設下水管中ニアル孔ニテ換氣用又ハ檢査ノ爲メ要ナキモノハ完全ナル栓ヲ施スモノトス

第八十條 下水ニ直接連續スル「サイフオン」的檢査口ヲ床ノ敷瓦又ハ床板ノ內ニ造リ込ムコトヲ得ズ

第八十一條 私設支管ノ線中地下室內建物前面ノ壁際ニ於テ達シ得ベキ處ニ一段其口ヲ低クシ「サイフオン」ヲ挾入スヘシ此「サイフオン」ハ下水管ヨリ少シ小ナル徑ヲ有スルモノトス其兩端即チ水上及水下ニ於テ一ハ通氣孔一ハ掃除口ノ爲穴ヲ備フベシ其檢査又ハ浚ヘ方等ニ用フル穴ハ密閉スベキ蓋ヲ備フルモノトス

換氣用ニ供セラルヽ水上ミノ孔ハ一ノ支管ヲ取付前庭又ハ前面ニ庭園アル家ニ於テハ住居ヨリ最モ離隔セル點ニ導キ其處ニ於テ地盤又ハ地盤ヨリ少シ上ニ吐口ヲ設ケ又直ニ町ニ面スル家ニ於テハ建物前面ノ壁ニ沿ヒ直立セシメ其上端ヨリ吐出スル瓦斯ノ建物中ニ入ヲザル樣充分ナル高サニ導キ吐口ヲ設クベシ

第八十二條 私設支管及之ト內部ニアル諸管トノ接續點ハ其裝置ノ良好ニシテ且漏水ノ恐ナク使用上差支ナキコトヲ保證スル爲メ施ス工事ノ檢査ヲ受ケ之ヲ結了シタル上ニアラザレバ埋戻スコトヲ得ズ此檢査ハ市役所ニ於テ任命シタル其係員ニ依テ執行セラルヽモノトス

第八十三條 私設下水ト公設下水トノ連結ハ新設ノ場合ニ於テハ私有地ノ境界ヨリ公設下水ニ至ル迄ノ間ハ持主ノ費用ヲ以テ市役所ノ監督ノ下ニ之ヲ行フモノトス

第八十四條 大便所、小便所及此等ノ排泄物ヲ受クル流シノ流下管ハ其內ニ疏通サルヽ物質ニヨリ作用ヲ受ケザルモノニシテ其內面ヲ滑カニシ繼手ヲ少クシ且漏水ノ虞ナク內部ニ凸出物等ナキモノタルベシ

此等ノ管ハ八乃至十仙米突ノ內徑ヲ有シ途中栓等ヲ設ケズ直接私設下水ニ連接スベシ此等ノ管ハ直徑ヲ減ズルコト

ナク又出來得ル限リ屈曲ヲ避ケ垂直ニ家根上マデ延長シ汚穢ナル空氣ノ吐口ヲ充分ノ高サニ置クベシ

最高所ニアル便所ヨリ上ニ延長スル部分ハ鑄鐵管ニテ繼手ヲ打込ミタルモノヲ使用スルコトヲ得

流下管ノ上端ハ總テノ窓、屋根窓或ハ突上ケ窓、風穴或ハ住室ニ通ズル煙突ヨリ少クトモ二米突ノ距離ヲ保ツモノトス

此等ハ一米突五十仙以内ノ間隔ニ堅固ナル壁ニ取付ケ其下端ニハ踵形管ヲ丈夫ナル礎盤ノ上ニ定置スベシ

第八十五條 鉛又ハ不酸化質ノ鑄鐵管ヲ特ニ汚水疎通用トシテ可成垂直ニ取付クベシ其垂直管附近ノ壁ニ垂直ノ部分ハ一米突五十仙以内其他ノ部分ニ於テハ六十仙米突以内ノ間隔ニ取付ケ其下端ニハ踵形管ヲ堅固ナル礎盤上ニ据クベシ

厨房ノ流シ、汚水流シ、噴水、手洗所湯殿ヨリ生ズル汚水及溢水ヲ流下スル管ヲ便所ノ流下管ニ接續スルコトヲ得ズ之等ハ建物ノ外壁ヲ横斷シ中庭ニアル吸水口ノ金網ノ上部又ハ其下部ニ於テ外氣中ヘ吐口ヲ設クルコトハ適宜タルベシ

第八十六條 貯水函及用水溜ノ溢水管並ニ湯殿便所等ノ敷ヲ流ルヽ水ヲ集メ流下セシムル管ハ直ニ下水又ハ排泄物流下管ニ接續スルコトヲ得ズ

空氣ヲ切斷シ一部ノ換氣ヲ計ル裝置ヲ私設支管ト總テ用水溜溢水管トノ間ニ設クルモノトス其他前項ニ揭ゲタル溢水管ハ建物ノ外壁ヲ横斷シ其外面ヨリ十仙米突ノ處ニ於テ地盤ニ達シ其用途ニ設ケアル溝渠ノ上ニ吐カシムルモノトス

第八十七條 汚水流下管ガ單ニ一箇ノ衛生器ニ通ズルトキハ其器具ノ下ニアル「サイフォン」ノ直ク水下ニ於テ此管内ノ通風ヲ施スニ止ムルコトヲ得然トモ若猶上部ニ於テ他ノ衛生器ガ同一ノ流下管ニ取付ラルヽトキハ第八十四條ニ揭ゲル如ク此管ハ垂直ニ屋根上マデ延長スベキモノトス

第八十八條 便所ノ汚物管及厨房流シ、汚物流シ、噴水水出シ口、手洗所又ハ湯殿ノ汚水管又ハ溢水管共石又ハ煉瓦ノ壁中ニ積込ム事ヲ禁ズ、此等ノ管ハ容易ニ達シ得ベキ樣布設スベキモノトス又此等ノ管ニ付屬スル換氣管モ同樣ト心得ベシ

第八十九條 下水ノ支線設置ニ關スル課稅ハ千八百八十一年八月二十五日勅裁同年同月二十日附ノ官令ニ據リ決定ノ上下記ノ如クノ之ヲ定ム

下水支管ヲ設クル地籍一件毎ニ左ノ如ク徵取ス

第一　百「フラン」ノ定課稅

第二　其地籍ニ課セラヽ地稅額ノ百分ノ五ニ相等スル賦課稅

第三　支管ヲ設置スルニ付キ公道中ニ行フ溝堀ノ面積各一平方米突ニ付キ一「フラン」一米突以下ノ面積ハ一米突ト算ス

此納付金ヲ納ムルコトニ依テ市ハ敷石ノ復舊ヲ爲スモノトス

若シ一箇ノ下水支管ヲ有スル一箇ノ所有地ガ確然數多ノ住居ニ分割サルヽ場合ニハ各新住居毎ニ百「フラン」ノ定

課税及従前ノ地租額ノ増加セラルヽ額ニ對シ百分ノ五ノ賦課税ヲ徴取ス

賦課税ハ各新規ノ地籍一件ニ於テ徴取セラルヽ地租ニ比例シ分納スルモノトス

此等ノ租税ハ土地所有者ヨリ市税徴收ノ諸規則ニ據リ徴取スルモノトス

不動産ノ所有權ノ移動ノ場合ニ其以前ノ所有者ハ其義務ヲ免ルヽコト能ハズ百「フラン」ノ定課税ハ新築ノ許可ヲ受ケタルトキ賦課税及一平方米突ニ付一「フラン」ノ納入ノ地租税額決定ノ上之ヲ關係者ニ通知ノ上ハ直ニ納入スベキモノトス

既設下水支管ニシテ千八百四十一年五月二十九日決定ノ賦金ヲ既ニ納付シタルモノハ更ニ本則規定ノ諸税ヲ納ムルニ及バズ

第十六章　両便所及各種ノ衛生器

第一部　水便所及水ヲ使用スル衛生器

第九十條　總テノ住居ハ清潔ニシテ且ツ完全ナル便所ノ設備ヲ要ス

本則施行後ニ構造スル便所ハ左記ノ條件ニ合格スベキモノトス

(イ)壁ノ側面少クトモ一箇所ノ外氣ニ接スルコト

(ロ)便所ハ住室及工場又ハ食料品ノ製造、準備並ニ貯藏ニ充ツタ所ト直接ニ通ズルコトヲ得ズ

(ハ)便所ガ此等ノ場所ノ或一箇所ニ隣接スルトキハ其仕切壁ハ床ヨリ天井ニ達スル迄總高サニ不滲透質ノ材料ヲ以テ構造スベシ

(ニ)便所ノ床ハ平滑ニシテ又相當ニ不滲透質ノモノヲ以テ覆フベシ

(ホ)低キ中庭又ハ其他巾一米突五十仙以上シニテ其面積四平方米突以上ヲ有スル明地ニ於テハ地盤以下ニ便所ヲ設クルコトヲ得此場合ニハ其便所ノ入口ハ其中庭又ハ明地ノ内ニ設クベキモノトス

(ヘ)總テノ便所ニ完全ナル戸締ヲ要ス其外壁ノ内ニハ一箇ノ窓ヲ設ケ少クトモ其硝子面積三十六仙米突平方開閉シ得ル部分十二仙米突平方ヲ有スベキモノトス

(ト)便所ノ換氣ヲ保證スル相當ノ設備ヲ要ス

第九十一條　總テ水便所ハ平滑ニシテ水ヲ吸收セザル物質ヲ以テ底部ニ充分ナル分量ノ水ヲ湛ヘ又其中ニ落ル物ガ周圍ヨリ自由ニ滑落ヲ直ニ水中ニ入ル樣製セラレタル一箇ノ受器ヲ備フベシ

此受器ハ常時六仙米突以上ノ水塞ヲ保チ得ベキ「サイフォン」ノ裝置ヲ備フベキモノトス

第九十二條　二箇以上ノ便所ガ一本ノ共通ノ汚物流下管ニ接續スルトキハ其各枝管ハ「サイフォン」ノ水下ニ於テ其上部ヨリ八仙米突乃至三十四仙米突ノ間ニ流下ノ方向ニ傾ヒ取付クル鉛管ニヨリ換氣ノ設備ヲ爲スベシ此管ニ内徑量少限五仙米突ニシテ内徑同五仙米突以上ノ第二ノ換氣或ハ「サイフォン」切斷管ノ上部其同一系統中最高所ニアル便所ヨリ一米突五十仙高キ點ニ於テ汚物流下管ニ吐口ヲ取付アル管ニ接續スベシ

第九十三條　總テノ便所ハ其受器ヲ洗滌スルニ適當ナルノミナラズ空氣切斷用

ノ水ヲ交代セシメ又受器中ニ入ル、固体液体ヲ論ゼズ迅速ニ且完全ニ流下スル掃溜裝置ヲ備フベシ

此洗濯ニ要スル水ハ家屋内ニ於ケル飲用水配置ノ管ト便所トノ間ニ直接ノ連絡起ラザル如キ狀態ニ於テ供給スルモノトス

數箇ノ小便所ヲ一箇所ニ連續シテ取付ルトキハ其裝置ガ清潔法ニ關シ要スル件ヲ確保スルニ足ル場合ニ限リ一箇ノ通風裝置アル「サイフォン」ノ上ニ之ヲ流下スルコトヲ許可スルコトアルベシ

第九十四條 現存セル便所ニ模様替ヲ施サントスルトキハ其持主ハ第九十條ヨリ九十三條迄揭クル命令ヲ遵守スベキモノトス

第九十五條 小便所ハ平滑ニシテ且不滲透質ノ材料ヲ以テ掩ヘ換氣ノ裝置アル「サイフォン」ヲ備ヘ其縁緣、洗濯及流下管等ニ付テハ大便所ト同一ノ方法ヲ以テ取扱フベシ

第九十六條 厨房流シ、汚物流シ、噴水水出シ口、手洗所、風呂其他水ヲ使用スル器具ハ總テ便所ニ關シ規定セル規則ニ遵ヒ完全ナル「サイフォン」及技管ヲ取付且換氣ノ法ヲ施スベシ

第二ノ換氣管或ハ「サイフォン」切斷管共內徑三仙米突以下ノ管ヲ使用スベカラズ

第九十七條 新築ノ建物又ハ模様替ヲ爲シタル建物ハ便所ノ流下管、衛生器、汚水管及暗渠等ヲ市吏員ニヨッテ檢査ヲ受ケタル後ニ非ザレバ之ニ住居シ又使用スルコトヲ禁ズ

第九十八條 總テ持主及借家人共此等疎通法ノ狀態ヲ檢査スル爲メ臨場スル市吏員ニ便宜ヲ與フベキモノトス

第二部　吸收物ヲ使用スル便所

第九十九條 本則施行後建設セラルー土便所ト稱シ吸收物ヲ使用スル便所ハ附屬家トシ本住居ノ建物ノ外ヨリスルニ非ザレバ達シ得ザル所ノ外設クベカラズ

外壁ノ一面ニ窓ヲ設ケ之ヲ天井迄達セシムベシ其硝石ノ面積少クトモ四十仙米突平方開閉スル部分ハ二十仙米空氣流ノ爲メ壁又ハ戸ノ下部ニ穴ヲ設クベシ

第百條 總テ此種ノ便所ニハ土又ハ吸收材料ヲ貯フル槽ヲ備ヘ定則トシテ排泄物ニ此等ノ材料ヲ充分ナル分量ニ於テ混和スベキモノトス此槽ハ常ニ天水又ハ家屋ヨリ出ル汚水等ニ浸染セザル様防備ヲナスベシ

第百一條 土便所又ハ吸收物使用ノ便所ニ於テハ必ズ容積百二十「リットル」以下ノ小桶ヲ座ノ下ニ容レ之ニ排泄物ヲ受ケ次シテ其緣ヲ汚サヾル様設備スベシ

此小桶ハ容易ニ達シ得可ク又何時ニテモ取出スコトヲ得ベキモノタルベシ

第百二條 一箇ノ家屋ガ多數ノ寄住所ニ分タルヽトキハ其持主ハ一家族又ハ少クトモ人員十二人ニ就テ一箇所ノ割合ヲ以テ水便所ヲ設クベキモノトス

工場ニ於テハ便所ノ割合ハ二十五人ニ付キ一箇トス

第十七章　水ノ供給、井戸

水槽、水溜桝

古井戸、浸込桝

糞尿溜、塵芥溜

第百三條　住居ノ目的ヲ以テ建タル總テノ家屋ハ完全ナル飲用水供給ノ裝置ヲ供フベシ厭力給水ノ配水ニ於テハ給水栓ニ通ズル配水管ハ直通スルモノトス飲用水ハ如何ナル種類タルヲ問ハズ水槽ニ溜ムルコトヲ禁ズ

飲用水　配水管ト下水ノ支管又ハ之ニ連續スル衛生器トノ間ニ直接連絡アルヲ許サズ

第百四條　建物ノ位置ノ具合、其公道ヨリノ離隔、勾配其他ノ點ニ於テ不都合アル場合又ハ完全ナル方法ニ於テ公設下水ニ連絡スル事能ハザル場合ノ外排泄物疎通ノ爲メ設ケラレタル下水アル地域ニ於テ糞尿溜ヲ設クルコトヲ得ス私設下水ヲ糞尿溜ニ連絡シ之ニ汚水ヲ流入セシムルコトハ前項同樣不可能ノ理由アルニアラザレバ之ヲ許サズ

第百五條　總テ糞尿溜ハ出來得ル限リ住居及井戸ヨリ離隔セル場所ニ置クベシ其溜ハ汲出シ又ハ浚掃スル爲メ容易ニ外部ヨリ到達シ得ベキ樣其位置ヲ撰ミ且其構造ヲ爲スベシ

此溜ニ排泄物及汚水ヲ導ク地中管ニ就テハ第七十七條及第七十九條ニ揭ケル命令ヲ遵守スベキモノトス其便所ハ水洗ヲ使用スルモノニテ地中管中ニ第八十一條ニ準シ一箇ノ「サイフォン」ニ挾入スルモノトス

糞尿溜ト私設下水管又ハ溢水管トノ連絡ハ第百四條ニ揭ケル場合ヲ除ケノ外之ヲ連絡スルコトヲ許サス

第百六條　糞尿溜ハ垂直圓錐形ヨリ其低半球ノ內面ノ如クシ「セメント」「モルタル」ヲ用ヒ石又ハ燒過煉瓦積ヲ以テ構造スベシ其內面ハ「セメント」製ノ膠泥又ハ他ノ不滲透質ノモノヲ塗リ其外面ハ少クモ厚二十仙米突粘土ヲ塗リ又ハ瓦質ノ「コンクリート」ヲ以テ側ノミナラス其溜リ底面ヲモ覆フヘシ又此溜桝ノ上部ハ迫リ持圓天井トスヘシ其側廻リノハ厚ミ燒瓦二枚トシ底ハ一枚半トス

圓形ノ人孔ハ直徑少クモ八十仙米突トシ石ハ鑛鐵製ノ蓋ヲ其緣リ石ニ仕合セタルモノヲ以テ密閉スヘシ

糞尿溜ハ便所ノ汚水管ヲ其全徑ノ儘延長シ家根上ニ出シ總テノ窓、家根窓、風入窓、住室ノ烟突ヨリ少クトモ二米突以上離シタル所ニ吐口ヲ設ケタルモノニヨリ大氣トノ連絡ヲ附クルモノトス

排泄物疎通ノ爲メ公設下水ヲ設ケラルヘキ町ニ於テハ其兩側ニアル建物ニ付屬シテ設ケアル糞尿溜ハ其下水ノ浚工セル年內ニ廢スベキモノトス

第百七條　溜桝又ハ下水ヲ埋メ、廢止シ又ハ取毀ツ前ニ持主ハ全ク其底迄浚ヘ上ルモノトス之ニ就キテハ市參事會又ハ助役ヘ其作業監視ノ爲其着手四十八時間前ニ書面ヲ以テ届出ヘキモノトス

糞尿溜又ハ下水ノ取毀チヨリ出テタル材料ハ再ヒ他ノ構造ニ利用スルコトヲ得ズ

第百八條　糞尿溜ヲ掃除シ、浚ヘ又ハ修繕スル職工ハ其雇ハル、持主又ハ受負人カ決シテ危險ナキコトヲ確メタル後ニアラサレバ其內ニ入ルベカラズ

何レノ場合ニ於テモ豫備トシテ其內部ニ働ク丈ケノ員數ニ於テ溜ノ外部ニ職工ヲ置クベシ

溜ノ內部ニ働ク職工ハ各自帶ヲ〆メ之ニ其一端ハ常ニ外部ニアル職工ニヨリ

保タルヽ紐又ハ網ヲ結ヒ付クヘシ

若シ變災ノ起リタル場合ハ直ニ工事ヲ中止シ同日中ニ警察署ヘ其旨届出スヘシ市役所ノ許可ヲ得且其命セラレタル件ヲ遵守スルニ非サレバ再ヒ着手スヘカラズ

第百九條 總テノ肥料置場ハ現在ノ家屋及將來家屋ヲ建ツヘキ處又ハ公共ノ建物又ハ商工業ニ利用シ得ル場所井ニ井戸ヨリ最モ離レタル處ニ設クヘシ

第百十條 肥料溜ハ容易ニ達シ得ヘキ樣設クヘシ其形狀及構造方ハ其上部ノ圓天井ヲ不滲透質ノモノヲ以テ拵ヘタル蓋ニ取換フルコトヲ得レトモ其他ハ總テ第百六條ノ最初ノ二項ニ揭クルトコロニ準據スヘシ

第百五條ノ末項モ亦此肥料溜ニ適用ス

第百十一條 定置セル肥料置場ハ地上ニ設クルコトヲ得

之等ハ「コンクリート」又ハ石、煉瓦等ヲ以テ拵ヘ內部ヲ「セメント、モルタル」ヲ以テ塗ルヘシ底ハ成ルヘク「コンクリート」ヲ可トス

之等ハ不滲透質物ノ蓋ヲ備フヘシ

總テノ肥料溜ハ通氣ノ爲メ內徑十五仙米突ノ暗拔ノ管ヲ備ヘ近隣ノ迷惑トナラサル樣屋根上ヘ其吐口ヲ出スヘシ

第百十二條 井戸ハ運轉井戸煉瓦ト稱スル異形煉瓦ヲ以テ構造シ其煉瓦積ハ厚ハ仙米突以上樫又ハ檜ノ木ヲ以テ製リタル臺輪又ハ二十五密米突以上ノ厚サアル鑄鐵製ノ環ノ上ニ据ユルモノトス

第百十三條 井戸ヲ堀ル時ハ其持主ハ其側ノ外圍ヨリ上迄ハ二十五仙米突以上其假枠迄ハ十仙米突以上ノ空虛ヲ殘ス事ヲ得ス又此假枠ト土トノ間ニハ藁ヲ詰メ込ムヘシ

第百十四條 井戸側、水溜、又ハ肥料、塵芥其他ノ溜桝ノ壁ハ家屋ノ基礎ヲ構成スル壁ヨリ少クトモ十仙米突ノ空虛ヲ存シ獨立離隔セシムルモノトス

石又ハ煉瓦造ノ水溜ノ壁及底ハ二十八仙米突以上ノ厚ヲ有シ其內部ハ「セメント」又ハ他ノ不滲透質ノ物質ヲ以テ塗ルヘシ其角ハ何レモ丸形ニスルモノトス

第百十五條 井戸、水溜又ハ其他ノ溜桝トノ間ニハ二米突以上ノ距離ヲ存スルモノトス

第百十六條 總テノ井戸、水溜ノ上ハ口ハ石蓋又ハ鑄鐵ノ蓋ヲ以テ閉ツルモノトス然トモ中庭、庭園又ハ住居ニアラサル場所ニ堀リタルモノニハ之ヲ開ケ置クコトヲ得此場合ニハ高サ一米突以上アル人除ケノ爲ニスル厚二十八仙米突以上ノ煉化壁、厚十仙米突以上ノ花崗石板、又ハ之ニ匹敵スル金屬製ノ側ヲ以テ之ヲ圍繞シ置クヘシ

第百十六條 埋込井戸、埋込ノ水溜、吸込桝等ヲ設クルコトハ其合薯スル物質ノ何タルヲ問ハズ之ヲ嚴禁ス

第十八章 廐舍

第百十八條 馬、牛、羊、豚其他ノ家畜ヲ飼養スル爲メノ付屬家ハ下記ノ狀態ニ合格スヘキモノトス

此等ハ家屋ノ住室又ハ勞林ヲ貯フル小屋ト直通スヘカラズ少クモ之等ハ明キ開ナキ壁又ハ球形ノ迫リ持又ハ絕緣性ニシテ且不燃質ナル塗リ壁ヲ以テ遮斷スルモノトス

其容積ハ馬及牛ニハ一頭ニ付二十一立

方米突、羊、豚ニハ六立方米以上タルヘシ

此等ノ畜舎ハ相當ニ光線及空氣ヲ通ズルノミナラズ其家屋ハ住居スル者及近隣ノ者ニ迷惑トナラザル樣常時有効ナル換氣ノ裝置ヲ備フヘシ

其床ハ下水溝ノ方向ニ斜傾ヲ付ケ水ヲ吸收セサル堅密ナルモノヲ以テ敷設スヘシ

第十九章　崩壞ニ近キ構造物

第百十九條　或建物、外構壁其他總テ公道ニ接スル構造物カ崩壞ニ近キ時ハ市長ハ警部又ハ巡査ト共ニ一人ノ建物監視ノ任ニアル吏員ヲ派シ其狀態ヲ調査セシム其關係吏員ハ其箇所ニ關シ上申書ヲ呈出シ市長ハ之ニ據リ即時持主ニ注意ヲ與フルモノトス

第百二十條　若シ危險ニ瀕スルトキハ市長ハ持主ニ遲滯ナク其崩壞ニ近キ建物ヲ取毀ツコトヲ命令ス

此命令ノ履行ヲ拒絶シ又ハ遲滯スルトキハ持主ノ費用ニ於テ市長其構造物ノ修繕或ハ取毀ヲチヂ爲サシムモノトス

若シ危險ノ度ガ即時履行ヲ要セサルトキハ其場所ノ狀態並ニ其ヲ或一定ノ期間内ニ取毀チ修繕シ又ハ支持法ヲ施スヘキ命令トヲ通告スルモノトス

此工事ヲ命令ニ依リ定メラレタル期間内ニ着手竣工セシメサル持主ハ法廷ノ判決ニ付セラルヘシ

持主不在ノ場合ニ其修繕及取毀チノ工事ハ其者ノ費用ニ於テ市長ノ命令ニ依リ市ニ於テ之ヲ施ス

第百二十一條　下ニ揭クル場合ニハ何レモ其建物、外構壁、又ハ總テ公道ニ接スル構造物ニ取毀ツヘキモノトス

一、基礎ノ缺點アルトキ

二、一箇所タリトモ窓間ノ壁、二箇ノ接近セル入口ノ間ニ挾マル壁脚又ハ迫リ持受ノ壁脚ガ不完全ナル狀態ニアル時

三、第二項ニ揭クル所ノモノガ如何ナル狀態ニアルヲ論ゼス外壁ガ其厚サノ半以上倒レ居ルトキ

四、外壁ガ深キ龜裂チ有スルトキ

五、外壁ノ抉レ即チ上部ノ或ル床ガ後部ニ引ケ公道ニ反對ノ側ニ其丈ケノ突出チ生シタルトキ

六、外壁ノ下部ニ粂ミ出シタルトキ

七、右ノ外總テ建物又ハ外構壁ヲ問ハス杉廢構造ノ下艮、維持ノ不完全其他ノ原因ニヨリ崩壞ノ恐レアルモノ

第二十章　罰則—違反

第百二十二條　本規則ノ規定ニ違反ノ廉ハ當該警察官ノ報告及上申書又ハ其他總テ法定ノ手續ニヨリ調査シ仝時ニ其持主或ハ借家人、建築技師、受負者、石工世話役其他工事實行ノ指揮者ヲ責任者トス

其違反ノ廉ニ就テハ市參事會ニヨツテ決定セラルヘキ工事中止ノ外違警罪トシテ處罰セラルベシ

第百二十三條　前條ニ揭クル罰則ノ外場合ニヨリ裁判所ハ公共ノ爲又ハ內務省市役所人民タルヲ問ハス其要求ニ依リ違反者ノ費用ヲ以テ違反ノ工事ヲ施シタル場所ヲ除却又ハ取毀チ其原狀態ニ復舊スルコトヲ命ス

第二十一章　最後ノ規定

第百二十四條　本規則ニ反スル總テノ規定特ニ千八百八十三年一月八日及千八百八十五年十月五日議決ノ規定ハ之ヲ廢ス

右千九百六年四月二日ノ會議ニ於テ決議ス

議員

エミール、ド、モー

ア、ドエルショージエル

役員及職員

理事長　片岡安寶（主計）

理事　池田一郎（編輯）　野村瀧戸吾（編輯）　高日胖（編輯）　波江悌夫（主記）

編輯補　松本禹象　伊藤正文　佐藤四郎　本田登　江村郊

書記　小谷信藏　山崎萬壽夫

會員	一八二	會員（地方）	三一
名譽賛助員	一七	終身賛助員	三六
特別賛助員	五	普通賛助員	二二四

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金參拾錢	貳錢
	十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁	貳拾圓
	裏表紙表貳拾五圓	

大正八年二月二十日印刷
大正八年二月廿五日發行　（每月壹回廿五日發行）

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）

發行兼編輯人　伊藤幸太郎

兼印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地

印刷所　大阪活版所
大阪市東區今橋一丁目十一番地

發行所　日本建築協會
電話本局二二四一番
振替口座大阪三九、九七五

廣告目次

ハ、原安商會　二四
ニ、日本石綿盤株式會社　二二
日本コルク株式會社　一六
ヘ、米國貿易會社　裏表紙裏
ト、東松工作所　二八
チ、大阪窯業株式會社　二三
大阪煖房商會　二一　裏表紙表
大野式特許品營業所
リ、横河橋梁製作所　(前)二
ヌ、高田商會　一四
田中タイリング商會　一七
ル、土木建築内外材料合資會社　二五
ヲ、村井工業所　三〇
ワ、野澤幸三郎　一五
カ、松尾和助商店　一七
ヨ、建築事務所案内　四
建築請負業者案内　八
タ、コルク工業合資會社　(前)一
レ、榮進社　一八
ソ、秋山小林商店　二七
淺野スレート株式會社　二六
淺海商店　一三
ツ、明正社　二九
ネ、みよし組大阪支店　二〇
ミツワ電氣株式會社　一五
ナ、木材商案内　一二
ラ、石材商案内　一二
ム、須賀商會　二一
ウ、巣鴨製作所　一九